オーナーズマニュアル

SUPERSPORT

SUPERSPORT
SUPERSPORT S

オーナーズマニュアル

日本人

SUPERSPORT

SUPERSPORT
SUPERSPORT S

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。
本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要　7
安全性ガイドライン　7
本マニュアルで使用されている警告シンボル　8
用途　9
ライダーの義務　10
ライダーの教育　12
服装　12
安全のための"ベストプラクティス"　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　16
車両への積載に関する注意　16
危険物 - 警告　17
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20

インストルメントパネル（ダッシュボード）　21
インストルメントパネル　21
取扱説明書内で使用される頭字語および略語　26
技術用語集　26
機能ボタン　28
パラメーターの設定および表示　29
主な機能　36
エンジン回転数表示 RPM　38
車両スピード　40
ギア　42
燃料レベル　43
ライディングモード (RIDING MODE)　44
DTC　48
ABS　54
DQS　61
メニュー 1 の機能　63
オドメーター (TOT)　64
トリップメーター 1 (TRIP 1)　65
トリップメーター 2 (TRIP 2)　66
航続可能距離 (RANGE)　67
走行時間　68
時計　69
ラップタイム (LAP TIME)　70

メニュー 2 の機能　73
平均燃費　73
エンジンクーラント温度　75
瞬間燃費　77
平均スピード　78
外気温　79
サブ機能　80
インフォテインメント　82
メンテナンス表示 (SERVICE)　94
OIL SERVICE ゼロの表示　95
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示　96
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示　97
注意 / 警告 (WARNING)　98
エラー表示　101
サイドスタンドの状態の表示　102
設定メニュー　103
ライディングモードのパーソナライズ (RIDING MODE)　105
ライディングモードのパーソナライズ : パラメーターの保存　109
ライディングモードのパーソナライズ : エンジンの調整　111
ライディングモードのパーソナライズ : DTC レベルの設定　113
ライディングモードのパーソナライズ : ABS の調整　116
ライディングモードのパーソナライズ : DQS の起動/解除　119
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復　121
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)　123
PIN CODE　124
PIN CODE の変更　128
バックライト設定　134
DRL モード設定　136
時計の調整　137
日付の設定　139
サービス情報　144
LAP　146
単位の設定　153
バッテリー電圧　161
エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)　162
タイヤ設定　153
Bluetooth デバイス設定　167
ライトコントロール　183
イモビライザーシステム　191
キー　192
動作値　193
キーの複製　194

PIN CODE による車両の解除　195

運転時に必要なコマンド　197
コマンド類の配置　197
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　198
ハンドルバー左側スイッチ　199
クラッチレバー　200
ハンドルバー右側スイッチ　203
スロットルグリップ　204
フロントブレーキレバー　205
リアブレーキペダル　206
ギアチェンジペダル　207
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整　208

主要構成部品 / 装備　211
車両上の配置　211
燃料フィラープラグ　212
シートロック　213
ヘルメットキャリーケーブル　214
サイドスタンド　215
Bluetooth コントロールユニット　216
USB コネクター　218
ウィンドスクリーン調節　219
フロントフォーク調整アジャスター　222
フロントフォーク調整アジャスター　224
リアショックアブソーバー調整アジャスター　226
リアショックアブソーバー調整アジャスター　228

運転の方法　230
慣らし運転の方法　230
走行前の点検事項　232
エンジンの始動　234
車両の発進　236
ブレーキ操作　237
車両の停止　239
燃料の補給　240
パーキング　241
付属アクセサリー　242

主な整備作業とメンテナンス　243
フェアリングの取り外し　243
サイドフェアリング　244
エアフィルターの交換　246
クーラントレベルの点検および補充　247

ブレーキフルードレベルの点検　249
ブレーキパッドの摩耗点検　250
バッテリーの充電　251
冬季のバッテリー充電およびメンテナンス　253
バッテリーの取り外し　255
バッテリーの取り付け　256
トランスミッションチェーン張力の点検　257
チェーンの潤滑　259
電球の交換　260
ヘッドライトの光軸調整　263
リアビューミラーの調整　265
タイヤ　267
エンジンオイルレベルの点検　277
スパークプラグの清掃と交換　279
車両の清掃　280
長期間の保管　282
重要注意事項　283

メンテナンスプログラム　284
メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス　284
メンテナンスプログラム： お客様がおこなうメンテナンス　288

テクニカル仕様　289
重量　289
サイズ　290
補給　291
エンジン　293
タイミングシステム　294
性能データ　295
スパークプラグ　295
燃料供給　295
ブレーキ　295
トランスミッション　296
フレーム　297
ホイール　297
タイヤ　297
サスペンション　297
エキゾーストシステム　298
カラーバリエーション　298
エレクトリカルシステム　299

定期点検メモ　305
定期点検メモ　305

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。
Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。
お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします ページ 284 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。
モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正し

い使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告
これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。

警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。

警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルには、付属のキットを取り付けた状態でライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。付属キットは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでのみ取り付けることができます。

警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 410kg / 904lb を超えないようにしてください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは ページ 10 に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください (ページ 232 を参照)。

警告

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要

パッセンジャーは、パッセンジャーシートに取り付けられているベルトを常に両手で握ってください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告
モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告
燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

警告
燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 267 の"タイヤ"の段落を参照してください。

危険物 – 警告

使用済みエンジンオイル

警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント（エチレングリコール）は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

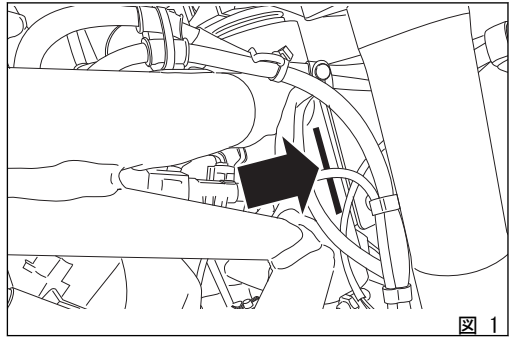


図 1

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

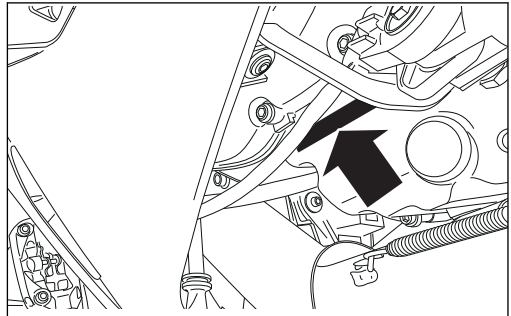


図 2

インストルメントパネル（ダッシュボード）

インストルメントパネル

1) LCD ディスプレイ
2) ニュートラルランプ N（緑）
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
3) 一般警告灯（赤）
警告灯はエンジン回転数が第一起点値に達すると点灯します。
4) ハイビーム表示灯 ≡D（青）
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
5) リザーブ燃料警告灯 ⛽（琥珀色）
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。点灯時点の燃料残量は約 4 リットル（1.06 ガロン）です。
6) ターンインジケーター表示灯 ⇦⇨（緑）
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
7) エンジンオイル圧警告灯 🛢（赤）
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

⚠ 重要
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DTC ステータスランプ（琥珀色）
DTC システムの起動または解除を表示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
DTC/DWC 機能作動中	DTC/DWC は起動しているが、まだ機能していない	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
DTC/DWC 機能作動中	DTC/DWC は起動しているが、システムの異常により性能が抑制されている	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない

9) ″エンジン診断 - MIL″ ランプ (琥珀色)
エンジンに関連するエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

10) ABS ランプ (琥珀色)
ABS 機能の状態を示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
-	ABS は起動しているが、まだ機能していない	ABS が解除されている、またはエラー発生
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
ABS 機能作動中	-	ABS が解除されている、またはエラー発生

11) 一般的エラー警告灯
車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。

12) OVER REV / イモビライザー停止（赤）

	Over rev
介入なし	ランプ OFF
第一起点値（リミッターに到達前 N RPM)	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF
車両 KEY-OFF	ランプ ON 点滅
12 時間以上車両 KEY-OFF	ランプ OFF

13) DTC 介入ランプ

	DTC
介入なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

参考
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

14) DRL ランプ（緑）
DRL ステータスを示します。

	DRL
機能していない	ランプ OFF
機能している	ランプ ON
機能しているがエラーが存在する	ランプ ON 点滅

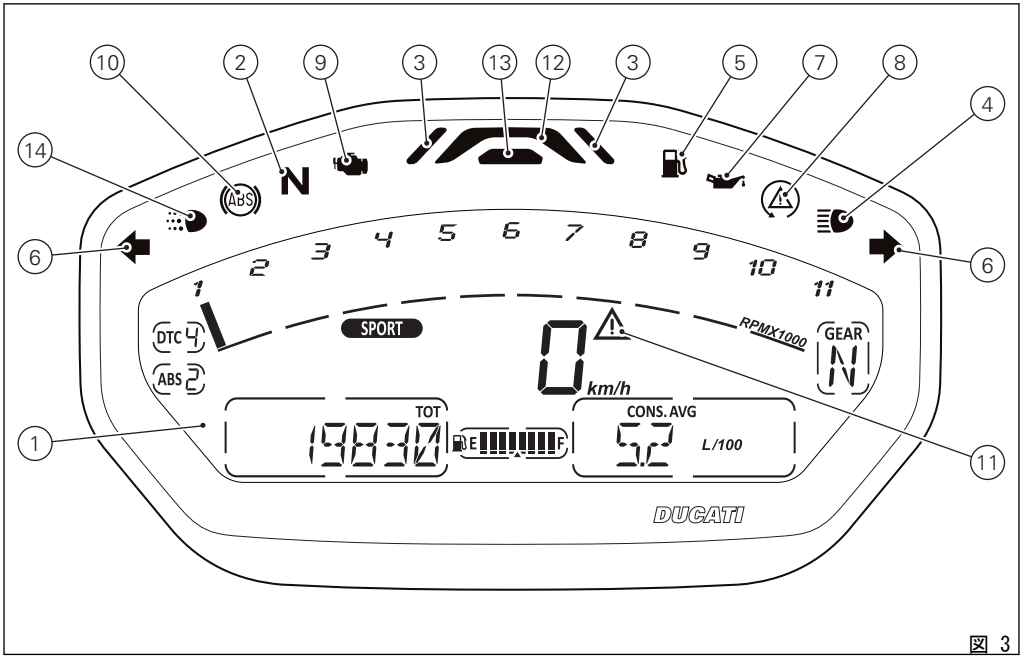

10
2
9
3
13
12
3
5
7
8
4
14
6
6
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
DTC
ABS
SPORT
RPMX1000
GEAR
N
0
km/h
TOT
19830
E
F
CONS. AVG
5.2
L/100
11
DUCATI

図 3

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DQS
ドゥカティクイックシフト
DRL
デイタイムランニングライト
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
EBC
ドゥカティエンジンブレーキコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット

技術用語集

ライディングモード

ライダーは 3 つの初期設定（ライディングモード）からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードからエンジン出力（パワーモード）、および ABS、DTC、DQS（SuperSport S のみ）の各介入レベルを瞬時に変更することができます。
選択可能な設定は、SPORT、TOURING、URBAN です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。
3 つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ（RbW）

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エン

ジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。
ライドバイワイヤにより選択したライディングモード（パワーモード）に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ（EBC）のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御（DTC）に貢献します。

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）9.1 MP

SuperSport が搭載する ABS 9.1MP は、バイクの直立走行中に車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。
ブレーキング時の短い制動距離に加えて、可能な限り高い安定性を確保するために、SuperSport の ABS は後輪のリフトアップ制御を実行します。
この機能には 3 通りのレベルが設定されています。ABS システムは解除が可能です。

ドゥカティクイックシフト（DQS）

ドゥカティクイックシフト（DQS）はレースで使用されるギアシフト電子制御システムです（SuperSport S のみ）。スロットルオープン状態の加速中に、クラッチを使用せずギアを挿入することができます。これにより 100 分の 1 秒を争うレースでラップタイムを縮めることが可能になります。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP ″ ▲ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▲ ″。
2) コントロールボタン DOWN ″ ▼ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▼ ″。
3) フラッシャーランプボタン
フラッシャーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。
4) ターンインジケーター解除ボタン
このボタンは通常ターンインジケーターの解除機能に使用しますが、メニュー決定、ライディングモードの選択にも使用します。
5) DRL ボタン
このボタンで DRL ライトを起動 / 解除します。
6) ハザードボタン
4 つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン（ハザード機能）。

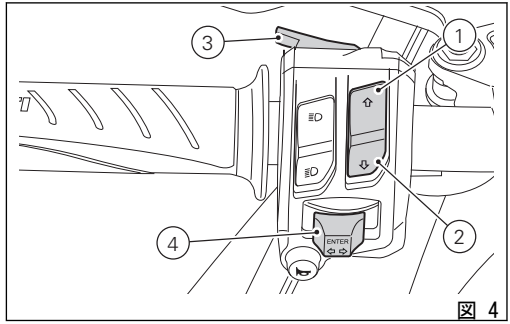


図 4

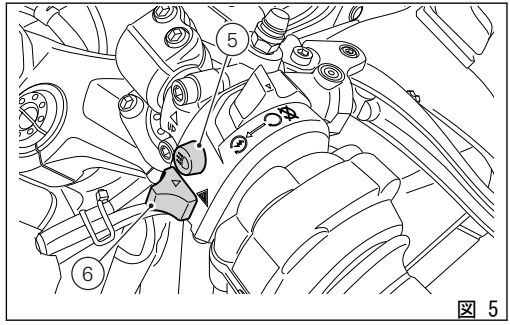


図 5

パラメーターの設定および表示

KEY-ON 時、インストルメントパネルは次のような動作を行います。

- ディスプレイのバックライトが点灯。
- タコメーターが点灯。"0" から "11000" まで増加したのち、"0" に戻ります。
- スピードメーターが点灯。数値が "0" から "300" まで増加したのち、"0" に戻ります。
- 警告灯類が外側から内側に向かって順に点灯。

点検が終了すると、インストルメントパネルは所定の機能が表示されるメイン画面（"スタンダードスクリーン"）に移り、警告がある場合は警告灯が点灯します。

点検中に車両速度が 5 km/h (3.1 mph) (実速度) を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

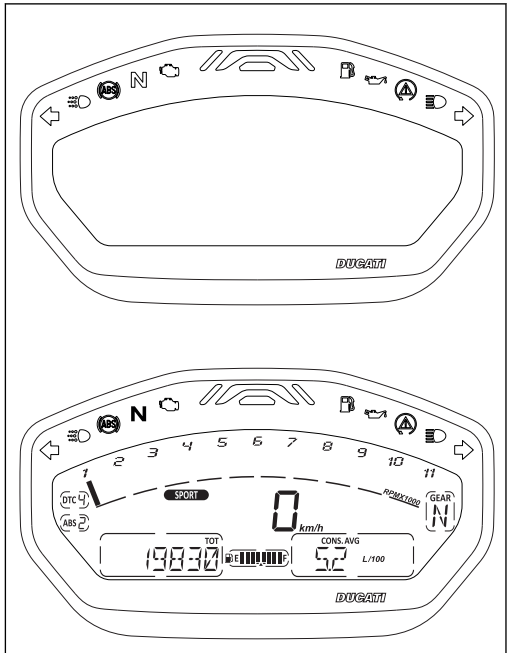


図 6

メイン画面には以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) メニュー 1（オドメーター、トリップメーター 1、トリップメーター 2、航続可能距離、トリップタイム、時計、ラップタイム（起動時のみ）、プレーヤー（Bluetooth 搭載している場合））
3) 燃料レベル
4) メニュー 2（平均燃費、クーラント温度、瞬間燃費、平均スピード、外気温、ヒーテッドグリップ（装備している場合））
5) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
6) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
7) ギア表示
8) 設定ライディングモード（Riding Mode）
9) 一般的エラー警告灯
10) タコメーター
11) インフォテインメント（装備している場合）
12) DQS シフトアップ機能が ON の表示（U）、DQS シフトアップおよびシフトダウン機能が ON の表示（U/D）、または DQS 解除の表示（SuperSport S のみ）
13) DRL ステータス（オート / マニュアル）

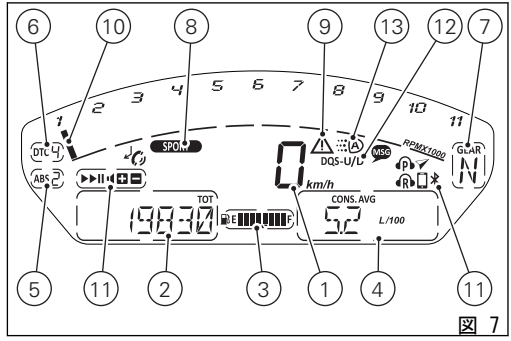


図 7

左側スイッチのボタン（1）を押すと、メイン画面にメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター（TOT）
- トリップメーター 1（TRIP 1）
- トリップメーター 2（TRIP 2）
- 航続可能距離（RANGE）
- トリップタイム（TRIP TIME）
- 時計
- ラップタイム（LAP）（起動時のみ）
- プレーヤー（Bluetooth 搭載の場合）

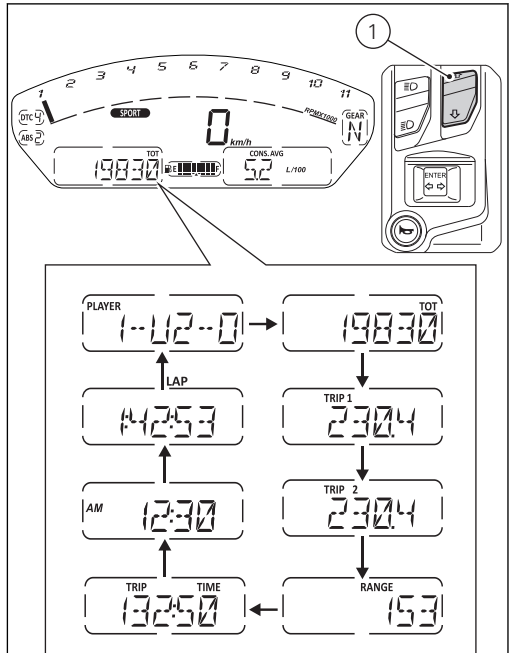


図 8

左側スイッチのボタン（2）を押すと、メニュー 2 の情報を表示することができます。

- 平均燃費（CONS.AVG）
- クーラント温度
- 瞬間燃費（CONS.）
- 平均スピード（SPEED AVG）
- 外気温（T-AIR）
- ヒーテッドグリップ（H.GRIPS）（オプション）

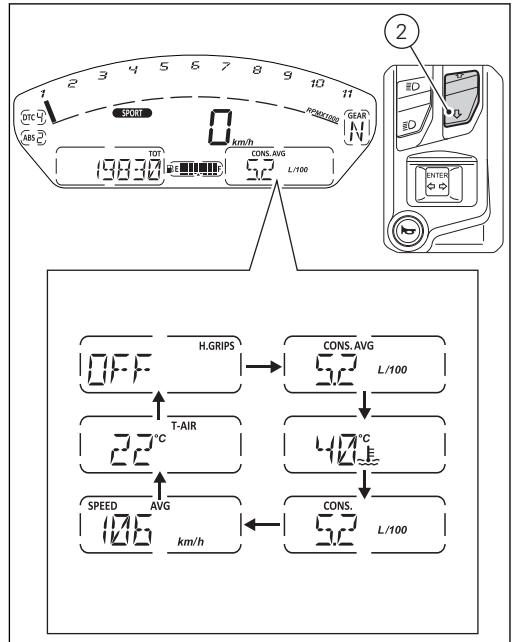


図 9

インストルメントパネルには KEY-OFF 時に使用していたメニュー 1 とメニュー 2 の設定が記憶されます。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 およびメニュー 2 のページが表示されます。
急な KEY-OFF（電源供給が突然途絶えた）の場合は、次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次のメニュー 1 とメニュー 2 のデフォルト設定が表示されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = オドメーター (TOT)
- メニュー 2 デフォルトページ = 平均燃費 (CONS.AVG)

KEY-ON 時には毎回、インストルメントパネルのメニュー 1 に 10 秒間 "オドメーター" のページが表示され、その後、前回の KEY-OFF 時に保存したページが表示されます。

スタンダードスクリーンが表示されている時に、車両の実速度が 5 km/h (3.1 mph) 以下の状態でボタン (4) を 2 秒間押すと、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。

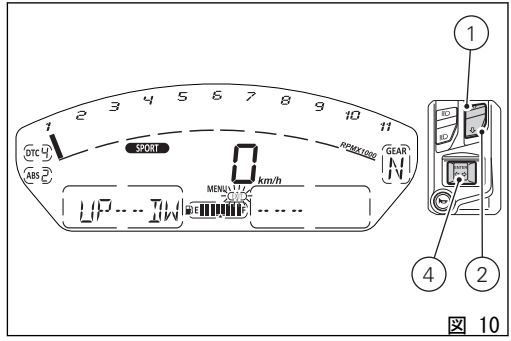


図 10

参考

車両の実速度が 5 km/h (3.1 mph) 以下の場合に限り、設定メニューに入ることができます。設定メニューが表示されているときに車両の実速度が 5 km/h (3.1 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、スタンダードスクリーンを表示します。

KEY-ON 時および点検終了時にキーが認識されない場合：

- PIN CODE 機能が有効でない場合、ランプの初期点検が省略され、スタンダードスクリーンにエラーが表示されます。設定メニューにはアクセスできません。
- PIN CODE 機能が有効な場合、インストルメントパネルには解除コードを入力する PIN CODE 機能画面が表示されます。

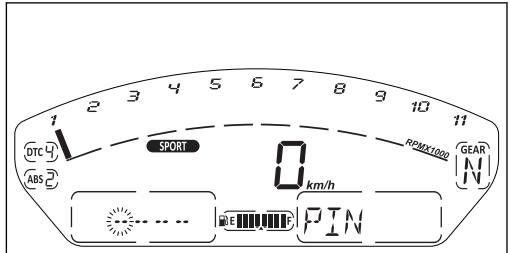


図 11

主な機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能

- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- 燃料レベル
- エンジンクーラント温度
- ライディングモード (Riding Mode)
- ABS
- DTC
- DQS
- ギア
- メニュー 1 には以下の機能が表示されます。
  - オドメーター (TOT)
  - トリップメーター 1 (TRIP1)
  - トリップメーター 2 (TRIP2)
  - 航続可能距離 (RANGE)
  - トリップタイム (TRIP TIME)
  - 時計
  - ラップタイム (LAP) (起動時のみ)
  - Bluetooth プレーヤー
- メニュー 2 には以下の機能が表示されます。
  - 平均燃費 (CONS.AVG)
  - クーラント温度
  - 瞬間燃費 (CONS.)
  - 平均スピード (SPEED AVG)
  - 外気温 (T-AIR)
  - ヒーテッドグリップ (H.GRIPS) (オプション)

サブ機能

- インフォテインメント - Bluetooth (搭載している場合)
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告表示 (Warning)

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード（R.M.）のパーソナライズ：パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
  - エンジン調整（ENGINE）
  - DTC レベルの設定（DTC）
  - ABS 調整（ABS）
  - DQS 調整（装備している場合）(DQS)
  - デフォルト設定の回復（DEFAULT）
- PIN CODE（入力/変更）（PIN）
- ディスプレイの背景の設定（B.L.）
- DRL AUTO / MANUAL モード設定（DRL）
- 時計の調整（CLK）
- 日付設定（DAT）
- サービス情報（SRV.）
- ラップ設定（LAP）
- 単位の設定（速度 - 温度 - 燃費）（UNT）
- バッテリー表示（BAT）
- エンジン回転数表示（RPM）
- タイヤ設定（TSU）
- Bluetooth 設定（ペアリング / ペアリングデバイスの削除）（B.T.）

エンジン回転数表示 RPM

この機能はエンジン回転数を表示します。
インストルメントパネルにはエンジン回転数データが表示されます。
データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフのメモリと、千単位の反転数字（数字と枠が反転）で表示されます。

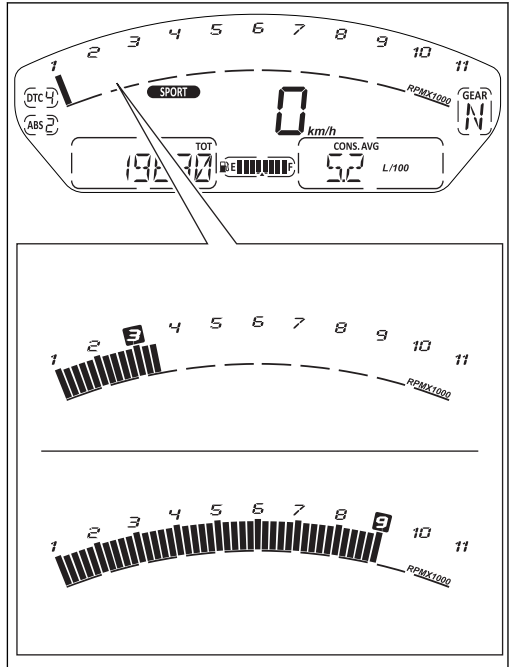


図 12

リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯が点灯します。

参考
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

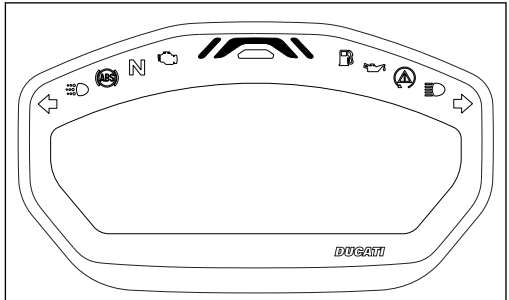


図 13

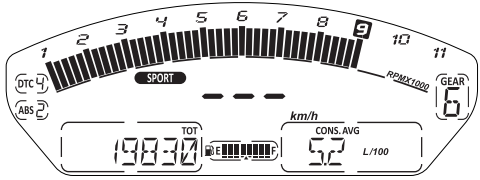
車両スピード

インストルメントパネルは車両の実速度（km/h で算出）情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h または mph）で表示します。
表示最高速度は 299 km/h（186 mph）です。

以下の場合には "- - -" と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h か 186 mph の場合、またはインストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合（"- - -" 点灯）
- リアスピードセンサーに異常がある場合（"- - -" 点滅）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
RPMX1000
SPORT
DTC
ABS
299
km/h
GEAR
6
TOT
19830
CONS. AVG
52
L/100
186
mph


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
RPMX1000
SPORT
DTC
ABS
km/h
GEAR
6
TOT
19830
CONS. AVG
52
L/100

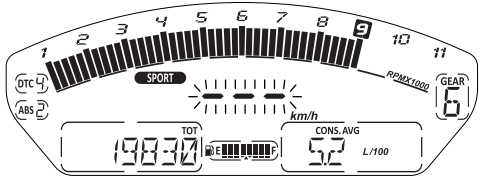

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
RPMX1000
SPORT
DTC
ABS
km/h
GEAR
6
TOT
19830
CONS. AVG
52
L/100

図 14

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。
ギアが挿入されている時は 1 から 6 の値が表示されます。ギアがニュートラルの時は N の文字が表示され、″ニュートラル N″ ランプが点灯します。
ギアの学習を行っていない場合は ″C″ が点滅します。
インストルメントパネルがギアデータを受信できない時は “-” が点滅表示され、″ニュートラル N″ ランプが点滅します。
ギアセンサーエラーの場合は “-” が固定表示され、″ニュートラル N″ ランプが点滅します。

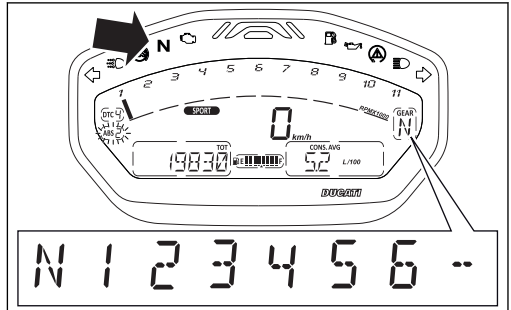


図 15

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。
燃料レベルが 2 目盛りまで下がるとリザーブランプが点灯します。これはフューエルタンク内の燃料残量が約 4 リットル（1.06 ガロン）であることを意味します。
レベルがさらに下がると、最後の目盛りが点滅します。

重要

燃料がリザーブ状態に入りランプが点灯している場合は、給油の際に車両を停止（Key-OFF）することが推奨されます。車両を停止せずに（Key-ON でエンジン OFF の状態）給油を行うと、燃料データがすぐに更新されないことがあります。

参考

レベルセンサーエラーの場合には、燃料表示の目盛りは表示されず、残りの数字が点滅します。

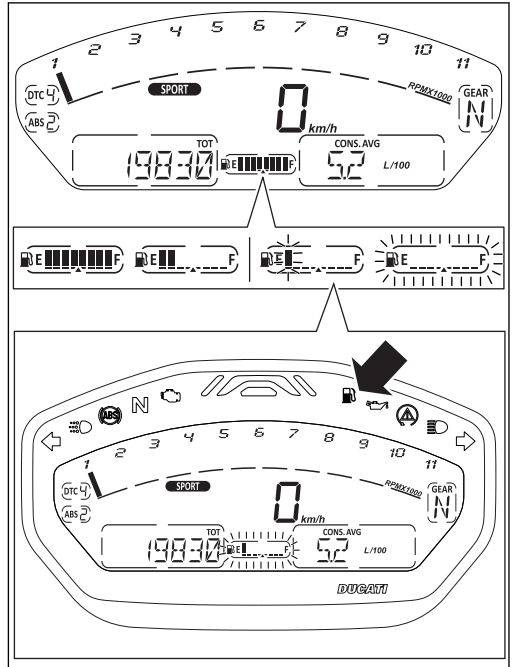


図 16

ライディングモード（RIDING MODE）

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された次の 3 通りのライディングモード SPORT、TOURING、URBAN。

現在設定されているライディングモードは、ディスプレイ中央の走行速度表示の隣に表示されます。この表示は 3 通りの表示モードすべてに共通します。

警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします）。

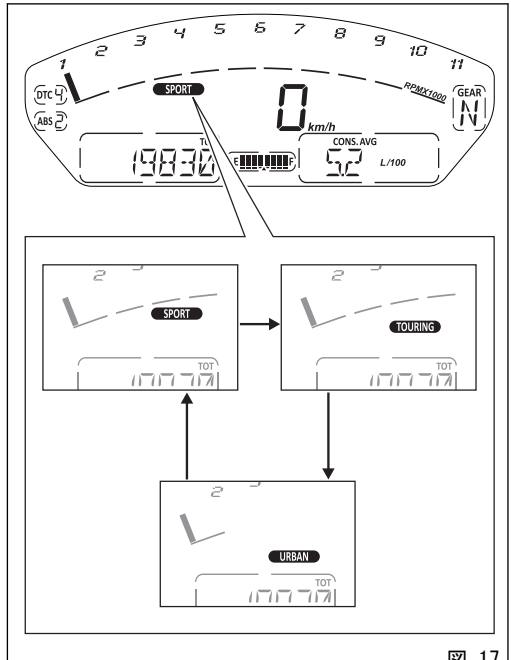


図 17

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル（1、2、3、4、5、6、7、8、OFF）
- ABS システムの許容値（1、2、3、OFF）
- スロットル作動を変更するエンジン出力（HIGH、MEDIUM、LOW）
- 電子ギア DQS のステータス（OFF、UP、UP-DW）（SuperSport S のみ）

ライディングモード変更機能

この機能は車両のライディングモードを変更します。メニュー決定ボタン（4）を押すと、ライディングモードを変更することができます。
ディスプレイには 3 通りのライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN）が表示されます。
ボタン（1）および（2）を使用して、希望のライディングモードを選択できます。
選択したいライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を 2 秒間押して決定します。

選択したいライディングモードが強調されても 5 秒以内にメニュー決定ボタン（4）を押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

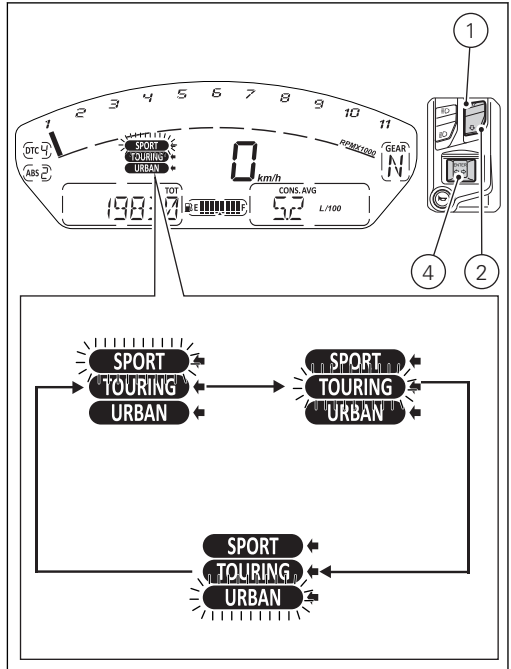


図 18

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

- 停車中にスロットルグリップが開いている場合は、“CLOSE GAS”（スロットルを閉じてください）が表示されます。
- 停車中にブレーキを踏んでいる場合は、“DON’T BRK”（ブレーキを放してください）が表示されます。
- 車両が動いている場合は、スロットルグリップとブレーキ圧を点検し、“CLOSE GAS”（スロットルを閉じてください）および “DON’T BRK”（ブレーキを放してください）が表示されます。

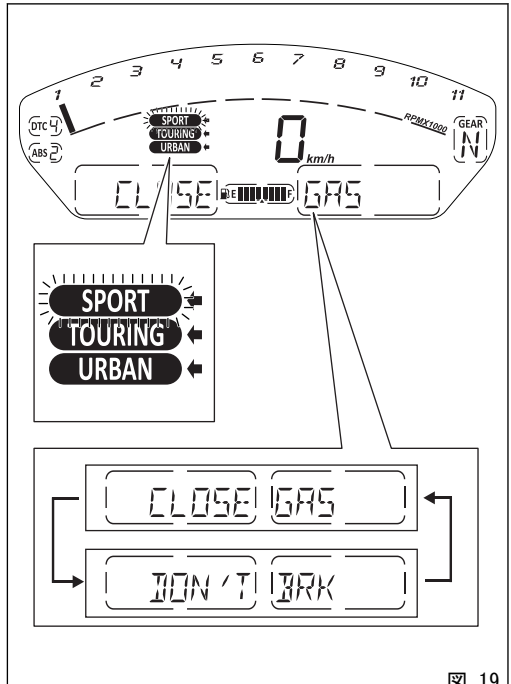


図 19

DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が起動している場合、枠内に DTC の文字とトラクションコントロール介入レベル 1 から 8 までの数値が固定表示
- DTC が ON の時に異常が発生したためシステムが機能制限モードである場合は、"DTC" の文字、枠に囲まれた DTC 介入（固定表示）のレベルの 1 から 8 までの数値（点滅）、さらに DTC ランプが点滅します。
- DTC が解除されている場合、DTC の文字と枠内に "– " マークが点灯、さらに DTC ランプが点灯します。
- DTC エラー、もしくはブラックボックスコントロールユニットエラーの場合、"DTC" の文字と枠内に "–" マークが点滅、さらに DTC ランプが点灯します。

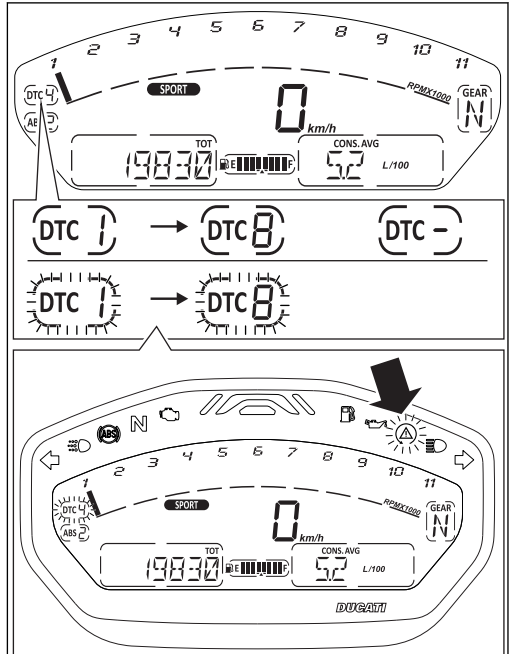


図 20

DTC エラー、もしくはブラックボックスコントロールユニットエラーの場合、インストルメントパネルは "DTC" の文字を点滅表示して "-" を点滅します。また DTC ランプが点灯します。

警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

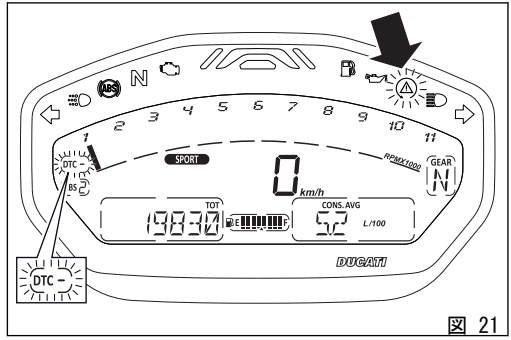


図 21

警告

DTC はライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適した DTC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な ″ライディングモード″ のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
1	SPORT	非常に熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	NO
2	SPORT	熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	NO
3	SPORT	中程度に熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	ライディングモード ″SPORT″ のデフォルトレベル
4	TOURING	高速ツーリングドライブ用。	ライディングモード ″TOURING″ のデフォルトレベル
5	TOURING	ツーリングドライブ用。	NO
6	URBAN	あらゆる種類の行程での ″セーフティドライブ″ 用。	ライディングモード ″URBAN″ のデフォルトレベル
7	RAIN	若干濡れた路面または湿った路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用を推奨。	NO
8	HEAVY RAIN	濡れた路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用を推奨。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

車両に搭載されている DTC システムの全レベルの調整は、車両の標準装備タイヤ（フロント：Pirelli Diablo Rosso III 120/70 - 17、リア：Pirelli Diablo Rosso III 180/55 - 17）を使用して決定されています。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備のタイヤと違いがわずかなタイヤ、たとえばモデルやメーカーは異なってもサイズクラスが同じタイヤ（フロント = 120/70 - 17、リア= 180/55 - 17）を装着する場合は、適切なレベルを選択することでシステムは最適に作動することができます。サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システムの機能が影響を受けるため、設定可能な 8 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 8 を選択すると、DTC システムはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル 8 とレベル 1 の間には、その他に中間の介入レベルが存在します。DTC の介入度はレベル 8 から 1 に向かい減少します。レベル 1、2、3 ではリアタイヤをスピンやスキッドさせることができます。これらのレベルは熟練ライダーにのみ推奨されます。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
2) レイアウト/行程（類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる）
3) ライディングスタイル（より "スムーズ" に、またはより "シャープ" に）

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています（後述の一般道での使用時のアドバイスを参照）。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし ″シャープ″ に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して ″スムーズ″ に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

乾いた一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 5、4 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。
グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します（例：レベル 5 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 4 に、レベル 5 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6 に変更します）。

濡れた一般道での使用時のアドバイス

若干濡れた一般道または湿った一般道ではレベル 7、濡れた一般道ではレベル 8 の使用が推奨されます。同時に ENGINE LOW レベルを選択してください。

ABS

車両には ABS システムが搭載されています。インストルメントパネルは ABS ランプを消灯、点滅、点灯させて ABS 機能のステータス（ON または OFF）を表示します。

インストルメントパネルの表示：

- ABS が起動している場合、枠に囲まれた ABS の文字と干渉レベル 1 から 3 までの数値
- ABS が解除されている場合、枠に囲まれた ABS の文字と "-" マークが点灯
- ABS が診断中の場合、枠に囲まれた ABS の文字と介入レベル 1 から 3 までの数値が固定表示、さらに ABS ランプが点滅
- ABS エラーの場合、枠に囲まれた ABS の文字と "-" マークが点滅。さらに、ABS ランプが点灯し、該当するエラーが表示されます。

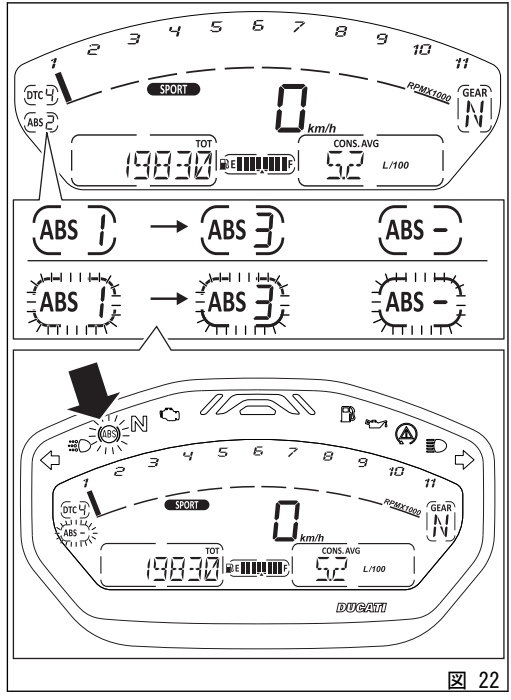


図 22

ABS エラーの場合は、インストルメントパネルは "ABS" の文字を点滅表示して "-" を点滅させます。また ABS ランプが点灯します。

警告
システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

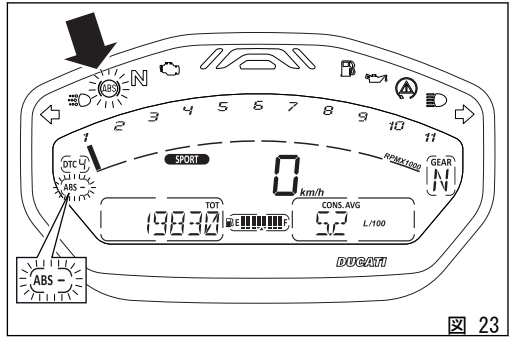


図 23

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベル OFF を選択すれば、システムの解除が可能です。

警告

2 つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

ABS 作動時に、過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり（リフトアップ）、その結果、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱やベーパーロッ

ク（ブレーキフルードの過熱）を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。
規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF		ABS システム解除	NO
1	TRACK/SPORT	このレベルは熟練したライダー向けに設計されています。このレベルでは、ABS はフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。 このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。	
2	SPORT/TOURING	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用します。 このレベルではリフトアップ制御機能が作動します。 このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようなっています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
3	ALL/URBAN/WET CONDITION	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。 このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用し、リフトアップ制御機能が作動します。	ライディングモード "TOURING" および "URBAN" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABS システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Rosso III のサイズ：フロント 120/70 - 17、リア 180/55 - 17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキングとリフトアップ制御を行い、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。レベル 2 を選択すると、ABS システムは安定性やリフトアップ制御よりみブレーキ力を優先します。リフトアップ制御はレベル 2 では作動しません。
ABS システムのレベル 1 の使用はオフロード走行専用になります。オフロードでのブレーキングを重視して ABS はフロントホイールにのみ作用します。このレベルではリフトアップ制御は作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/路面のグリップ（タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 3 の使用が推奨されます。

DQS

インストルメントパネルはディスプレイに DQS 機能の状態を以下のように表示します。

- DQS システムが起動している場合、"DQS" の文字と "U"（シフトアップ）または "U/D"（シフトアップおよびシフトダウン）の文字
- DQS システムが解除されている場合、"DQS-" の文字
- DQS システムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合、"DQS -" の文字が点滅
- DQS が車両に搭載されていない場合は、"DQS" の文字は一切表示されません。

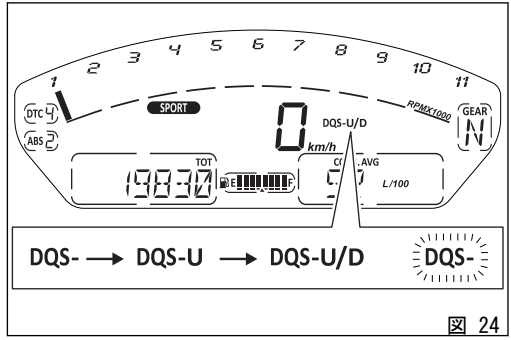


図 24

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。
レバーの作動機構内に統合された双方向マイクロスイッチからな成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。
システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。様々な走行条件下においてシフトダウン時に滑らかなギアチェンジを実現するために作動強度や作動時間は異なり、スリッパークラッチと連動して働きます。
ユーザーは DQS のシフトアップ機能だけを有効にするか、もしくはシフトアップとシフトダウン両方の機能を有効にするかを、インストルメントパネルの専用メニューから選択することができます。

メニュー 1 の機能

メニュー 1 には以下の機能が表示されます。

- オドメーター（TOT）
- トリップメーター 1（TRIP1）
- トリップメーター 2（TRIP2）
- 航続可能距離（RANGE）
- トリップタイム（TRIP TIME）
- 時計
- ラップタイム（LAP）（起動時のみ）
- プレーヤー（Bluetooth コントロールユニット搭載の場合）

ボタン（1）を押すと、メニュー 1 の機能を表示します。

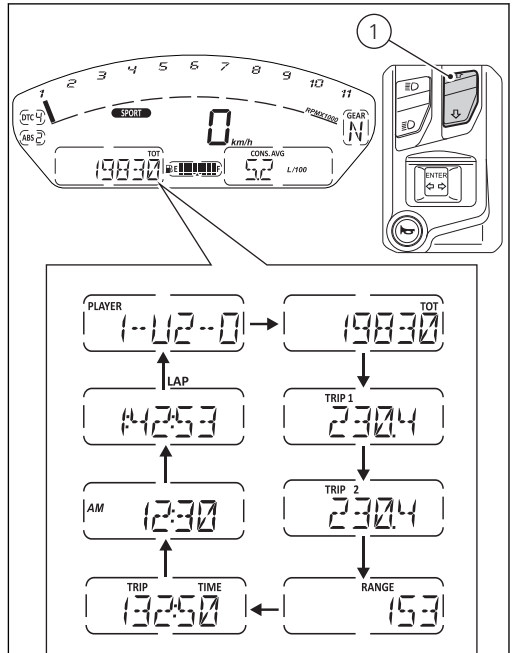


図 25

オドメーター（TOT）

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値（キロ またはマイル）は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値（199999 km または 199999 mi）に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

参考
オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

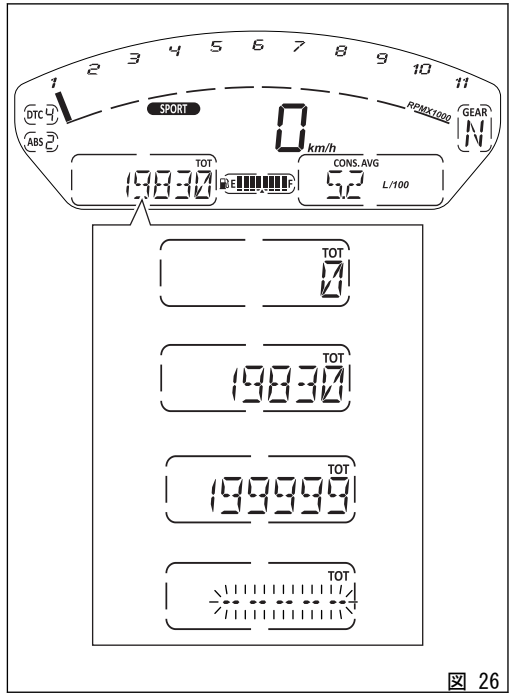


図 26

トリップメーター1（TRIP 1）

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP1 に対応する数値（キロ またはマイル）は、TRIP1 の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン（1）を 2 秒間押すと、TRIP 1 のデータがリセットされます。TRIP1 がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

TRIP1 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

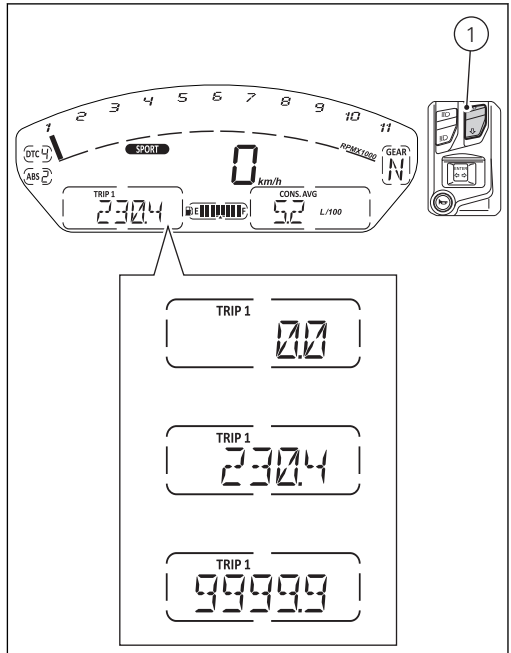


図 27

トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
TRIP2 に対応する数値（キロ またはマイル）は、TRIP2 の文字と単位で表示されます。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。
トリップメーターの表示中にボタン (1) を 2 秒間押すと、TRIP 2 のデータがリセットされます。
TRIP2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

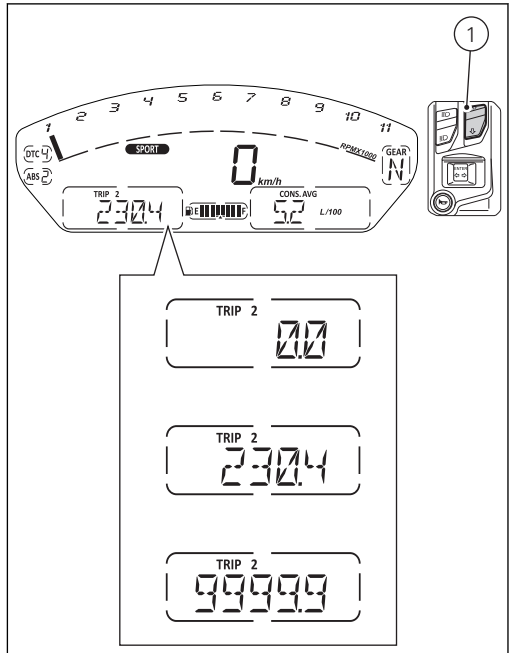


図 28

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料で走行できる航続可能距離を表示します。
"RANGE" の文字とデータが表示されます。

この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは "- - -" を点滅させます。
インストルメントパネルが RANGE データを受信できない場合は、"- - -" が固定表示されます。

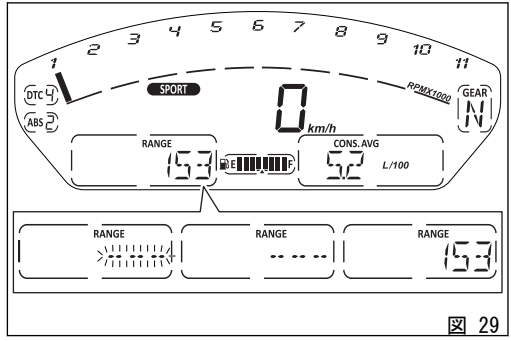


図 29

走行時間

インストルメントパネルは走行時間を "hhh:mm" 形式で算出し、"TRIP TIME" の文字と共に表示します。TRIP1 が最後にリセットされて以降の走行時間から計算されます。TRIP1 がリセットされると、データもリセットされます。車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します）。
表示時間が "511:00"（511 時間 00 分）を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

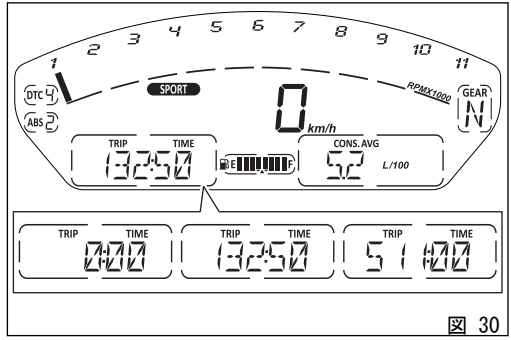


図 30

参考

スピード（および距離）、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。
インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- hh（時間）：mm（分）
- "a.m."(12:00 から 11:59)、または
  "p.m."(12:00 から 11:59)。

電源供給が中断された場合（Battery OFF）は、次回の Key-ON 時に 4 本の点線 "－－：－－" が表示され、中央のコロンが点滅します。

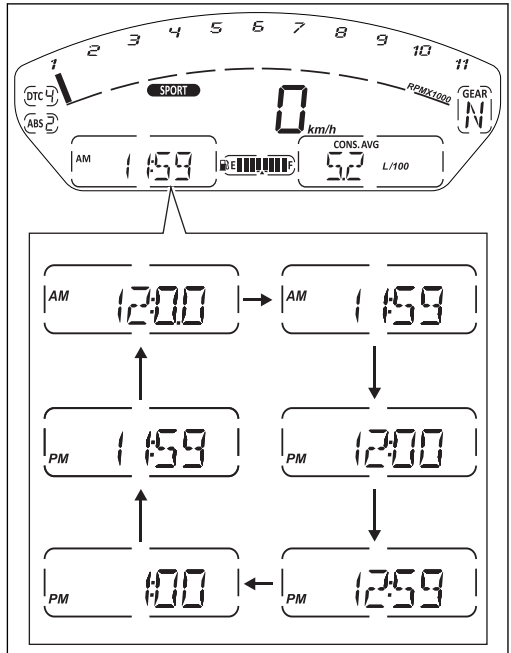


図 31

ラップタイム (LAP TIME)

LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。
設定メニューから LAP 機能を起動すると、LAP 機能がスタンダードスクリーンのメニュー 1 に表示できるようになり、ディスプレイに "LAP" の文字が表示されます。
メニュー 1 から LAP 機能を選択するには、ボタン (1) を押して機能をスクロールします。LAP 機能は "START" と “LAP” の文字で表示されます。
FLASH ボタン (3) を押すと、"START" の代わりに 10 分の 1 秒 ("0:00:00") 単位でストップウォッチがカウントを始めます。その後 FLASH ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップ数、ラップタイムが一時的に表示されます。続いてストップウォッチ、進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます。

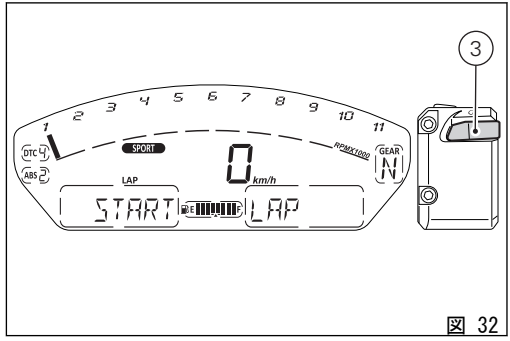


図 32

参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。

LAP の記録

LAP 機能が起動している場合、連続して 30 周回までラップタイプを記録することができます。
操作

- FLASH ボタン (3) を押すと、10 分の 1 秒 (″0:00:00″) 単位でストップウォッチが表示されます。
- その後 FLASH ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップタイムが 100 分の 1 秒単位で 5 秒間インストルメントパネルのディスプレイに表示されます。
- 5 秒後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります。
- 車両が 5 秒以上停止している場合、ストップウォッチの機能が一時的にストップし、ストップウォッチは初期表示 ″0:00:00″ に戻ります。
- その後 FLASH ボタン (3) を 1 回押すと、ストップウォッチが再び起動します。

ラップタイムが最大 9 分 59 秒 99 以内に停止されない場合、ストップウォッチは再度ゼロからカウントを開始し、ラップが停止されるか記録機能が解除されるまでカウントを続けます。

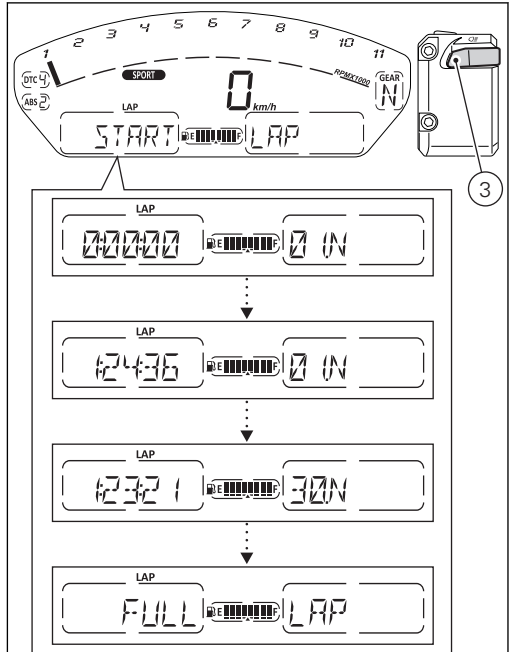


図 33

ラップ数は 01 から 30 まで順番に表示されます。 最初の 30 周が終わると、インストルメントパネルに "FULL" の文字が表示されます。
LAP 機能を ON にしてからラップタイムのメモリーをリセットしない場合、記録されているラップ数が 30 以下（例：12 ラップ記録済み）であれば、インストルメントパネルはメモリーに記録可能な残りのラップ数を続けて記録します（例のケースでは、残り 18 ラップ記録可）。
それぞれの LAP で以下の情報が記録されます。

- 30 周分のラップタイム（連続したスタートとストップ間のタイム）
- 30 周分の最大 RPM 値（各ラップの最大 RPM 値）
- 30 周分の最高スピード（各ラップの最高スピード）

メニュー 2 の機能

メニュー 2 には以下の機能が表示されます。

- 平均燃費（CONS. AVG）
- クーラント温度
- 瞬間燃費（CONS.）
- 平均スピード（SPEED AVG）
- 外気温
- ヒーテッドグリップ（H.GRIPS）（オプション）

ボタン（2）を押すと、メニュー 2 の機能を表示します。

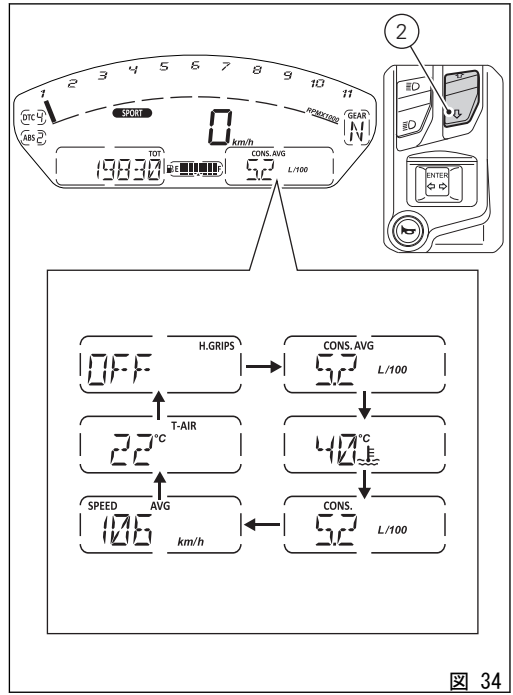


図 34

平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、″CONS. AVG.
TRIP1 が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。
TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は ″- -.-″ が平均燃費として固定表示されます。データは設定された単位（リットル /100 km、mpg UK、mpg USA）で表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます(車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。

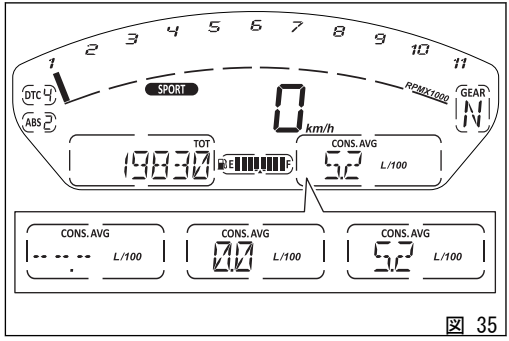


図 35

参考

設定メニューの UNITS 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報（° C）を受信し、設定単位（° C または ° F）に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ～ +120 ° C (+104 ° F ～ +248 ° F) です。

データが以下の場合：

- -40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、″ - - - ″ が点滅表示されます。
- -39 ° C (-38 ° F) ～ +39 ° C (+102 ° F) の場合、″ LO″ が点灯します。
- +40 ° C (+104 ° F) ～ +120 ° C (+248 ° F) の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、″HI″ が点滅表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に ″- - -″ が点滅表示されます。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に ″- - -″ が固定表示されます。

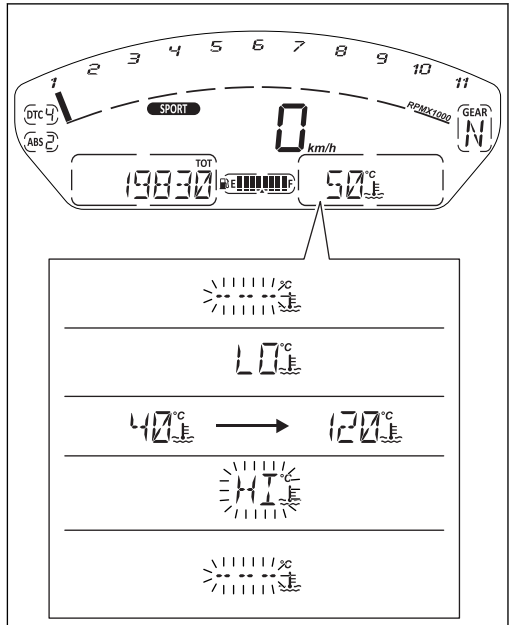


図 36

参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONS の文字を表示します。
数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、mpg USA で表示されます。
数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます（車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません）。算出されない場合は、ディスプレイ上に ″ - - .- ″ が瞬間燃費として固定表示されます。

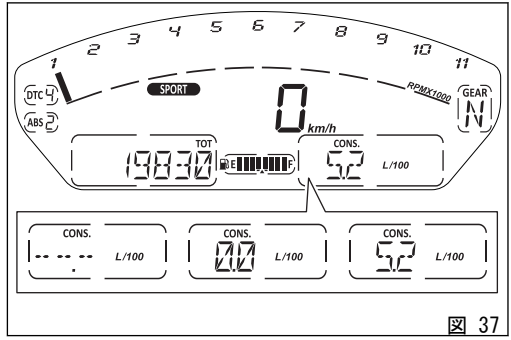


図 37

参考

設定メニューの UNITS 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、"SPEED AVG" の文字を表示します。
TRIP1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。
平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

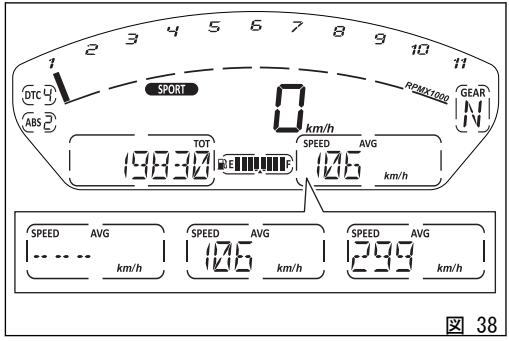


図 38

参考

"SET UNITS" 機能の設定メニューで Km/h（および Km）から mph（およびマイル）に "スピード"（および "距離"）の単位を変更することができます。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は "- -.-" が平均スピードとして固定表示されます。
停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。

外気温

インストルメントパネルは設定された単位（° C または ° F）に換算された外気温、設定単位、″T AIR″ の文字を表示します。温度データは -39 ° C～+125 ° C（-38 ° F～+257 ° F）の場合に表示されます。それ以外の温度（ -39 ° C（-38 ° F）未満 か +125 ° C（+257 ° F）を超える場合）では ″－－－″ と単位が表示されます。

気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に ″－－－″ が点滅します。さらに一般的エラー警告灯が点灯します。インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に ″－－－″ が固定表示されます。

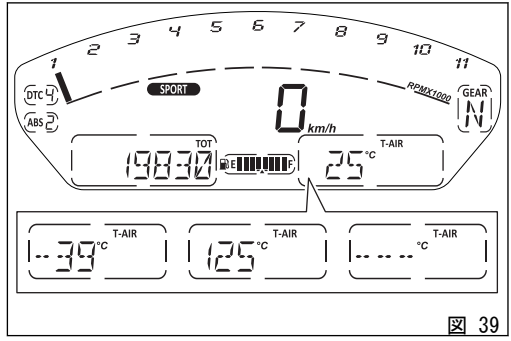


図 39

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

サブ機能

ヒーテッドグリップ制御機能（オプション）

この機能でヒーテッドグリップの起動と調整を行います。ヒーテッドグリップが搭載されている場合は、メニュー 2 内にこの機能が表示されます。
ボタン (2) を押してメニュー 2 をスクロールしてこの機能を選択できます。“H.GRIPS” の文字に続いて現在の設定が表示されます。設定を変更するには、ボタン (4) を 2 秒間押します。ボタン (1) および (2) を押して、OFF、LO、MED、HI のレベルをスクロールします。ボタン (4) を 2 秒間押して、選択したいレベルを決定します。

参考
エンジンがかかっているときのみ、ヒーテッドグリップが実際に作動します（熱くなる）。

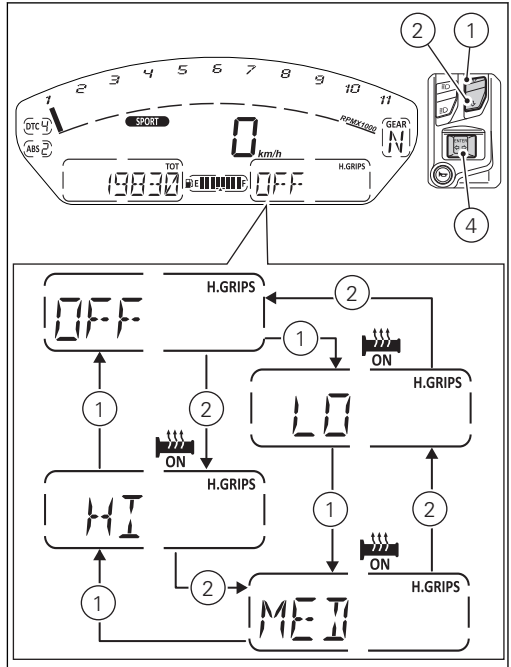


図 40

ヒーテッドグリップが起動しているときは、ヒーテッドグリップ表示灯も点灯し、"ON" の文字が表示されます。

参考
バッテリーが切れた場合（Battery-OFF）は、次回の Battery-ON / Key-ON 時にはデフォルト値の "OFF" に設定されます。

参考
グリップヒーターが起動した状態でエンジンが停止している場合、グリップヒーターは "一時的に" 作動を停止しますが、表示は継続して起動状態を示します。エンジンを再始動するとグリップヒーターは自動的に再起動します。

参考
グリップヒーターは電流消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。 バッテリーが充電不足（電圧が 11.9 V を下回っている）状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにグリップヒーターの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

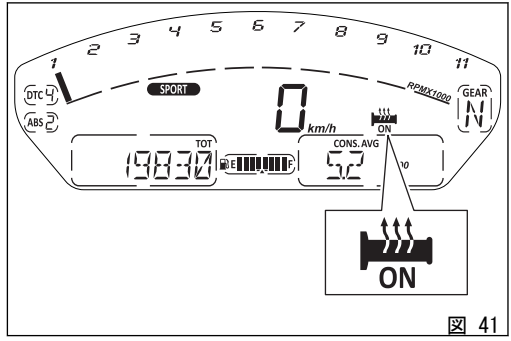


図 41

インフォテインメント

SuperSport は、Bluetooth コントロールユニットを装備している場合に限り、ドゥカティマルチメディアシステム（DMS）を搭載することができます。DMS システムは Bluetooth テクノロジー対応ヘッドフォンを用いて着信通話のほか、音楽を聴いたり SMS 受信通知を受け取ったりすることが可能です。
本モデル用の Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。
インストルメントパネルにはインフォテインメント機能の状態、すなわち Bluetooth の起動および接続デバイス（スマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーター）を表示します。

Bluetooth が起動しているときは、メインスクリーンに Bluetooth アイコンが表示されます。
またインフォテインメントの各機能は、専用メニューで確認することができます。

- 接続デバイス（A）
- プレーヤー（B）
- 携帯電話（C）

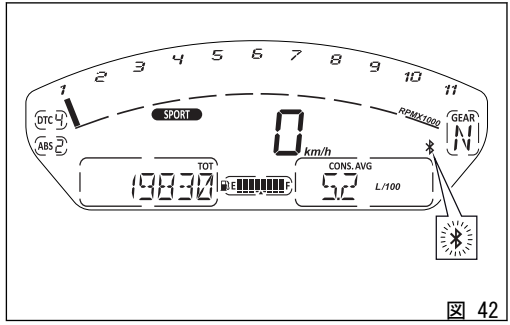


図 42

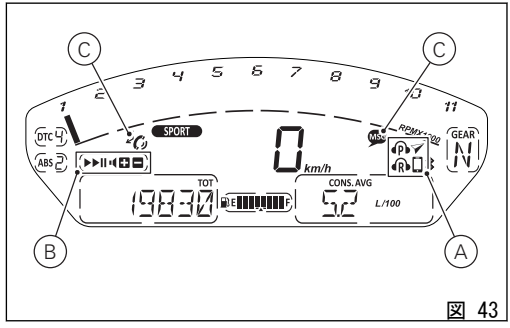


図 43

Bluetooth が起動している場合は、Bluetooth アイコンのほかに以下の接続デバイスについても表示します。

1) スマートフォン
2) ライダーヘルメットのヘッドセット
3) パッセンジャーヘルメットのヘッドセット
4) Ducati ナビゲーター

デバイスは最大 4 台まで接続が可能です。

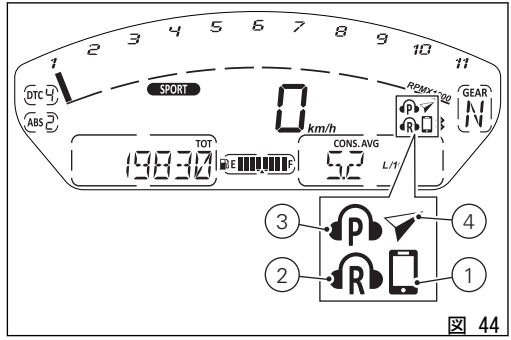


図 44

携帯電話

電話機能を用いて以下の操作が可能です。

- ボタン（1）およびボタン（2）を押して、着信を管理します。
- 通話の中断後 5 秒以内に、最後に通話していた番号へかけ直すことができます（リコール機能）。

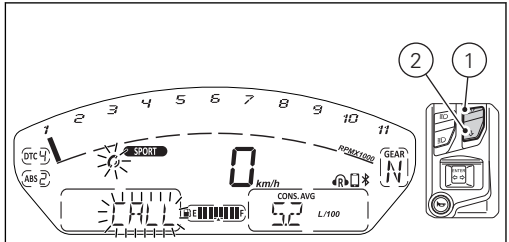


図 45

参考

機能ボタンで電話帳に登録されている氏名 / 電話番号を選択して電話をかけることはできません。

着信があるとシンボルが点滅します。着信を受けるとシンボルの点滅が止まります。
ボタン（2）を押して着信を受けます。
通話を終了するには、ボタン（1）を 2 秒間押し続けます。

通話が終了してから 5 秒間はリコール機能が起動し、電話のかけ直しが可能です。メニュー 1 に "RECALL" の文字が表示されます。
5 秒が過ぎると、リコール機能は解除されます。
リコール機能を使うには 5 秒以内にボタン (2) を押します。

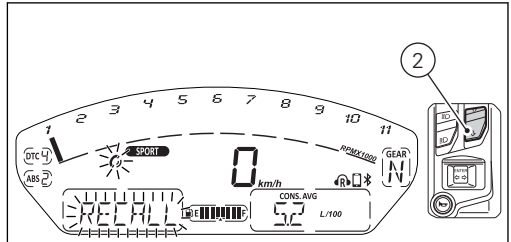


図 46

通話中は電話マークが点灯します（A）。
着信時にプレーヤー が作動している場合は（B）、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。

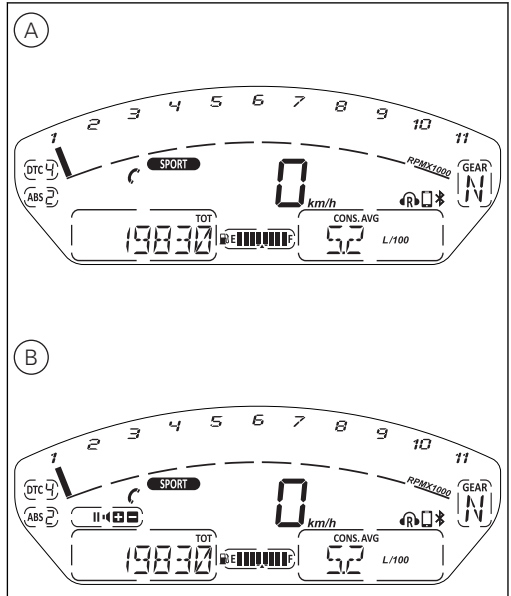


図 47

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに応答しなかった着信がある場合は、不在着信マークが 1 分間表示されます。不在着信の相手番号は表示されません。
スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに未読の SMS/MMS/EMAIL がある場合は、未読メッセージのマークが 1 分間表示されます。未読メッセージ数は表示されません。

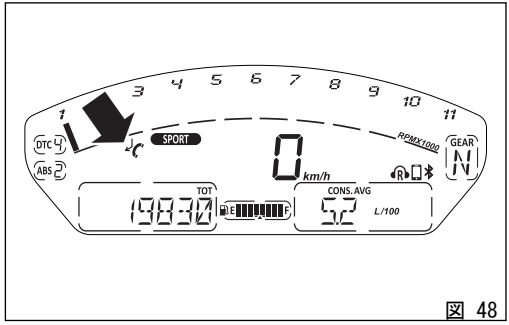


図 48

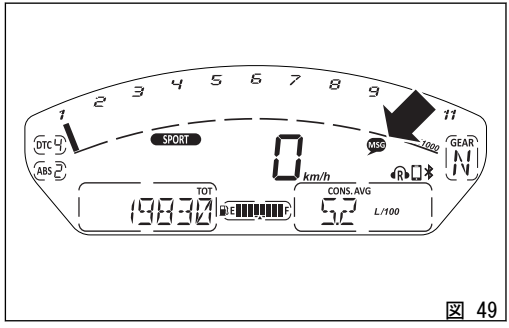


図 49

プレーヤー

少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されていると、メニュー 1 内に "PLAYER OFF" 機能が表示されます。
ボタン (1) を 2 秒間押すとプレーヤーが起動します。

重要
着信中、通話中、およびリコール中はメニュー 1 からプレーヤー機能を起動することはできません。

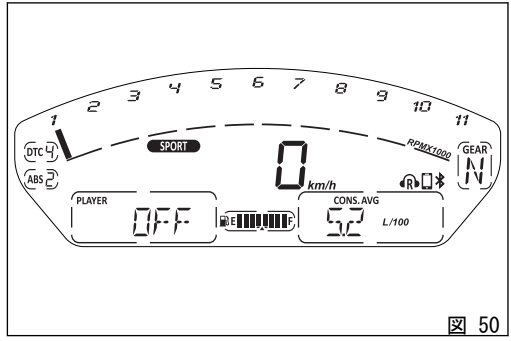


図 50

インストルメントパネルはメニュー 1 に "PLAYER ON" を表示し、トラック名が表示されます (C)。またプレーヤーメニューが表示されます。プレーヤーが起動すると、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) はプレーヤー操作専用ボタンになります。
再生可能な曲が存在しない場合は、メニュー 1 に "NO TRACK" の文字が表示されます (B)。
プレーヤーが ON の時にインストルメントパネルがトラック名を受信しない場合は、曲再生が一時停止になりメニュー 1 に "PLAYER NOT AVAILABLE" の文字が表示されます (A)。

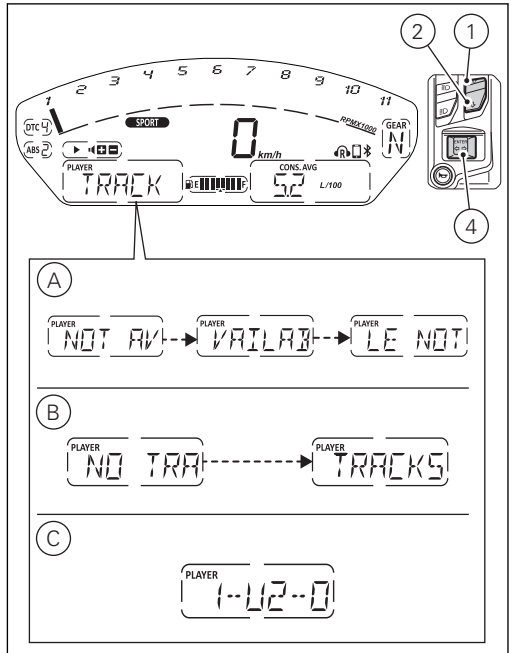


図 51

音量調節は以下の方法で行います。

- 音量を上げる：ボタン（1）を押します。
- 音量を下げる：ボタン（2）を押します。

プレーヤーを一時停止 / 再生するにはボタン（4）を 2 秒間押します。
次の曲にスキップするにはボタン（4）を押します。ボタンを押すたびに一曲ずつスキップします。
プレーヤーを ON の状態にしたままで、プレーヤー操作から出るにはボタン（2）を 2 秒間押します。
プレーヤー操作を解除したのち、メニュー 1 に "PLAYER" の文字とトラック名が表示されてる時は、3 秒後に再び操作が有効になります。

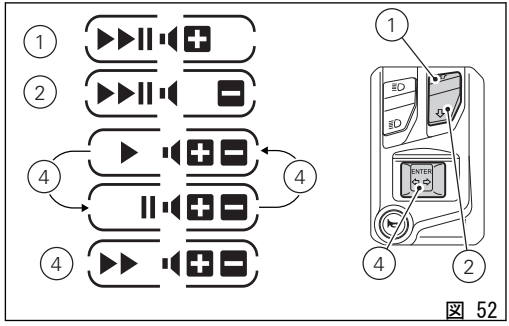


図 52

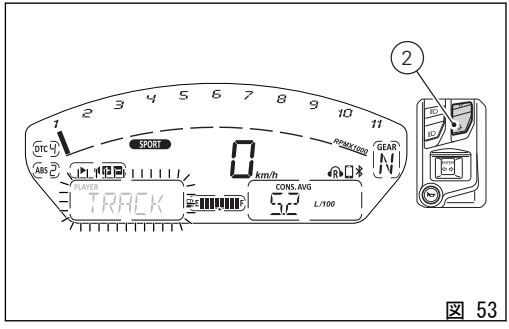


図 53

まずプレーヤー操作を出てからボタン（1）を 2 秒間押すと、プレーヤーを OFF にすることができます。メニュー 1 には "PLAYER OFF" の文字が表示されます。

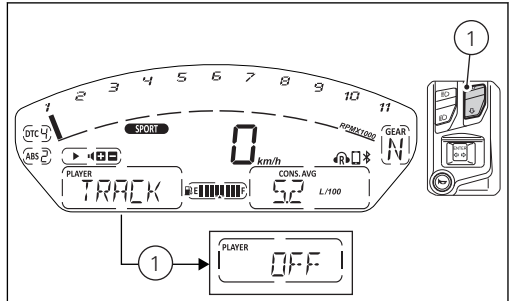


図 54

1）Eメール受信通知を受け取れません。
メール受信の通知は、携帯電話のネイディブアプリケーションに設定されている場合にのみ受け取ることができます。また、携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

2）SMS 受信通知を受け取れません。
携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

3）ヘッドセットを接続できません。どうしてですか？
一回ペアリングを行っている場合は、ヘッドセットを一度リセットして再び車両とのペアリングを実施してください（ヘッドセットの取扱説明書参照）。

4）着信時、インストルメントパネルには発信者の番号は表示されますが、発信者名は表示されません（電話帳に保存している場合も含む）。
携帯電話が PBAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、携帯電話の電話帳へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

5）インストルメントパネルからプレーヤーを起動しても、音楽がスタートしません。
プレーヤーの起動は携帯電話の設定に依存します。この場合は、インストルメントパネルからプレーヤーを起動したのち、スマートフォンから音楽再生アプリを起動してください。

6）音楽の音が飛ぶことがあります。
デバイスの接続が悪いと、Bluetooth コントロールユニットがまだデバイスとの接続を完了しようとしているままになる場合があります。また、PBAP プロフィールおよび MAP プロフィールが有効でなければなり

ません。iOS の場合は、項目 7）を参照してください。Android の場合は、項目 2)、4）を参照してください。

7）iPhone ではメッセージ受信通知を受け取れません。どうしてですか？

「設定」メニューの「Bluetooth」を選択してください。「デバイス」リスト内から「Ducati Media System」の横にある「i」を選択してください。通知の表示を有効にします。

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス（定期点検）を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行うDucati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
定期点検には 3 つの種類があります。

- OIL SERVICE ZERO：最初の 1000 km（600 mi）点検
- OIL SERVICE および SERVICE DATE：オイル点検もしくは一年点検（どちらも同様の点検作業を実施します）
- DESMO SERVICE

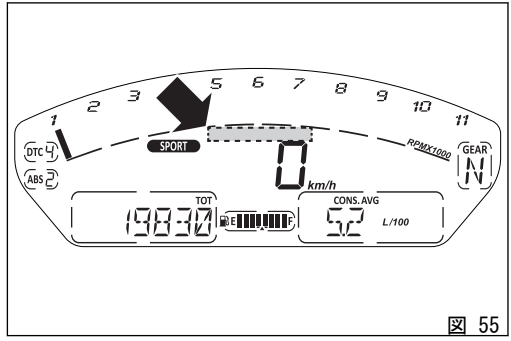


図 55

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km に達すると、Key-ON する度に 5 秒間表示されます。
メンテナンス表示は、"SERVICE" の文字、オイルマーク、"OIL" の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、"SERVICE" の文字、オイルマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

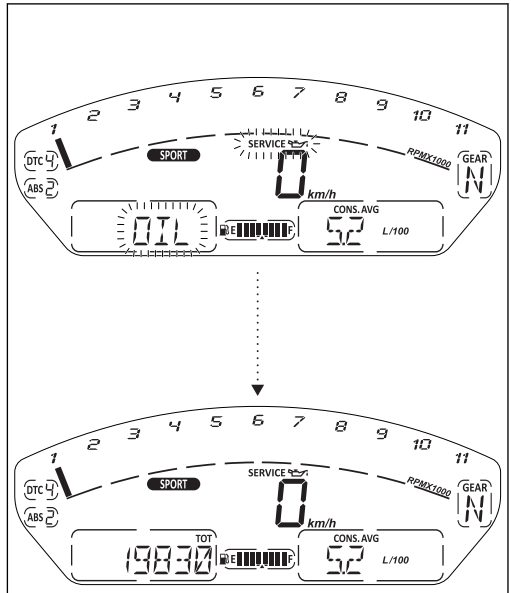


図 56

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ（1000 km - 600 mi）表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは Key-ON ごとに以下を 5 秒間表示します。

- 次回の定期点検 OIL SERVICE（A）までの走行距離が 1000 km（600 mi）を切るまで、定期点検までの残りのキロ数（マイル数）をカウントします。
- 次回の定期点検 SERVICE DATE（B）までのまでの日数が 30 日を切るまで、残りの日数をカウントします。
- 次回の定期点検 DESMO SERVICE（C）までの走行距離が 1000 km（600 mi）を切るまで、残りのキロ数（マイル数）をカウントします。

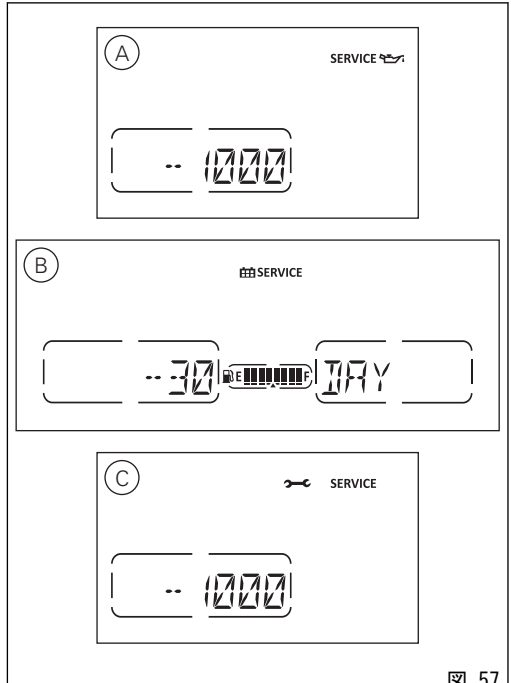


図 57

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のうち必要なメンテナンスが表示されます。

- OIL SERVICE (A)
- SERVICE DATE (B)
- DESMO SERVICE (C)

メンテナンス表示は、"SERVICE" の文字、オイルマーク、日付マーク、もしくはデスモマーク、"OIL"、"DATE"、もしくは "DESMO" の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、"SERVICE" の文字、オイルマーク、日付マーク、もしくはデスモマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

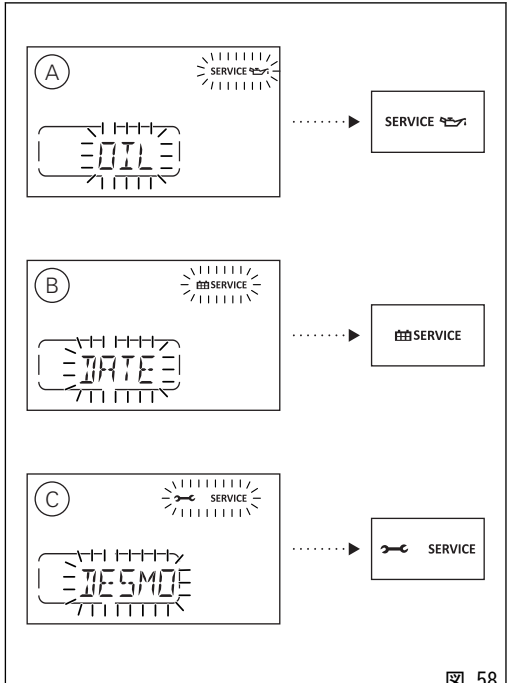


図 58

注意 / 警告 (WARNING)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。
KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。
車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。

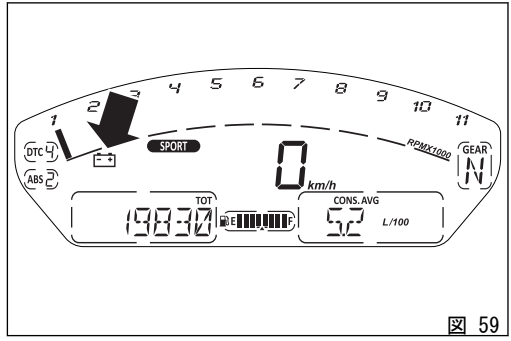


図 59

バッテリーレベル LOW (LOW BATTERY) インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると表示されます。

参考
この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

図 60

日付の入力

この「警告」が起動するときは、設定メニューから日付を入力する必要があります。インストルメントパネルは Key-ON 時に "INSERT" と "DATE" の文字を 6 秒間表示します。

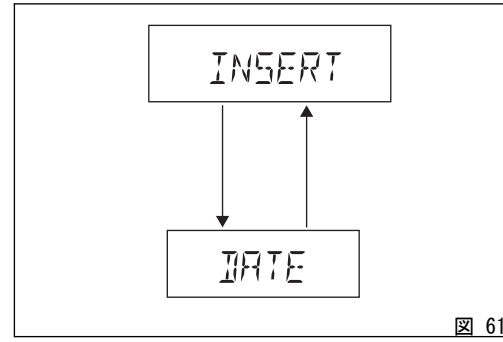


図 61

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
車両の Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (A) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー) もしくは一般的エラー警告灯 (B) (その他エラー全般) が点灯します。
車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

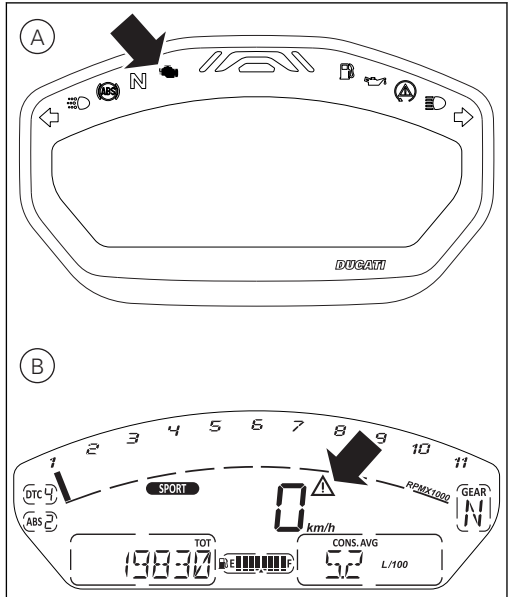


図 62

サイドスタンドの状態の表示

インストルメントパネルはスタンドの状態に関するデータを受信し、サイドスタンドが下りている/開いている場合には "SIDE STAND" アイコンをディスプレイに表示します。

サイドスタンドセンサーエラーが検知されると、インストルメントパネルはサイドスタンドエクステンド/オープンを表示し、MIL ランプを点灯します。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の "SIDE STAND" の表示が点滅し、不明の状態を表します。

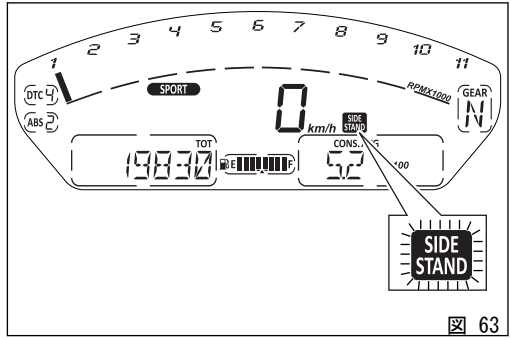


図 63

設定メニュー

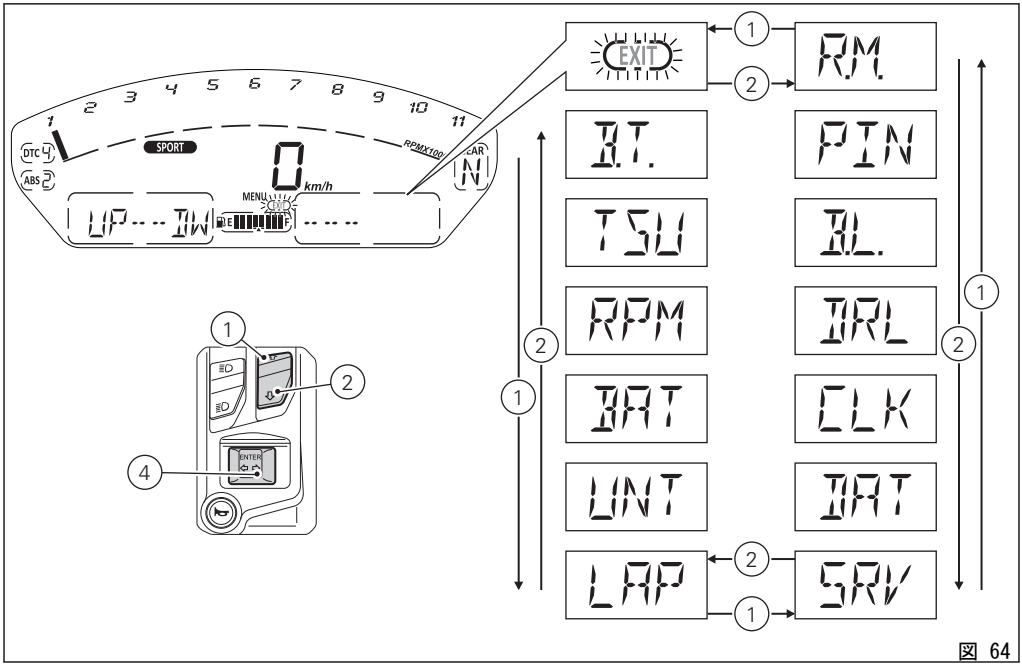
このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。
設定メニューに入るには、KEY-ON の状態で車両実速度が 5 km/h (3.1 mph) 以下の時にボタン (4) を 2 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。
設定メニューには以下の機能が表示されます。

- ライディングモード (R.M.)
- PIN CODE (PIN)
- バックライト (B.L)
- DRL コントロール (DRL)
- 時計設定 (CLK)
- 日付設定 (DAT)
- サービス情報 (SRV)
- ラップ (LAP)
- 単位の設定 (UNT)
- バッテリー (BAT)
- RPM (RPM)
- タイヤ設定 (TSU)
- BLUETOOTH (Bluetooth コントロールユニットを搭載する場合のみ)

重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン (1) および (2) を押して、メニュー 2 にパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ表示することができます。ボタン (2) を押すと次のパラメーターが、ボタン (1) を押すと前のパラメーターが表示されます。
希望のパラメーターを表示した後、ボタン (4) を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。
設定メニューを終了するには、"EXIT" を強調表示してボタン (4) を押します。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
DTC 4
ABS 2
SPORT
RPMX100
0 km/h
MENU
EXIT
UP---DW
EXIT
R.M.
B.T.
PIN
TSU
B.L.
RPM
DRL
BAT
CLK
UNT
DAT
LAP
SRV
ENTER

図 64

ライディングモードのパーソナライズ (RIDING MODE)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押し、"R.MODE" (ライディングモード) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"R.M." (ライディングモード) メニューに入ります。機能に入ると、選択可能な 4 つのライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) がディスプレイに表示されます。ボタン (1) または (2) を押し、パーソナライズしたいライディングモードを強調表示 (横の矢印が点滅) します。ボタン (4) を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに入ります。
"EXIT" の文字が強調表示された状態でボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

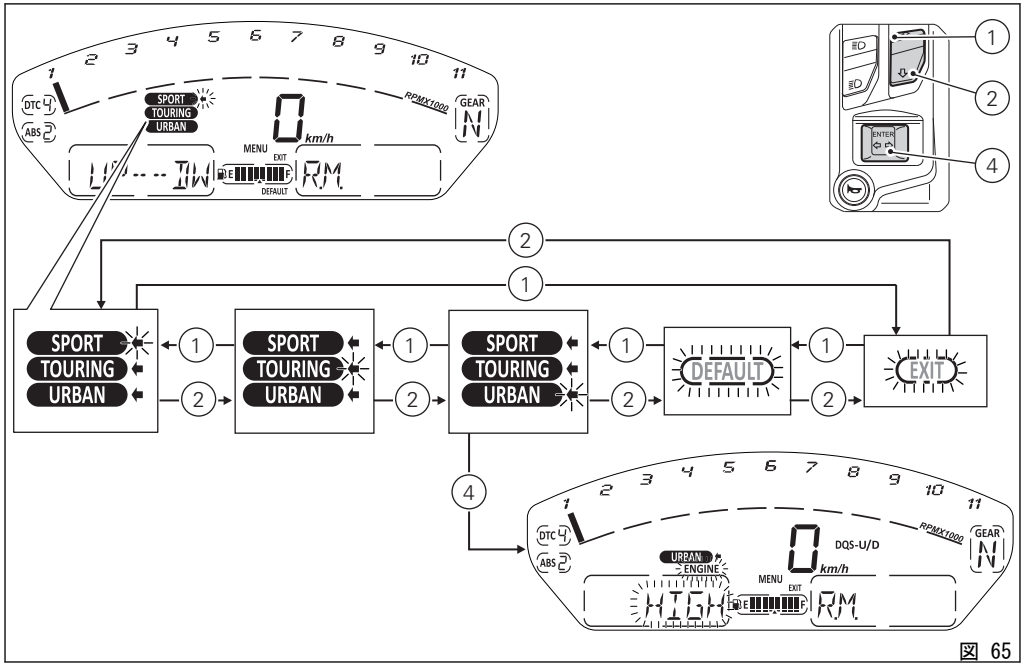

SPORT
TOURING
URBAN
DTC
ABS
RPMX1000
GEAR
N
0
km/h
MENU
EXIT
DEFAULT
RM
ENTER
1
2
4
SPORT
TOURING
URBAN
DEFAULT
EXIT
DQS-U/D
ENGINE
HIGH

図 65

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ENGINE
- DTC
- ABS
- DQS（装備する場合）
- DEFAULT

ライディングモードのパーソナライズメニューに入ると、ENGINE パラメーターが自動的に強調表示（パラメーター点滅）されます。ボタン（1）、（2）を押してメニュー内を次の順番で周回し、現在の設定情報をひとつひとつ選択することができます（選択されたパラメーターが点滅）。

- ENGINE
- DTC
- ABS
- DQS（装備する場合）
- MEM（保存）
- DEFAULT
- EXIT

"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

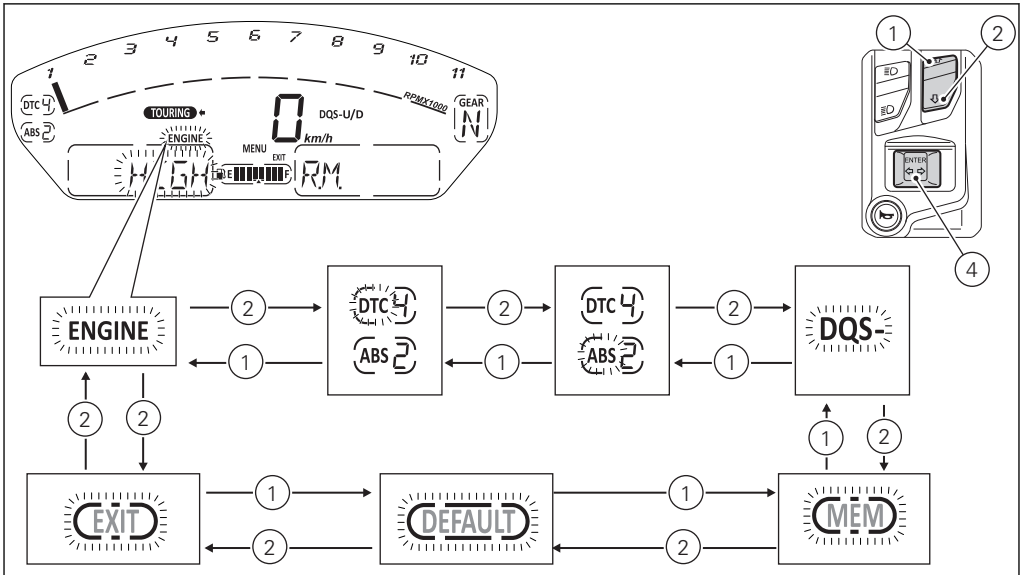

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
RPMX1000
DTC
ABS
TOURING
ENGINE
MENU
EXIT
DQS-U/D
km/h
GEAR
N
ENTER
ENGINE
DTC
ABS
DQS-
EXIT
DEFAULT
MEM

図 66

ライディングモードのパーソナライズ：パラメーターの保存

ライディングモードのパラメーター（ENGINE、DTC、ABS、DQS）を変更した場合に、変更を反映させるにはパーソナライズメニューを終了する前に変更を保存する必要があります。
各ライディングモードで設定したパラメーターを保存することができます。
ライディングモードのパラメーター設定を保存するには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）および（2）を使用して "R.M."（ライディングモード）を選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を使用して変更したいライディングモードを選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）および（2）で "MEM" の表示を選択し（枠が点滅）、ボタン（4）を2 秒間押します。2 秒後に "WAIT" が 2 秒間表示されたのち、"MEM-OK" と表示されて新パラメーターが保存されたことを示します。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了し前の表示に戻ります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

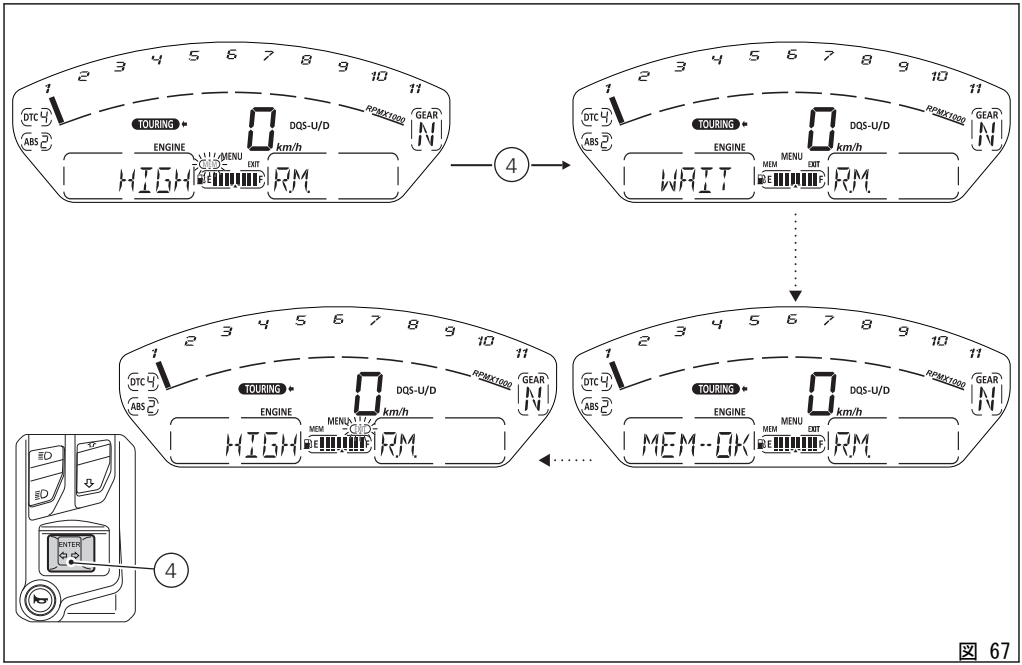

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
RPMX1000
DTC
ABS
TOURING
0
DQS-U/D
km/h
GEAR
N
ENGINE
MENU
MEM
EXIT
E
F
HIGH
WAIT
MEM--OK
RM
4
ENTER

図 67

ライディングモードのパーソナライズ ：エンジンの調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、R.M.(ライディングモード) を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"R.M." (ライディングモード) メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。
希望のライディングモードを選択 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ENGINE) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
この機能に入ると、現在設定されているエンジン出力 (HIGH、MED、LOW) が点滅します。ボタン (1) および (2) を押し、新しく設定したいエンジン出力を選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。

自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。

メニューを終了してパラメーターの保存を行う前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。

参考

ENGINE パラメーターの新設定を保存するには、"パラメーターの保存" に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

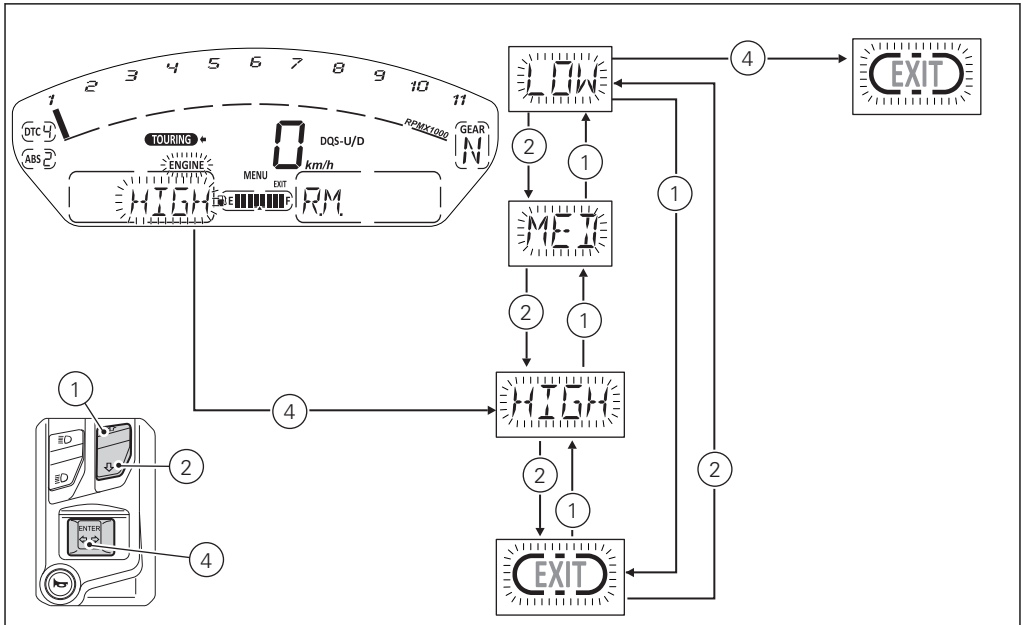

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
RPMX1000
DTC
ABS
TOURING
ENGINE
0
km/h
DQS-U/D
MENU
EXIT
GEAR
N
HIGH
RM
LOW
MED
HIGH
EXIT
ENTER
1
2
4

図 68

ライディングモードのパーソナライズ：DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DTC 介入レベルの設定または解除を行うことができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、"R.M."(ライディングモード) を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"R.M." (ライディングモード) メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。
希望のライディングモードを強調表示 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DTC) を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、現在設定されている DTC レベル、またはステータスが点滅します。ボタン (1) または (2) を押し、新しく設定したい介入レベル (1 から 8)、もしくは " – " マーク (DTC 機能 "OFF") を選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。
自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了してパラメーターの保存を行う前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。

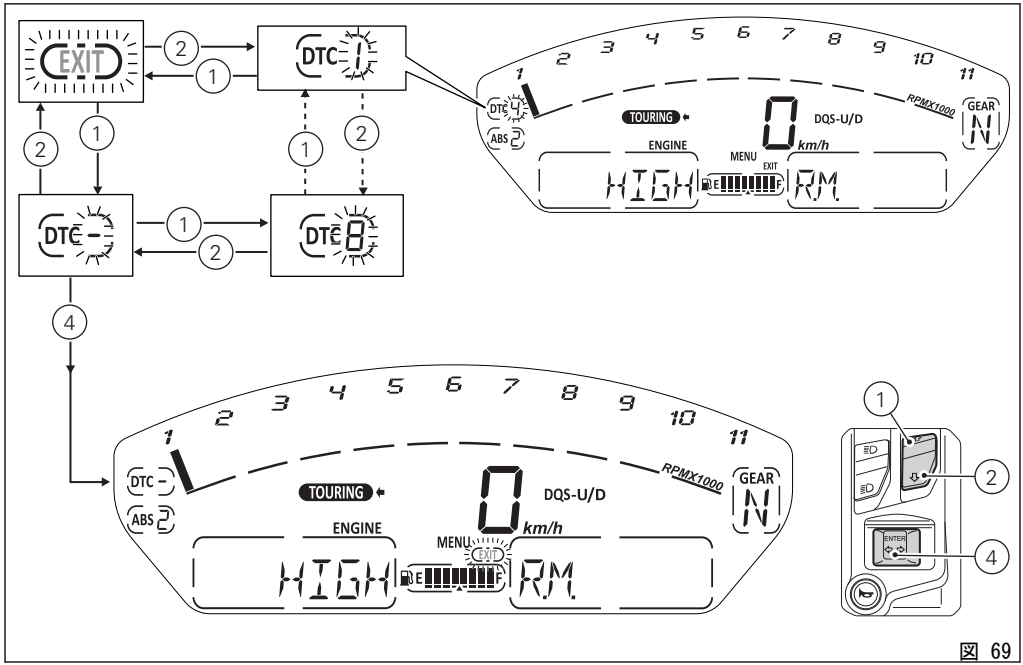

EXIT
DTC 1
DTC 4
ABS 2
TOURING
DQS-U/D
0
km/h
ENGINE
MENU
EXIT
HIGH
RM.
RPMX1000
GEAR
N
DTC -
DTC 8
ENTER

図 69

参考

DTC パラメーターの新設定を保存するには、"パラメーターの保存" に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

参考

"- " (OFF) を選択すると、DTC は解除されます。

ライディングモードのパーソナライズ : ABS の調整

この機能では一つのライディングモードの ABS システム介入レベルの設定、または ABS システムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、"R.M."(ライディングモード) を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"R.M." (ライディングモード) メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。希望のライディングモードを選択したら (横の矢印が点滅)、ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ABS) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
この機能に入ると、現在設定されている ABS レベル、またはステータスが点滅します。ボタン (1) および (2) を押し、新しく設定したい介入レベル (1 から 3)、もしくは " – " マーク (機能 "OFF") を選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。

自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。

メニューを終了してパラメーターの保存を行う前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。

参考

ABS パラメーターの新設定を保存するには、"パラメーターの保存" に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

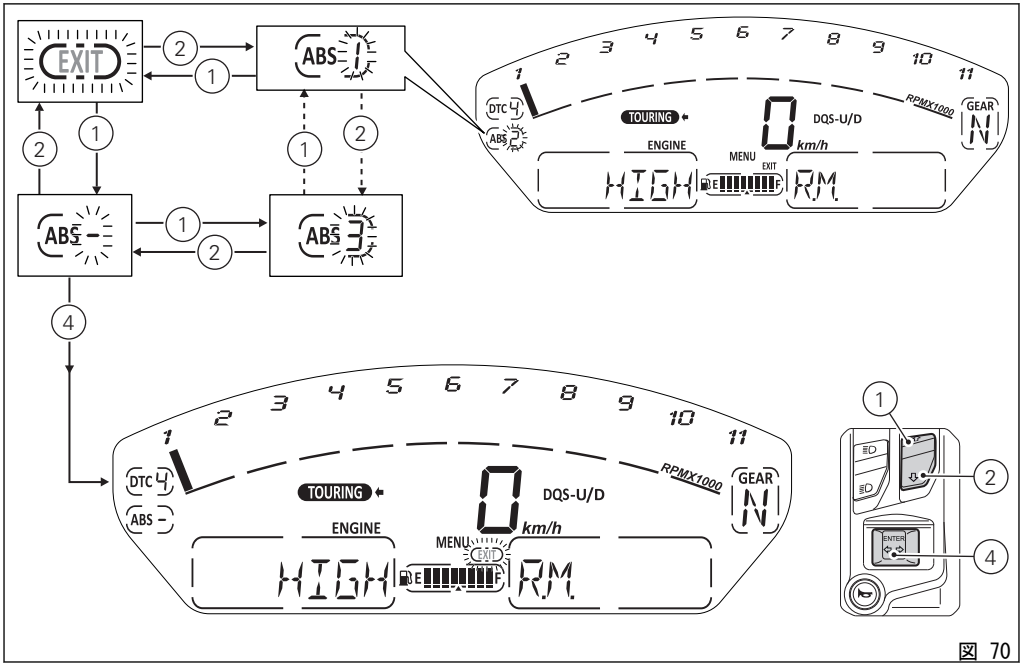

EXIT
ABS 1
ABS 2
ABS 3
ABS 4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
RPMX1000
GEAR
N
DTC
ABS
TOURING
ENGINE
MENU
EXIT
DQS-U/D
0
km/h
HIGH
RM
E
F
ENTER

図 70

参考

この機能を使用して ABS システムを起動または解除する場合、すなわちシステムのステータスを解除から起動、起動から解除へ変更する場合、ABS システムの起動・解除プロセスが実施されます。ABS コントロールユニットのステータス変更には約 6 秒かかります。

重要

ABS 機能の "OFF" を選択した場合は、運転やブレーキングに細心の注意を払うようにしてください。

ライディングモードのパーソナライズ：DQS の起動/解除

この機能では一つのライディングモードの DQS システム介入レベルの設定、または DQS システムの解除を行うことができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、"R.M."(ライディングモード) を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"R.M." (ライディングモード) メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。
希望のライディングモードを強調表示 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DQS) を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、現在設定されている DQS レベル、またはステータスが点滅します。ボタン (1) または (2) を押し、新しく設定したい介入レベルを OFF、

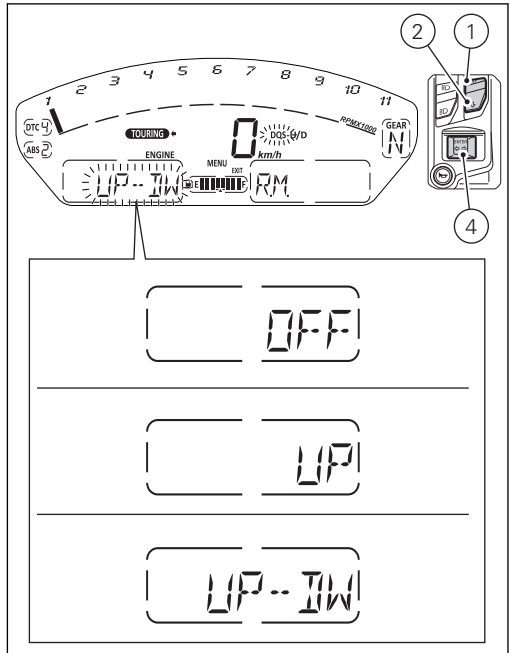


図 71

UP、UP-DW から選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。
自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了してパラメーターの保存を行う前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。
設定メニューに入ります。ボタン（1）またはボタン（2）を押し、"R.M."（ライディングモード）を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン（4）を押します。"R.M."（ライディングモード）メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN）を選択します。
希望のライディングモードを選択したら（横の矢印が点滅）、ボタン（4）を押します。
ボタン（1）または（2）を押して "DEFAULT" を選択します（"DEFAULT" の枠が点滅）。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン（4）を 2 秒間押します。

2 秒後、ライディングモードの左横に矢印が点滅し、パラメーター表示欄（ENGINE、DTC、ABS、DQS）には "点線" が点滅表示されます（2 秒間）。その後、"DF-OK" が 2 秒間表示され、パラメーターがデフォルト値に回復されたことを示します。2 秒後、"EXIT" の枠が自動的に点滅します。ボタン（4）を押して、設定メニューに戻ります。

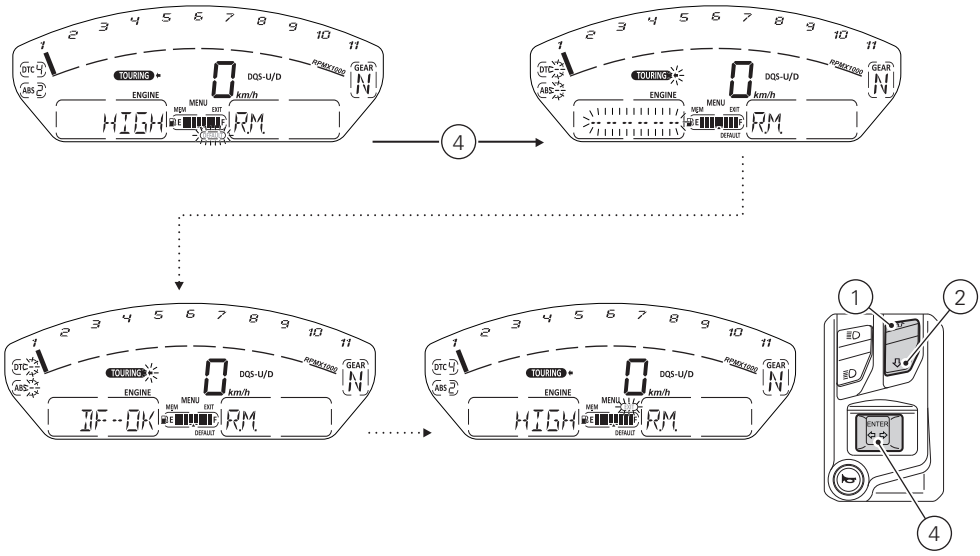

TOURING
ENGINE
MENU
MEM
EXIT
DEFAULT
DQS-U/D
km/h
GEAR
N
DTC
ABS
RPMX1000
HIGH
RM
OF--OK
4
1
2
ENTER

図 72

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復（ALL DEFAULT）

ここではすべてのライディングモードに連動する全パラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。
この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）またはボタン（2）を押し、"R.M."（ライディングモード）を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン（4）を押します。"R.M."（ライディングモード）メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して "DEFAULT" の枠を選択します。表示を選択したら、ボタン（4）を 2 秒間押します。
2 秒後、ライディングモードの 4 つの左矢印が点滅します（2 秒間）。その後、"DF - OK" の文字が 2 秒間表示され、パラメーターがデフォルト値に回復されたことを示します。
2 秒後、"EXIT" の枠が自動的に点滅します。ボタン（4）を押して、設定メニューに戻ります。

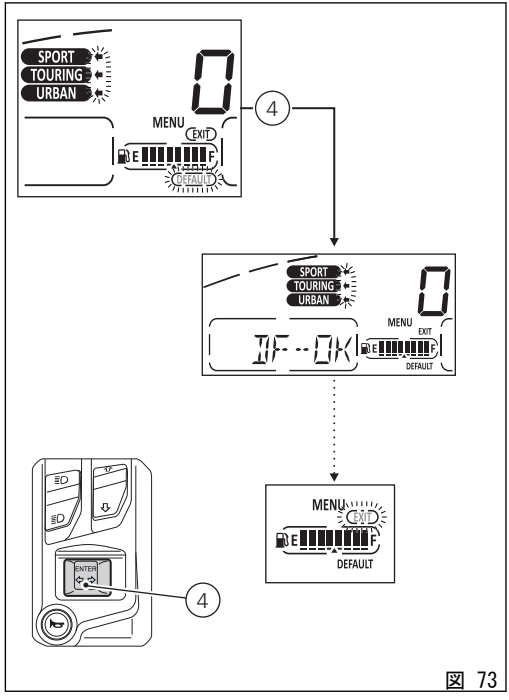


図 73

PIN CODE

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。
PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。
機能を有効にするには "PIN CODE の入力" の手順に従います。
PIN を変更するには "PIN CODE の変更" の手順に従います。
不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"車両のロック解除" の手順に従います ページ 195。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の登録

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "PIN" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

参考
機能に入った時に "0 : " (OLD) が表示され、点線 "- - - -" が点滅する場合は、 PIN がすでに存在し、従ってこの機能が有効な状態であることを示します。

機能に入ると、ディスプレイに "N:"(NEW) が表示され、点線 "- - - -" が点滅します。
PIN CODE を有効にしないで前の画面に戻るには、ボタン (2) を押します。"EXIT" の枠が点滅した状態で再びボタン (4) を押します。
コードの入力 :

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

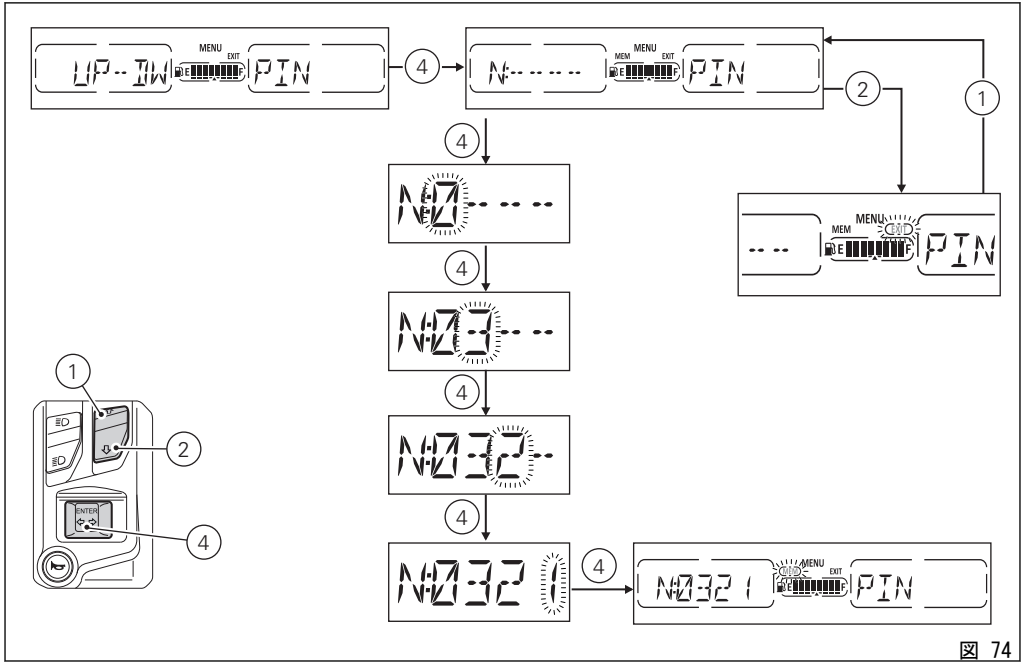


図 74

ボタン（4）を押して最後の桁を決定すると、"MEM" の文字が強調表示され、その枠が点滅します。
入力した PIN を保存するには、ボタン（4）を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEM" の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示され、その後 "EXIT" の枠が点滅します。
最初の PIN CODE を設定して以降は、メニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更のページになります。
ボタン（4）を押して終了します。

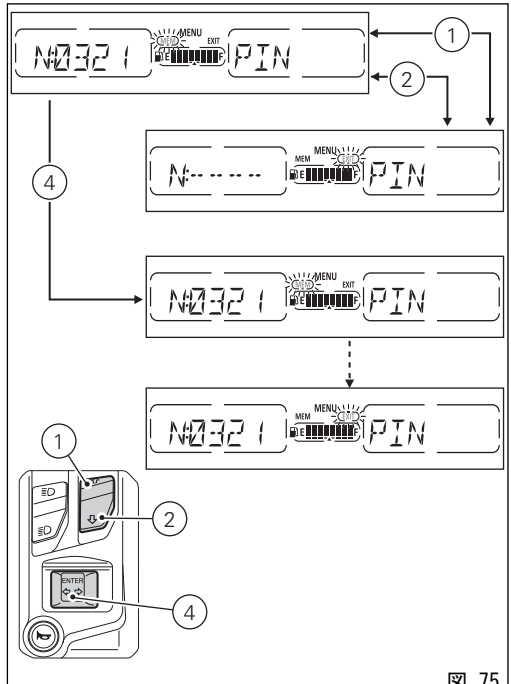


図 75

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して PIN を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

参考
機能に入った時に "N : " (NEW) が表示され、点線 "- - - -" が点滅する場合は、PIN CODE が登録されたことがないことを示します。PIN CODE を登録してください。

機能に入ると、ディスプレイに "0: " (OLD) が表示され、点線 "- - - -" が点滅します。

参考
PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

PIN CODE を変更せずに前の画面に戻るには、ボタン (2) を押します。"EXIT" の枠が点滅した状態で再びボタン (4) を押します。

古いコードの入力 :

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。
ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、4 桁のコードは点滅を止めます。
ボタン (4) を 2 秒間押すと、入力した PIN が検証されます。2 秒後、

- PIN CODE が正しい場合 (D) は、インストルメントパネルは "OK" を 2 秒間点滅表示します。その後、" N: " (new) が表示され、新しい PIN CODE を入力する点線 "- - - -" が点滅します。
- PIN CODE が正しくない場合 (E) は、インストルメントパネルは "ERROR" を 2 秒間点滅表示します。その後、"EXIT" の文字が強調表示されます。

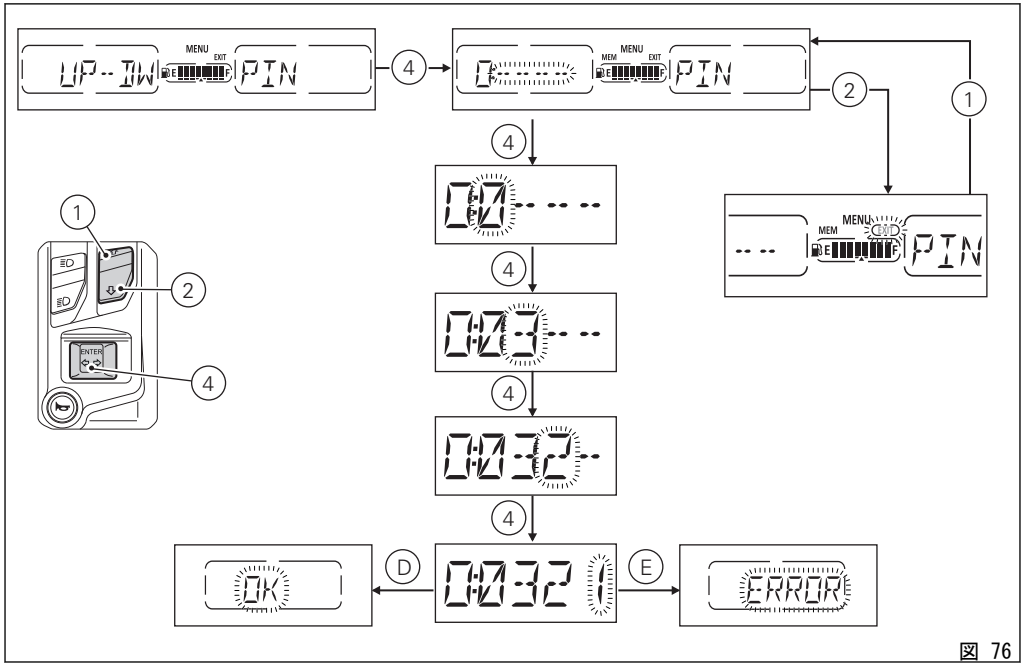


図 76

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

新しいコードの入力：

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

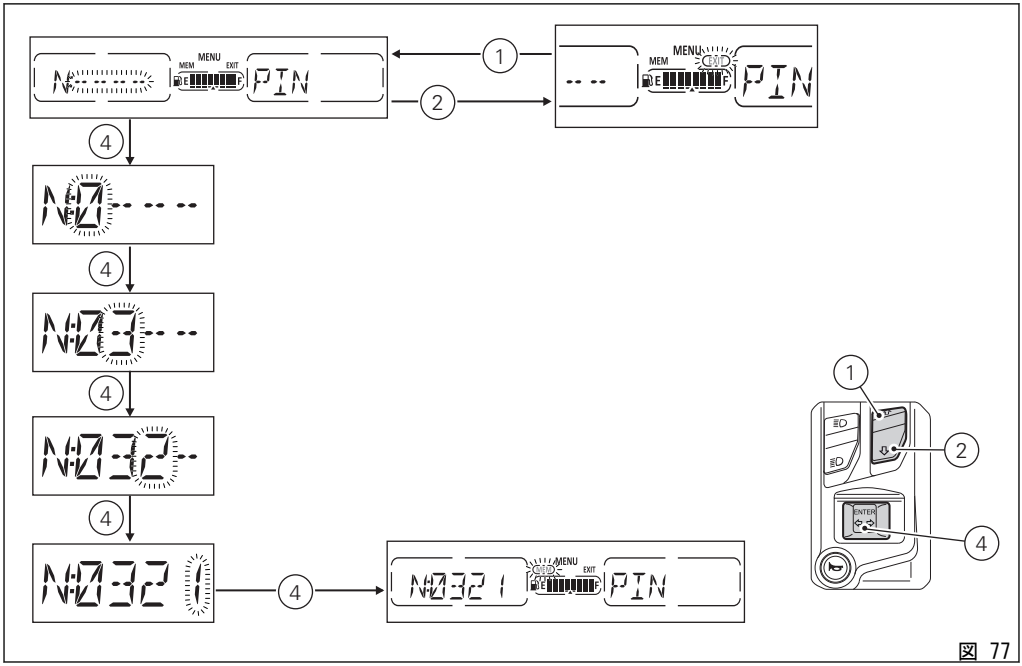


図 77

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEM" の文字が強調表示され、その枠が点滅します。
新しい設定を保存するには、"MEM" の文字が強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると (D)、"MEM" の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示されます。その後 "EXIT" の文字が強調表示され、その枠が点滅します。
保存に失敗した場合、インストルメントパネルは新しい PIN を入力する点線 "- - - -" を強調表示します。 もう一度新しい PIN CODE を入力してください。
ボタン (4) を押して終了します。

参考
PIN CODE の変更は何度でも可能です。

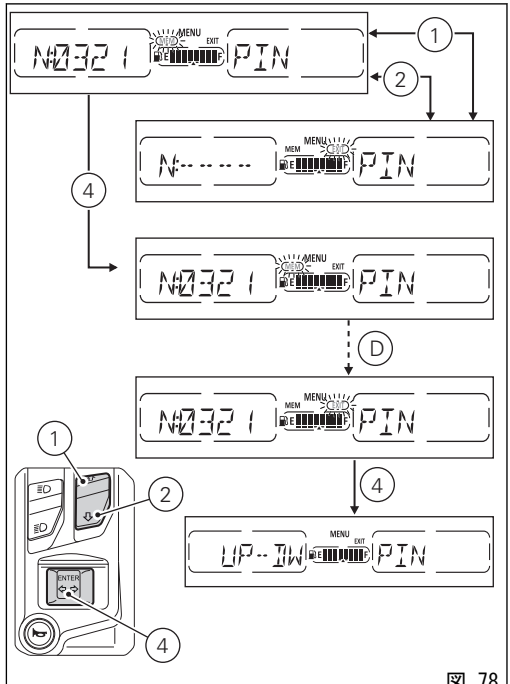


図 78

バックライト設定

この機能では、ユーザーがバックライトの明るさを選択することができます。
バックライトの調整を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で "B.L." を選択し、ボタン (4) を押します。
機能に入ると、現在設定されているモードが点滅します。"MENU" と "EXIT" は表示されたままです。
ボタン (1) および (2) で希望の明るさ (HIGH、MEDIUM、LOW) を選択し、ボタン (4) を押して決定します。
HIGH 設定を選択すると、ディスプレイは 100% の明るさに設定されます。外光が強い時の使用に適します。
MEDIUM 設定を選択すると、ディスプレイは 70% の明るさに設定されます。外光が中程度/弱い時の使用に適します。
LOW 設定を選択すると、ディスプレイは 50% の明るさに設定されます。外光が非常に弱い時や暗闇での使用に適します。
新しい設定を保存するには、"MEM" の枠が点滅して文字が強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると "MEM-OK" の文字が 2 秒間表示されます。その後 "EXIT" の枠が点滅して文字が強調表示されます。メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (4) を押します。

参考

バッテリーが切り離された場合、電源回復後の Key-ON 時に画面の光調整はリセットされ、最大レベルに設定されます。

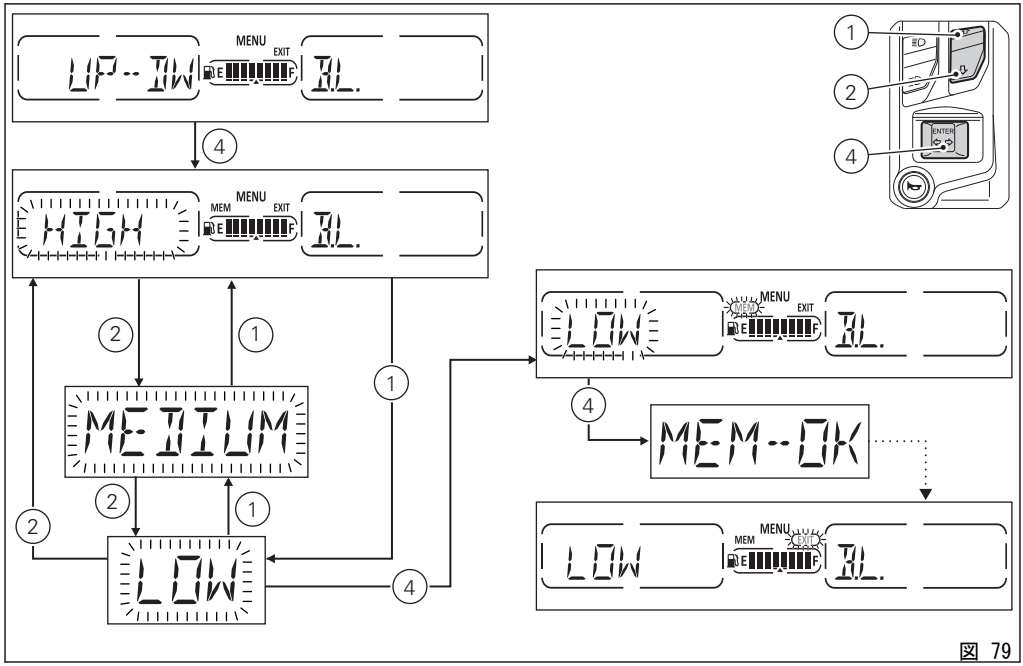


図 79

DRL モード設定

この機能で DRL ステータス：AUTO または MANUAL を選択します。DRL が搭載されている場合にのみ有効です。

バックライトの調整を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) および (2) で "DRL" を選択し、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在設定されているモードが点滅します。"MENU" と "EXIT" は表示されたままです。ボタン (1) および (2) を使用して、AUTO と MANUAL のいずれかを選択することができます。選択した値を設定するにはボタン (4) を押します。続いて、"EXIT" の枠が点滅して文字が強調表示されます。メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (4) を押します。

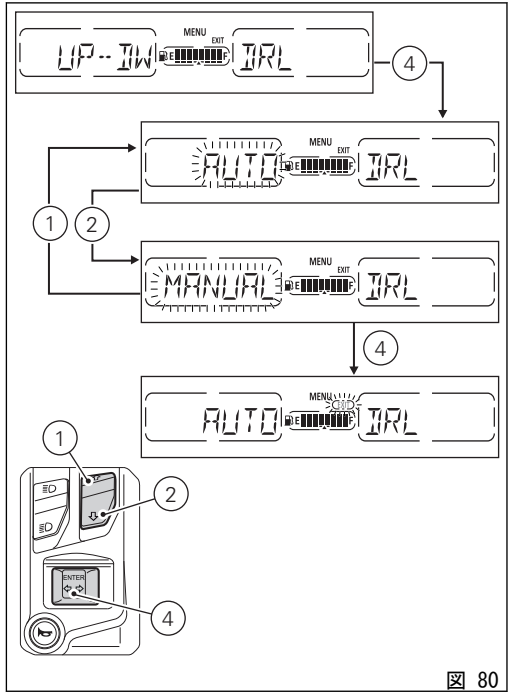


図 80

時計の調整

この機能は時計の調整/設定をします。
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "CLK" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"CLK" メニューに入ります。

以下の手順で時計を調整します。

- "AM" が点滅します。
  - ボタン (2) を押すと、点滅が "PM" に移ります。
  - ボタン (1) を押すと前のステップに戻ります。
- ボタン(4)を押すと、時間表示が点滅し始め、時間の設定に入ります。
  - ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 時間ずつ進みます。 ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 時間ずつ進みます (ボタンを押し続けている間、時間表示は点滅しません)。
- ボタン (4) を押すと、分が点滅し始め、分の設定に入ります。
  - ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 分ずつ進みます。 ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 分ずつ進みます。
  - ボタン (2) を 5 秒以上押し続けると、100 ミリ秒 につき 1 ずつ数字が増加します (ボタン (2) を押している間、数字は点滅しません)。

新しい時間設定を決定 (保存) する場合は、ボタン (4) を押します。
EXIT の枠が点滅します。ボタン (4) を押すと、設定メニューに戻ります。
ボタン (4) を押して終了します。

参考

バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

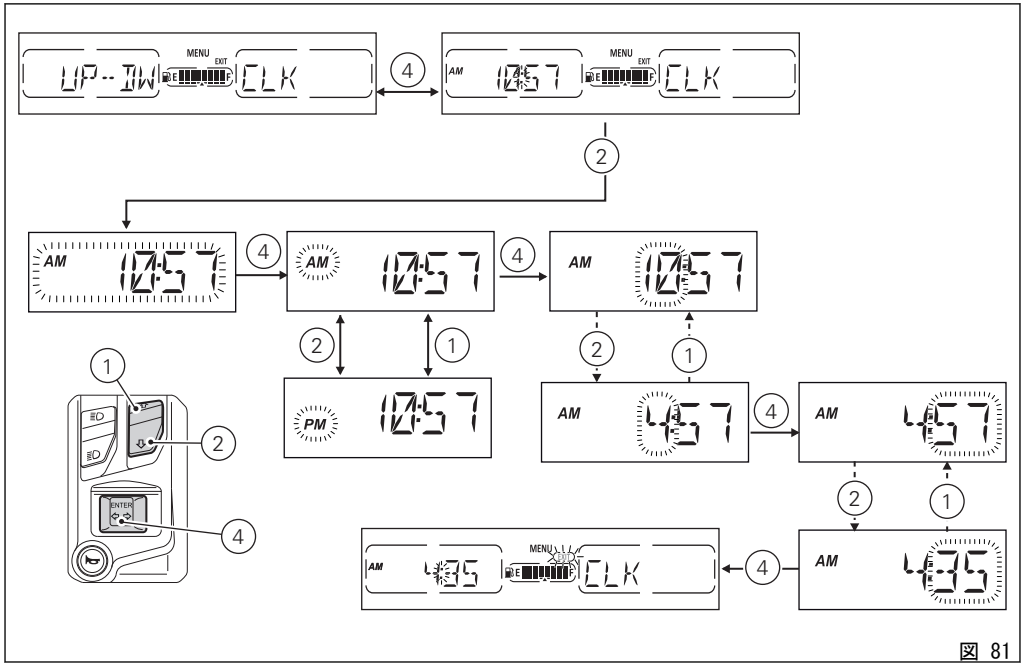


図 81

日付の設定

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "DATE SET" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

重要
バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

設定が可能な項目は以下のように表示されます。

- Y : 年
- M : 月
- D : 日

横には 2 桁の数字が表示されます。
機能に入ると、"Y" が点滅表示されます。
日付を設定/変更するには、ボタン (1) および (2) を押して変更したいフィールド (Y : 年、M : 月、D : 日) を選択し、ボタン (4) を押します。
前の画面 (設定メニュー) に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

年の調整

ボタン (1) または (2) を押して "Y" を選択します。
強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
年に相当する 2 桁のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。99, 98, ...00, 99。
ボタン (2) を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。00, 01, ...99, 00。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された年の値が固定表示に変わります。

月の調整

ボタン (1) または (2) を押して "M" を選択します。
強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
月に相当する 2 桁のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。12, 11, ...01, 12。
ボタン (2) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ...12, 01。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された月の値が固定表示に変わります。

日の調整

ボタン (1) または (2) を押して "D" を選択します。
強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

日に相当する 2 桁のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。31, 30, ...01, 31。
ボタン (2) を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ...31, 01。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された日の値が固定表示に変わります。

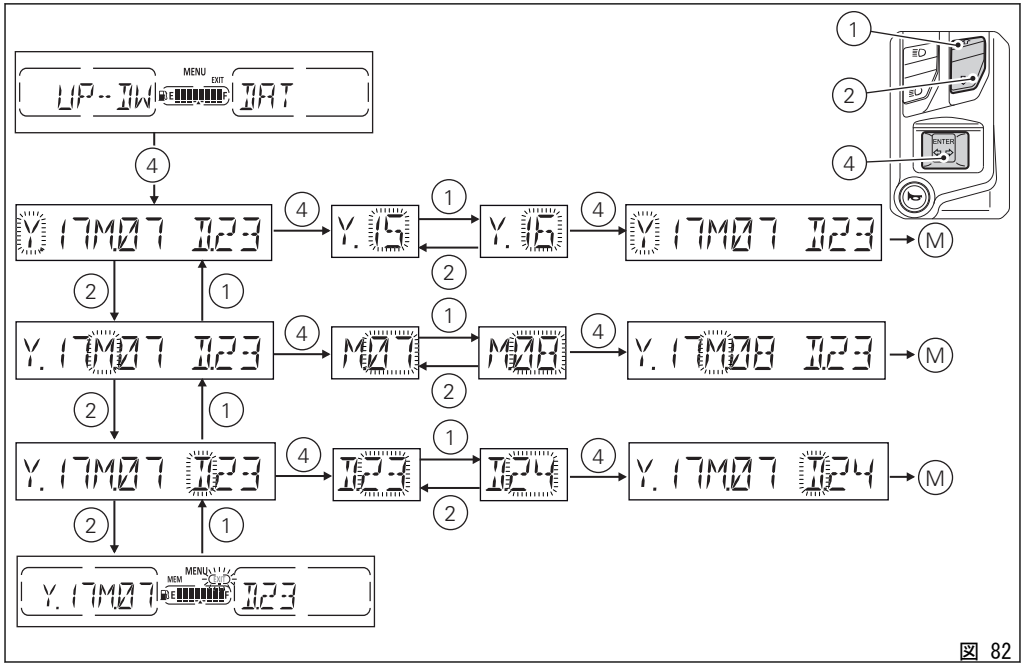


図 82

日付の保存

設定もしくは変更した日付を保存するには、ボタン (1) および (2) を押して "MEM" を選択し、ボタン (4) を 2 秒間押します。インストルメントパネルは "MEM OK" を 2 秒間表示し、自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG DATE" を 3 秒間点滅表示した後、日付に点線 "-- -- --" を表示して自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。この場合も新しく別の日付を設定することができます。
前の画面（設定メニューページ）に戻るには、"EXIT" の文字が強調表示されている状態でボタン (4) を押します。

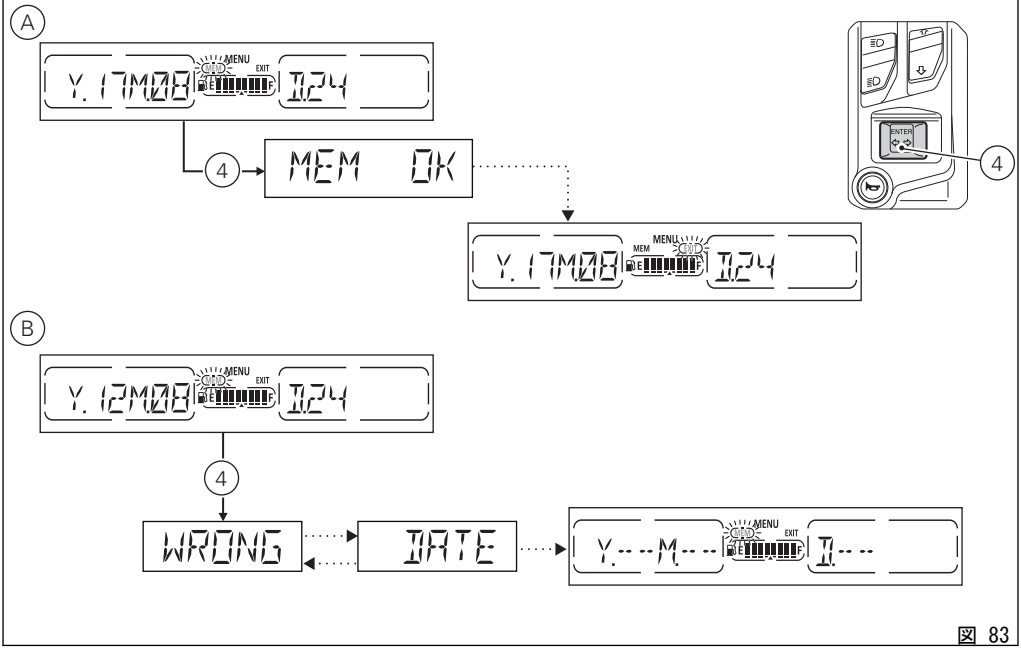

A
Y.17M08
MENU
EXIT
11.24
4
MEM OK
ENTER
4
Y.17M08
MEM
MENU
11.24
B
Y.12M08
MENU
EXIT
11.24
4
WRONG
DATE
Y.--M--
MENU
EXIT
11.--

図 83

サービス情報

この機能では、定期点検 Desmo Service、Oil Service、Annual Service 期限に関する情報を表示することができます。
サービスの期限を表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) および (2) で "SRV" を表示してボタン (4) を押します。
次の情報を見ることができます。

- Desmo Service : DESMO SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離（キロ または マイル）をカウントダウン表示します。Desmo Service マーク (A) が点滅すると表示されます。
- Oil Service : OIL SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離（キロ または マイル）をカウントダウン表示します。Oil Service マーク (B) が点滅すると表示されます。
- Annual Service : ANNUAL SERVICE の期限日を示します。日付マーク (C) が点滅すると表示されます。

メニューに入ると、"SERVICE" の文字が固定表示され、Desmo Service マーク (A) が点滅します。DESMO SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離（キロ または マイル）が表示されます。
ボタン (1) または (2) を押して、Oil Service マーク (B) を点滅させます。OIL SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離（キロ または マイル）が表示されます。
ボタン (1) または (2) を再び押して、日付マーク (C) を点滅させます。ANNUAL SERVICE の期限日が表示されます。

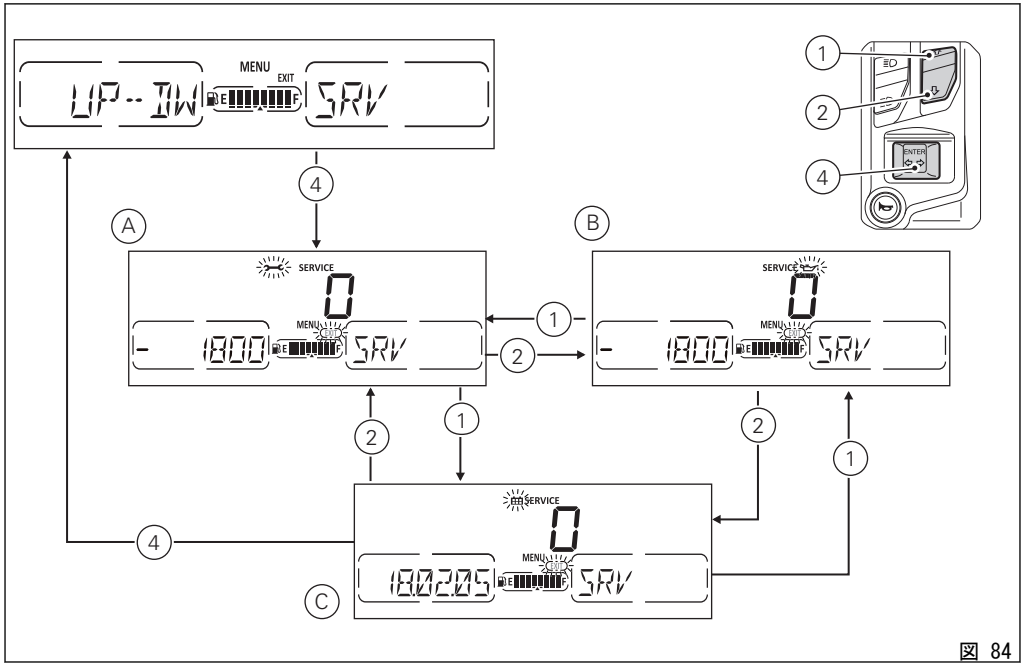


図 84

LAP

LAP 機能は、設定メニューの LAP ページから起動/解除することができます。機能が有効になると、メイン画面のメニュー 1 にストップウォッチ（ 0’ 00’’ 00 ）が停止した状態で表示されます。

参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。

LAP 記録の起動/解除

LAP 記録の起動/解除を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で LAP を選択し、ボタン (4) を押します。
この機能に入ると、現在設定されている LAP 機能ステータスが表示されます。ボタン (1) および (2) で新しく設定したいステータスを選択し (表示が点滅すると選択状態にあります)、ボタン (4) を押して決定します。ステータスが新しく設定され、表示が点滅から固定表示に戻ります。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。
LAP 機能ステータス "OFF" は LAP 機能が解除された状態、"ON" は起動状態になります。"DATA" を選択すると、メモリーされている LAP の表示に移ります (A)。一方 "ERASE" を選択すると、メモリーされている LAP を削除することができます (B)。

参考

Key-OFF 時に " LAP " 機能ステータスは保存され、次回の Key-ON 時に保存されたステータスを回復します。

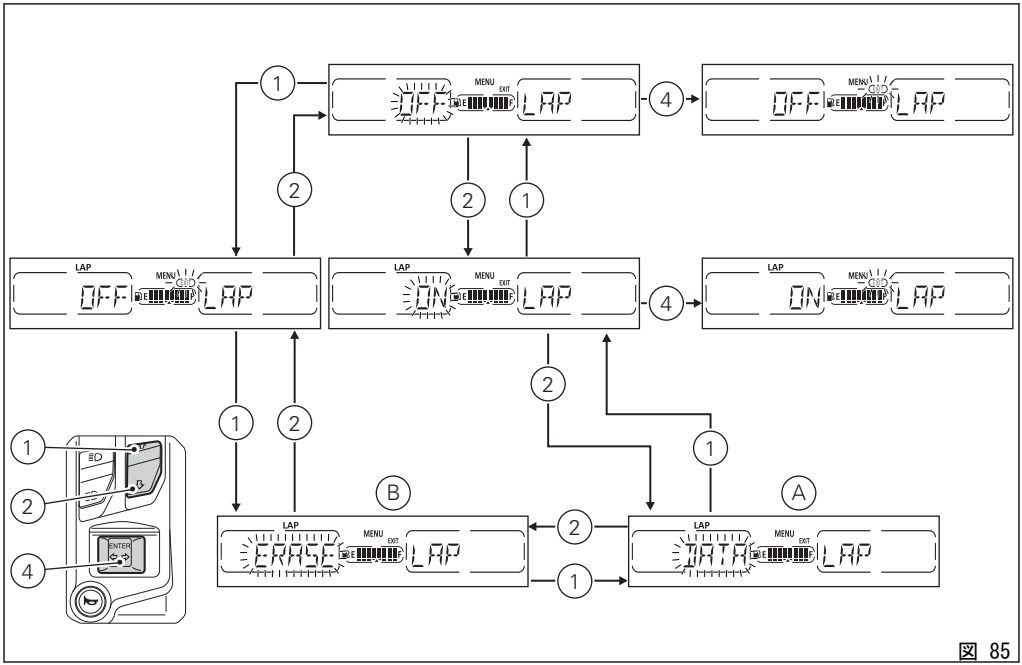


図 85

メニューの "LAP の記録" 機能を使用して、すでにメモリーされている LAP をディスプレイに表示することができます。
表示可能な情報はラップタイム、最大回転数 (rpm)、最高スピードです。さらに、メモリーされている LAP を削除することができます。

記録済み LAP の表示

メモリーされている LAP を表示するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して LAP を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
ボタン (1) および (2) で "DATA" を選択し (表示が点滅すると選択状態にあります) 、ボタン (4) を押して決定します。
機能に入ると以下の内容が表示されます。

- LAP 数の後に "N" の文字 (例 : 01.N)
- 記録されたラップタイム
- ラップ中に記録された最高スピード
- ラップ中に記録された RPM

ボタン (1) および (2) を押すとメモリーされた LAP をひとつずつ表示することができます。ボタン (2) を押すと、次のラップが表示され (LAP 01 ...LAP 02 ...LAP 03 ...LAP 30 のようにラップを昇順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。ボタン (1) を押すと前のラップが表示され (LAP 30 ...LAP 29 ...LAP 28 ...LAP 01 のようにラップを降順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考
記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。

参考
メモリーにデータが記録されていない場合、ストップウォッチ "-.--.--"、最大回転数 MAX = ------、最高スピード MAX = ----- が表示されます。

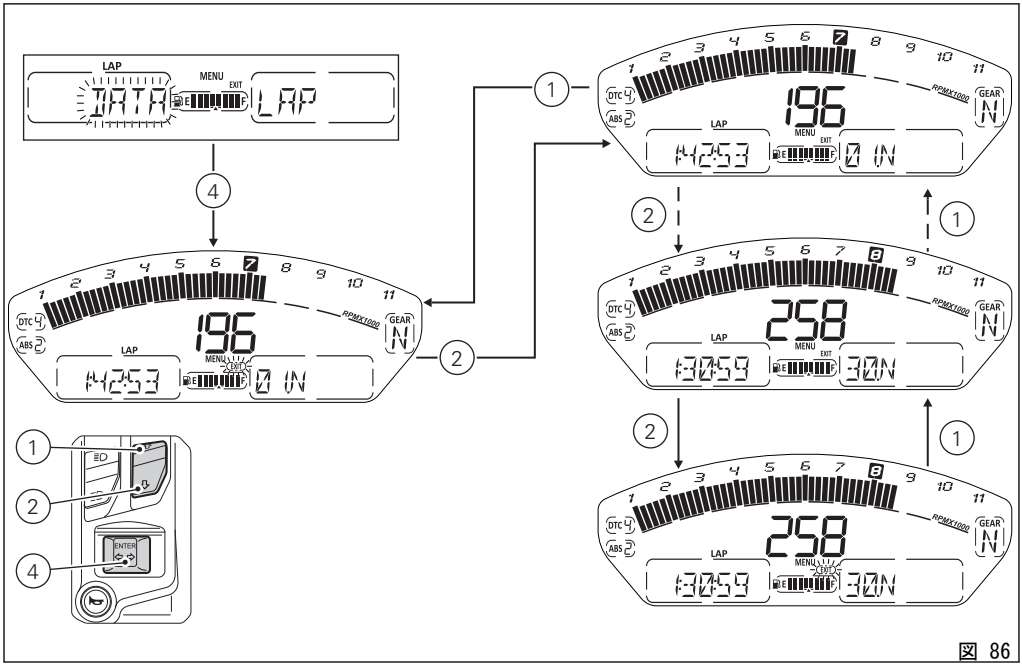

LAP
MENU
EXIT
DATA
LAP
196
1:42:53
0 IN
258
1:30:59
30N
RPMX1000
GEAR
N
DTC
ABS
ENTER
1
2
4

図 86

LAP 記録の削除

メモリーされている LAP を削除するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して LAP を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
ボタン (1) および (2) で "ERASE" を選択し (表示が点滅すると選択状態にあります)、ボタン (4) を 2 秒間押して決定します。
2 秒後、インストルメントパネルのディスプレイに以下が表示されます。

- "WAIT" の文字が 2 秒間
- "OK" の文字を 2 秒間。削除の結果を表示しています。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。
削除が終了すると、インストルメントパネルは "EXIT" の文字を表示します。

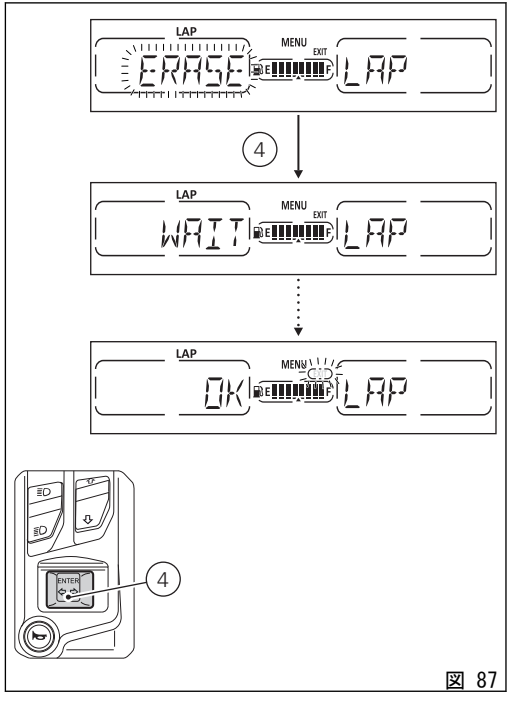


図 87

単位の設定

この機能では表示単位の変更が可能です。
手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "UNT" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、ボタン (1) および (2) で単位を新しく設定したい測定項目、または自動設定回復を選択します。

- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMP.)
- 燃費 (CONS.)

測定可能な項目に加えて、表示単位をデフォルト単位に回復する "DEFAULT" の文字枠を選択することもできます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

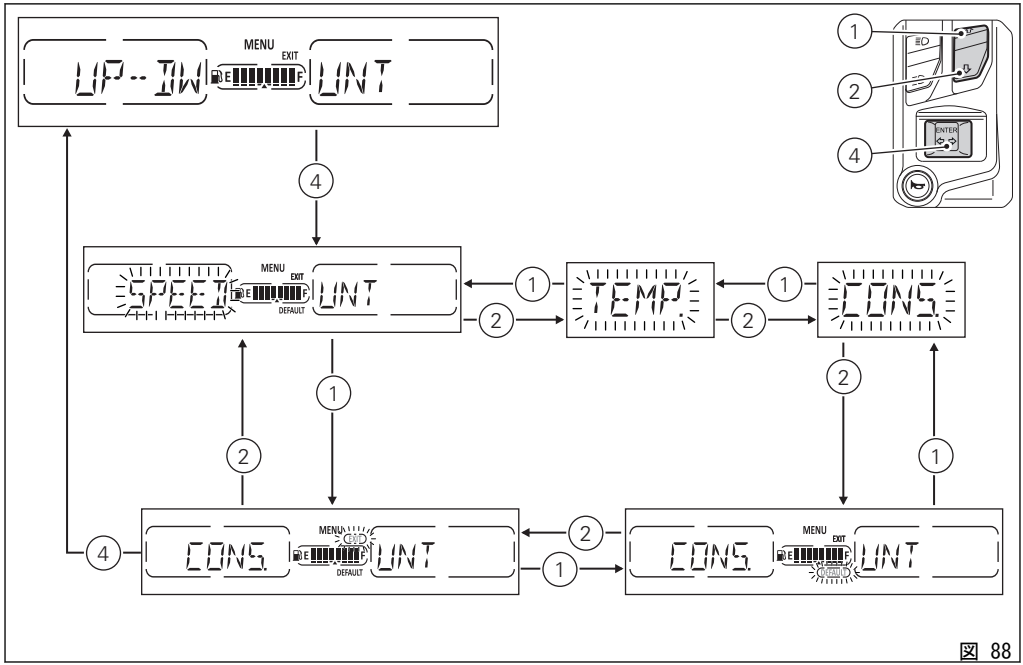

MENU
EXIT
UP--DN
UNT
4
SPEED
MENU
EXIT
DEFAULT
UNT
1
2
TEMP
1
2
CONS
2
1
2
1
CONS
MENU
DEFAULT
UNT
4
2
1
CONS
MENU
EXIT
UNT
1
2
4
ENTER

図 88

単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます (走行距離の単位も同時に変更します)。
前のページの記載に従い、"UNT" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "SPEED" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"SPEED" メニューに入ります。
機能の入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリスト km/h、mph が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次の単位が、ボタン (1) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、ボタン (4) を押して決定します。選択した単位はインストルメントパネルから保存され、"SPEED" の文字が再び点滅します。
ボタン (1) を押すと "EXIT" の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード、平均スピード (km/h または mph)

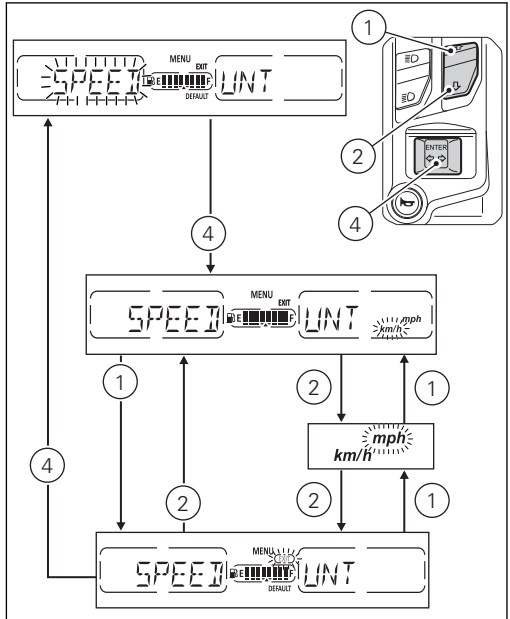


図 89

- オドメーター、TRIP1、TRIP2、RANGE（km または mi）

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。
前のページの記載に従い、"UNT" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "TEMP." を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"TEMP." メニューに入ります。機能に入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリストが表示されます。° C 、° F が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次の単位が、ボタン (1) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、ボタン (4) を押して決定します。選択した単位はインストルメントパネルから保存され、"TEMPERATURE" の文字が再び点滅します。
ボタン (1) を押すと "EXIT" の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- エンジンクーラント温度および外気温

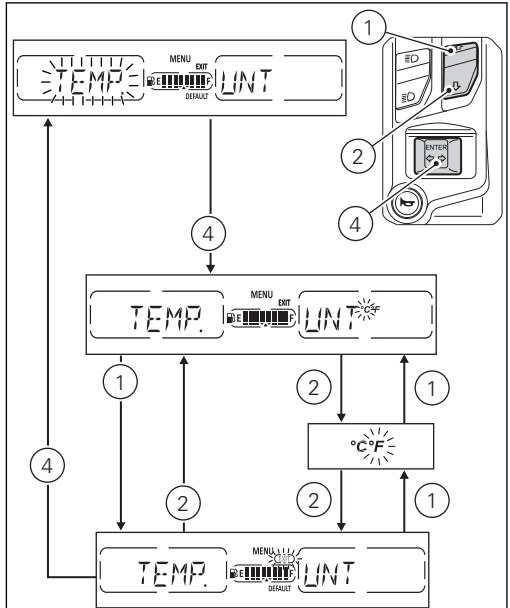


図 90

単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。前のページの記載に従い、"UNT" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "CONS." を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"CONS." メニューに入ります。
機能に入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリストが表示されます。L / 100km, km / L, mpg (UK), mpg (USA) が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次の単位が、ボタン (1) を押すと前の単位が強調表示されます。
希望の単位を選択したら、ボタン (4) を押して決定します。選択した単位はインストルメントパネルから保存され、"CONS." の文字が再び点滅します。
ボタン (1) を押すと "EXIT" の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

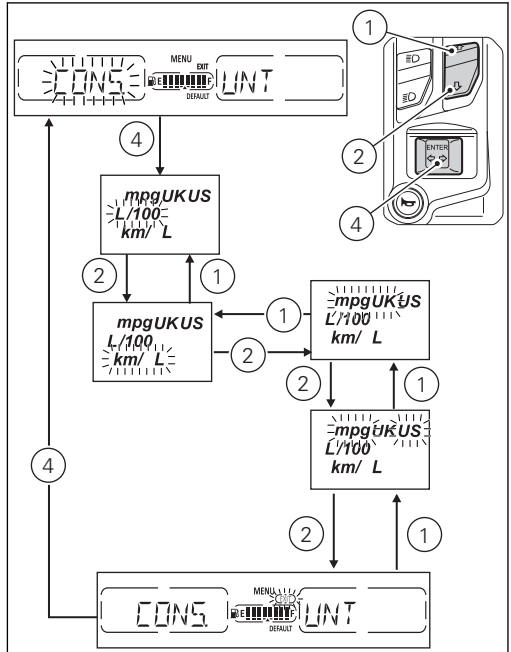


図 91

- 瞬間燃費および平均燃費

単位の設定自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。
前のページの記載に従い、"UNT" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "DEFAULT" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を 2 秒間押します。ディスプレイに "WAIT" が 2 秒間表示されます。その後、単位がデフォルト設定に回復されたことを示す "DF-OK" が表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

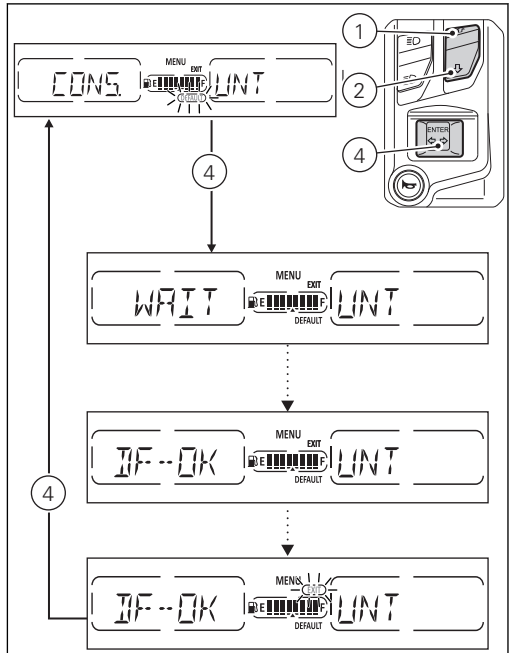


図 92

バッテリー電圧

ここでは車両のバッテリー電圧レベルを確認することができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "BAT" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

ディスプレイには次のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.0 V 未満の場合、"LOW" の文字が点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 V から 11.7 V の場合、電圧データが点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8 V から 14.9 V の場合、電圧データが固定表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V から 16.0 V の場合、電圧データが点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 16.1 V を超える場合、"HIGH" の文字が点滅表示されます。

メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

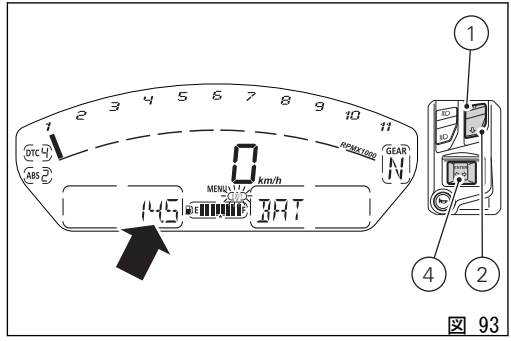


図 93

エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)

この機能はエンジン回転数 (RPM) をデジタル表示します (より正確な値を得るため、アイドリング中に行うことが推奨されます)。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "RPM" を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"RPM" メニューに入ります。ディスプレイにエンジン回転数情報が 50 rpm 単位の数字で表示されます。
インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 "- - - - -" が表示されます。これは値が表示できないことを示しています。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

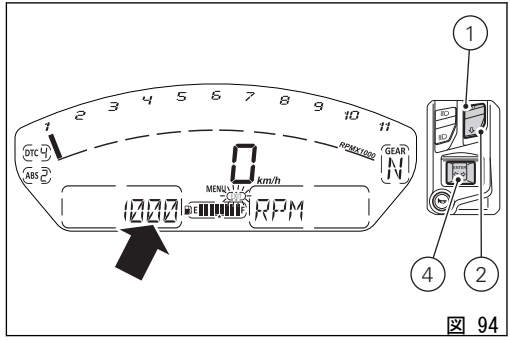


図 94

タイヤ設定

この機能は、ユーザーがドゥカティ指定のサイズクラスはそのままで標準装備とは異なるタイヤを装着する場合に、システムの再キャリブレーションを行います。またリアスプロケットとフロントスプロケットを交換した場合に、新たに導入された変更を考慮して車両に搭載されている制御装置のパラメーターを再設定するために新しいギア比の確認を行います。
ユーザーは設定メニューから、新しいタイヤ周長および最終減速比の自己学習プロセスの開始、または標準装備用ドゥカティデフォルト設定の回復を行うことができます。標準装備 : Pirelli Diablo Rosso III、フロント 120/70 - 17、リア 180/55 - 17
これらを実行するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "TSU" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"TIRE SET-UP" メニューに入ります。

ボタン (1) および (2) を使用し、"START" または "DEFAULT" の文字を選択します。"DEFAULT" は車両の設定がドゥカティデフォルト設定でない場合にのみ選択することができます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

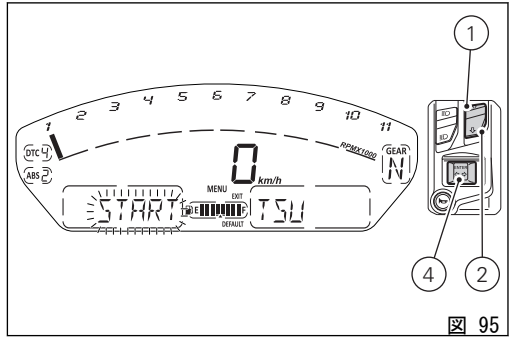


図 95

自己学習プロセス

走行速度 30 Km/h (18.6 mph) ～ 50 Km/h (31 mph) を維持し、ギアを 3 速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。
自己学習プロセスを起動するには、ボタン (1) または (2) で “START” (点滅) を選択し、次にボタン (4) を 2 秒間押します。
ディスプレイにはバーグラフ、現在の走行速度、使用ギア、“TSU” の文字、“READY” の文字 (点滅) が表示されます。
続いて、インストルメントパネルが自己学習を正常に完了するために維持するべき速度の範囲とギアが、ディスプレイにスクロール表示されます。走行速度とギアがディスプレイに指定されている状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。

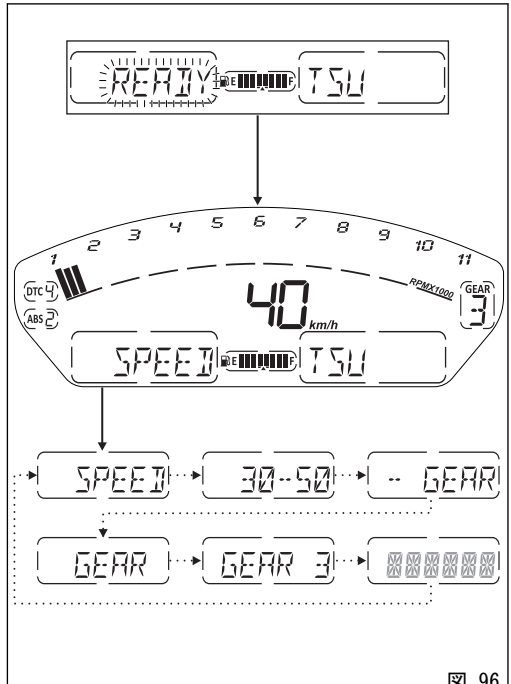


図 96

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに “ENDED” の文字が表示され (A)、数秒後に前の画面に戻ります。

ユーザーは "READY" の時点で、ボタン (1) を 2 秒間押してプロセスを中断することができます。プロセスを中断した場合は、インストルメントパネルに “ABORT” の文字が表示され (B)、数秒後に前の画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検知された場合は、インストルメントパネルに “FAILED” の文字が表示され (C)、数秒後に前の画面に戻ります。

図中に表示されている速度範囲およびギアの表示は参考として記載されているものであり、実際の車両設定値を示すものではありません。

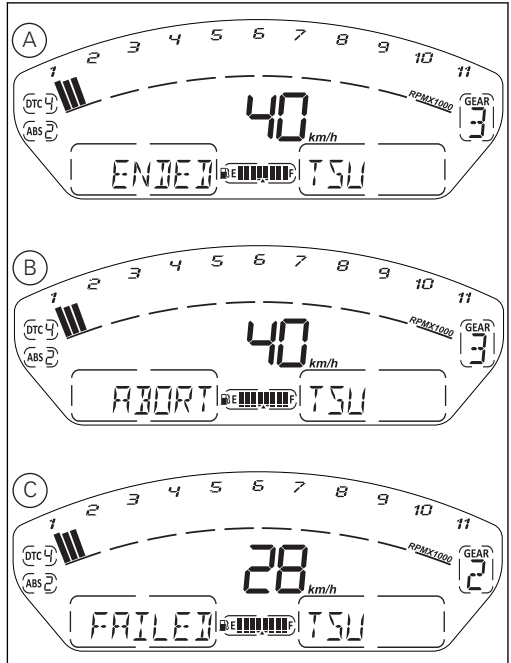


図 97

デフォルト設定の回復

デフォルト設定を回復するには、ボタン (1) および (2) で "DEFAULT" を選択し (枠が点滅)、メニュー決定ボタン (4) を 2 秒間押してください。
この時点でディスプレイには “WAIT..” の文字が表示されます。数秒後に “OK” の文字が 2 秒間表示されて前の画面に戻ります。

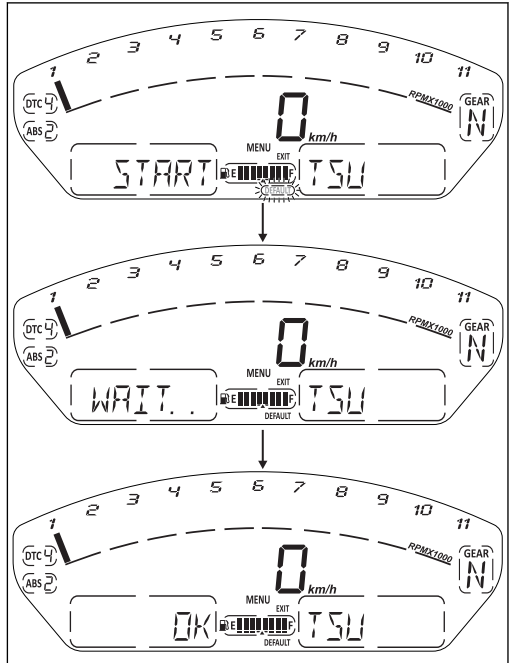


図 98

Bluetooth デバイス設定

車両にドゥカティマルチメディアシステム (DMS) と Bluetooth コントロールユニットが搭載されている場合に限り、この機能を起動することができます。本モデル用の Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

この機能では Bluetooth デバイスのペアリング、およびその解除を行います。

これらを実行するには、設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "B.T." を選択します。機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

"BLUETOOTH" メニューには Bluetooth 機能が起動しているときのみ入ることができます。

プレーヤーが作動している時や着信中、通話中、最呼び出し中には BLUETOOTH メニューに入ることはできません。

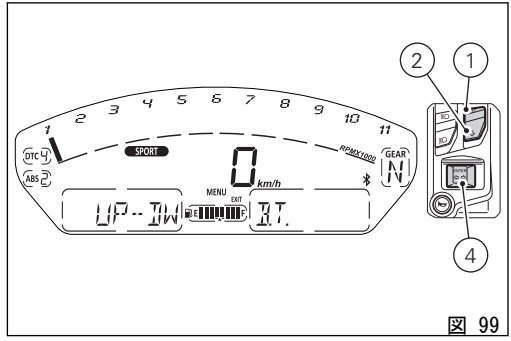


図 99

デバイスのペアリング方法は "新しいデバイスのペアリング" を参照してください。
デバイスのペアリング解除方法は "ペアリングデバイスの削除" を参照してください。
Bluetooth 設定メニューには以下の情報が表示されます。

- ペアリングされているデバイス数 (0 ～ 5)
- ペアリング中に検出したデバイス数 (0 ～ 20)
- Paring、Exit、Setting Menu の各ラベル
- 一番目のペアリングデバイス名 (ペアリングされている場合) (メニュー 1)
- その時点で表示されているペアリングデバイスタイプに該当するアイコン
- メニュー 2 に "DEL" (delete) の文字 (デバイスを削除するために使用)

Bluetooth 設定メニューを終了するには、ボタン (1) および (2) を押して "EXIT" の文字を選択します。文字が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

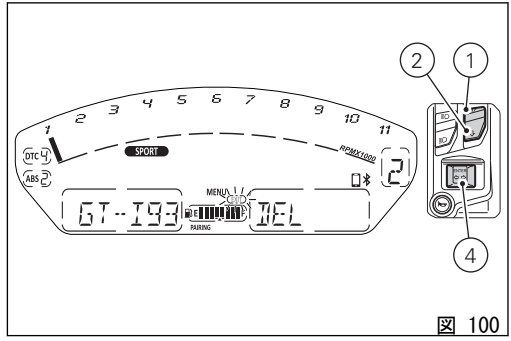


図 100

新しいデバイスのペアリング

この機能ではひとつ以上の Bluetooth デバイスを "PAIRING" コマンドを使用してペアリングすることができます。
Bluetooth デバイスをコントロールユニットが検出してアクセスできるように設定します。
検出モードにあるとき、Bluetooth デバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようにします。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。
車両には Bluetooth コントロールユニットが装備されています。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告
Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります（スマートフォン、ヘッドセット）。

警告
ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット（音楽共有、マルチメディア再生など）の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン（Bluetooth 対応プロファイルによる）に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。
- "Kit Ducati キット（部品番号： 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン（"Ducati キット 部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも）

警告
外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット（部品番号：981029498）ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます（詳しくは Ducati キット（部品番号：981029498）に付属のヘッドセット取扱説明書を参照）。

参考

Ducati キット（部品番号： 981029498）は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

BLUETOOTH 設定メニューに初めてアクセスすると、デフォルトラベルとして "PAIRING" が強調表示されます。
ボタン (4) を押してペアリング機能を起動すると、Bluetooth デバイスの検索を始めます。メニュー 1 には "WAIT.." の文字が表示されます。検索中はメニュー 1 に表示される "WAIT.." の文字に加えて、2 本の点線が点滅します。
近くにあるデバイスを検出した時点でペアリングは自動的に終了します。
ペアリング中は "EXIT" 機能のみ使用が可能です。進行中のペアリングを終了したいときは、ボタン (1) および (2) を押して "EXIT" の文字を選択してボタン (4) を押します。

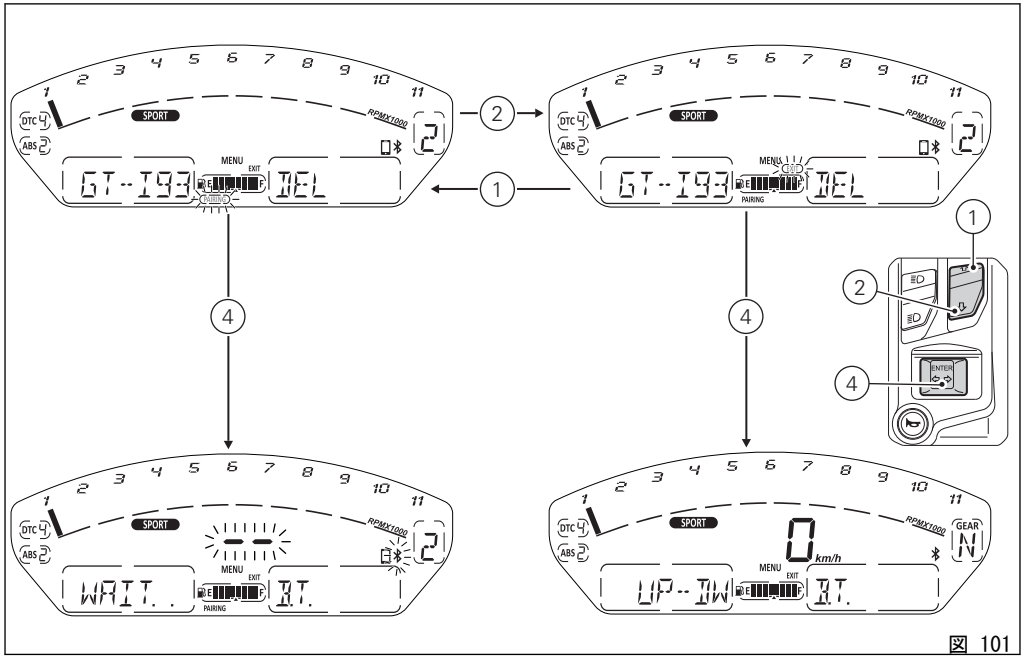

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
RPMX1000
SPORT
DTC
ABS
MENU
EXIT
PAIRING
GT-I93
DEL
WAIT..
BT.
UP-DW
0
km/h
GEAR
N
ENTER

図 101

ペアリングが終了すると、検出されたデバイス数が表示されます。
ペアリングに失敗した場合は (A)、メニュー 1 に "PAIR"、メニュー 2 に "OFF" が表示されます。この場合は BLUETOOTH 設定メニューを一旦終了し、もう一度メニューに入りペアリングをやり直してください。
ペアリングが正常に終了した場合は (B)、Bluetooth デバイスを検出した時点でデバイス名がデバイス一覧に表示されます。デバイスは最大 20 個まで表示することができます。

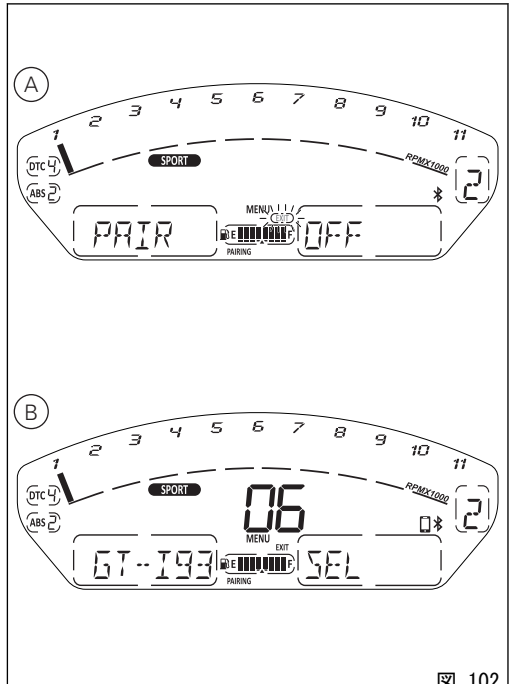


図 102

ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、Bluetooth ON 状態であってもすでにペアリングされているデバイスは表示されません。
完全なデバイス名がスクロールしながら表示されます。
ボタン (1) および (2) を押して、ひとつのデバイスから別のデバイスに移行することができます。
選択するデバイスが決まったら、ボタン (4) を押して選択の決定に移ります。メニュー 2 に "SEL" の文字が点滅します。
この時点でボタン (1) および (2) を押して "SEL" 機能を選択するか、"EXIT" 機能を選択することができます。

- "SEL" を選択してボタン (4) を押すと、文字がメニュー 2 に表示されたまま、メニュー 1 に選択したデバイス名の最初の 6 文字が表示されます。この方法で、選択したデバイスがペアリングされます。
- "EXIT" を選択してボタン (4) を押すと "Pairing" 機能を終了し、メインの設定メニューに戻ります。

二つ以上のデバイスが同じデバイス名を持っている場合は、検出デバイス一覧には同じ名前のラベルが二つ以上表示されます。

検出されたデバイスにデバイス名が存在しない場合は、検出デバイス一覧には表示されません。

ペアリングが可能な最大デバイス数は以下のとおりです。

- スマートフォン 2 台
- ライダーヘルメット 1 個
- パッセンジャーヘルメット 1 個
- ナビゲーター 1 台

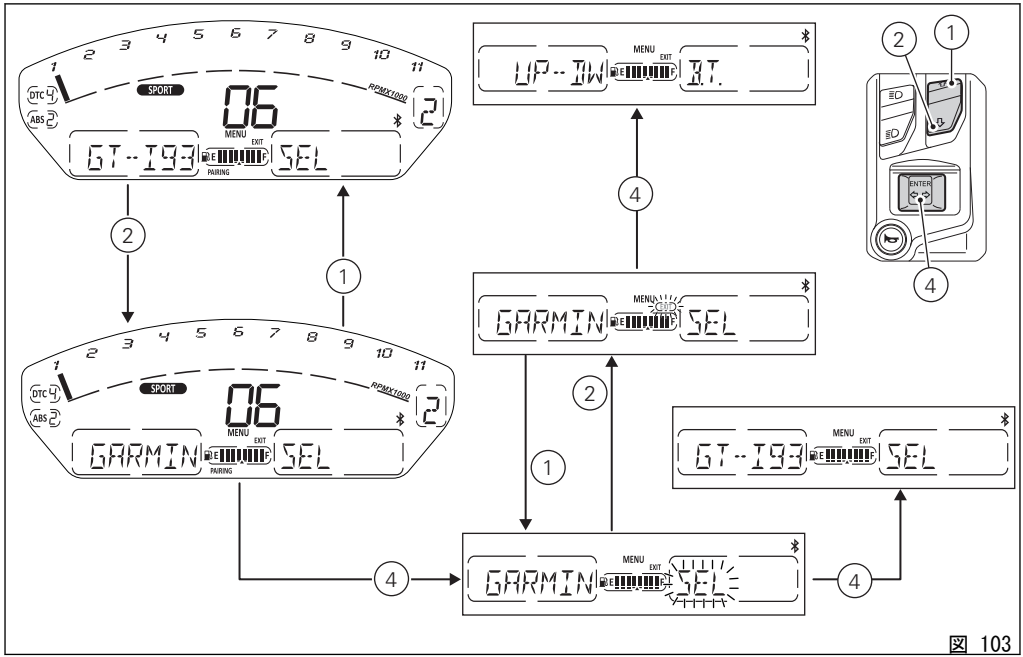

SPORT
06
MENU
EXIT
PAIRING
GT-I93
SEL
GARMIN
UP-DW
BT.
ENTER
RPMX1000
DTC
ABS
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

図 103

すでに 5 つのデバイスがペアリングされている場合にユーザーが新たにペアリングしようとすると、メニュー 1 に "MAX 5"、メニュー 2 に "DEV" の文字が 3 秒間点滅します。
3 秒後、メニュー 1 に一番目のペアリングデバイス名が表示され、メニュー 2 に "DEL" が表示されます。表示されたペアリングデバイスを解除することができます。複数のペアリングデバイスを解除するには、"ペアリングデバイスの削除" を参照してください。
Bluetooth 設定メニューを終了するには "EXIT" の文字を選択し、ボタン (4) を押します。

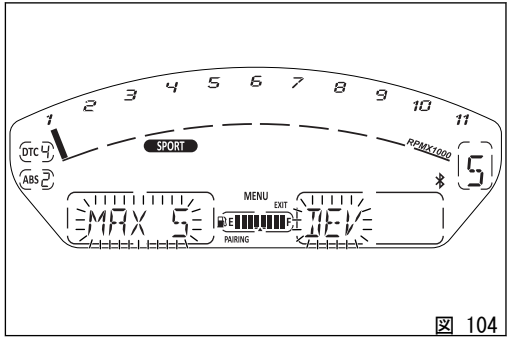


図 104

デバイスが選択されると、ユーザーはボタン（1）、（2）を押して接続されたデバイスタイプを選ぶ必要があります。最後にボタン（4）を押して決定します。デバイスタイプは順番に次のとおりです。

- スマートフォン
- ライダーヘルメット
- パッセンジャーヘルメット
- ナビゲーター

ペアリングを中止するには、中止するのが適切だと判断した時に "EXIT" 機能を選択してボタン（4）を押します。これによりペアリングが終了し、Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。
一方デバイスがペアリングされると、ペアリングデバイス数が更新されます（0 ～ 5）。
ペアリングは Bluetooth 設定メニューを終了するか、検出されたデバイスの他に Bluetooth デバイスが存在しないと終了します。

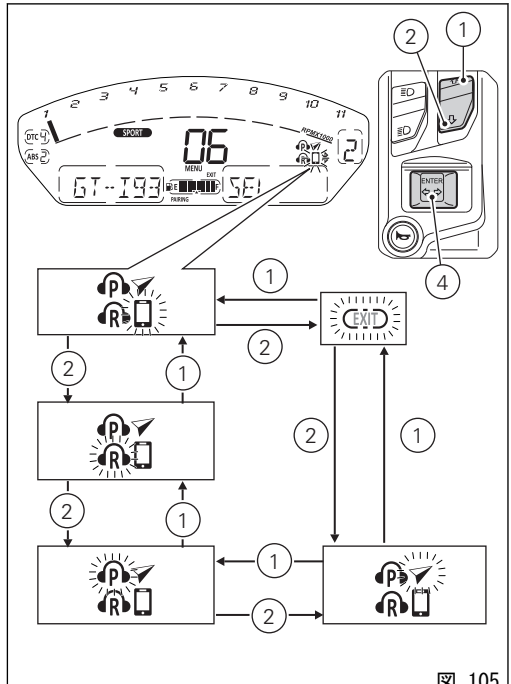


図 105

スマートフォンをペアリングする場合には、Bluetooth コントロールユニットとペアリングするためのペアリングコード (0000) の入力が必要になります。デバイスを Bluetooth コントロールユニットにペアリングする初回のみコードを入力します。
この場合には、インストルメントパネルに入力する PIN が表示されます。メニュー 1 に "0000"、メニュー 2 に "PIN"、スマートフォンアイコンが点滅。
スマートフォンに PIN を入力するとこの画面は終了し、自動的に Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。これでデバイスがペアリングされます。
30 秒以内にスマートフォンに PIN が入力されないと、インストルメントパネルの画面は終了し、自動的に Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。
ペアリングが完了すると "WAIT" の文字が表示され、その後接続されたデバイス名に代わります。完全なデバイス名がスクロール表示され、その後デバイス名の最初の数文字だけが表示されます。デバイスのペアリング後は、自動的に Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

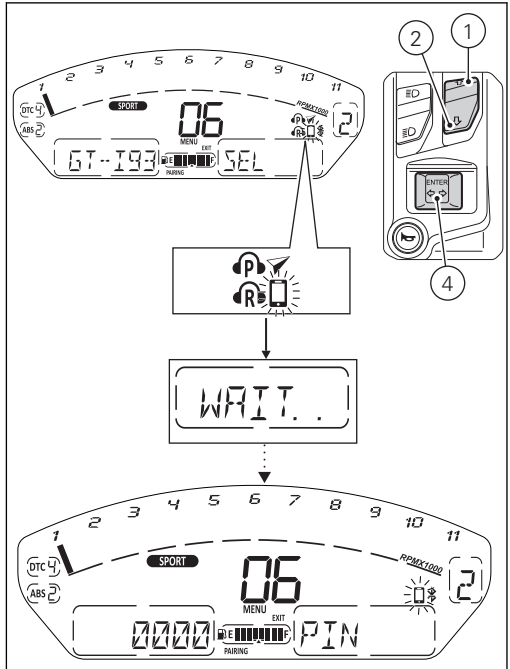


図 106

Bluetooth ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。この場合は、ペアリング中 Bluetooth 設定メニュー内にナビゲーターアイコンが点滅します。Bluetooth コントロールユニットとデバイス間の接続に成功した時点で、アイコンは点滅を止めて点灯に切り替わります。

万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しないときは、インストルメントパネルのペアリング画面が終了し、Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

ペアリングが完了すると "WAIT" の文字が表示され、その後接続されたデバイス名に代わります。完全なデバイス名がスクロール表示され、その後デバイス名の最初の数文字だけが表示されます。デバイスのペアリング後は、自動的に Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

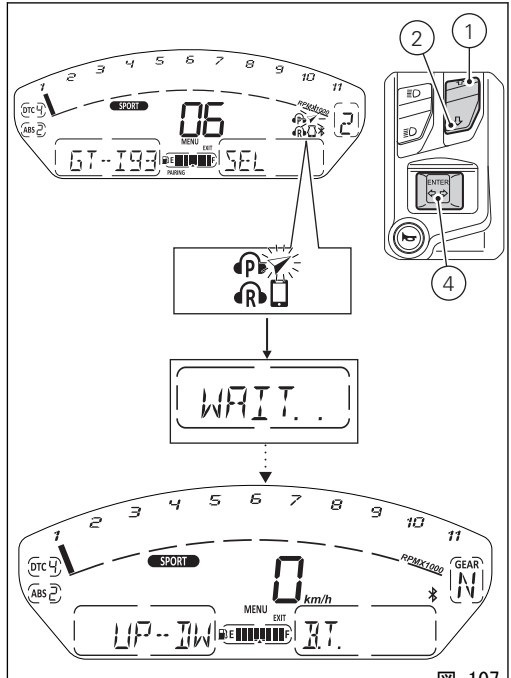


図 107

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

参考

上記 Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

ペアリング中にひとつのデバイスも検出できなかった場合は、メニュー 1 に "NO DEV" の文字が表示され、数字のゼロが表示されます。ペアリングされたデバイスが存在しないため、ペアリングデバイスタイプに該当するアイコンも表示されません。

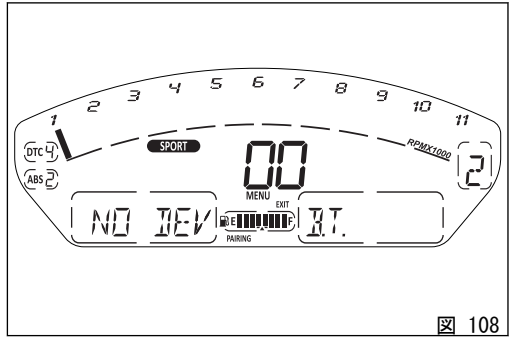


図 108

ペアリングデバイスの削除

Bluetooth メニューから、メニュー 1 内のペアリングデバイス一覧にアクセスすることができます。ボタン (1) および (2) を押してデバイスを選択したら、ボタン (4) を押して決定します。メニュー 2 に "DEL" の文字が点滅します。
続いてボタン (4) を 2 秒以上押すと、メニュー 1 に "WAIT" の文字が表示されます。手順が終了するとデバイスが削除され、自動的にペアリングデバイス数が更新されます。
この時点で、メニュー 1 には削除したデバイスの次のペアリングデバイス名が表示され、自動的に "EXIT" 機能が点滅します。ボタン (4) を押して "EXIT" の点滅している文字枠を選択すると、ペアリングデバイス一覧から設定メニューのメイン画面に戻ります。

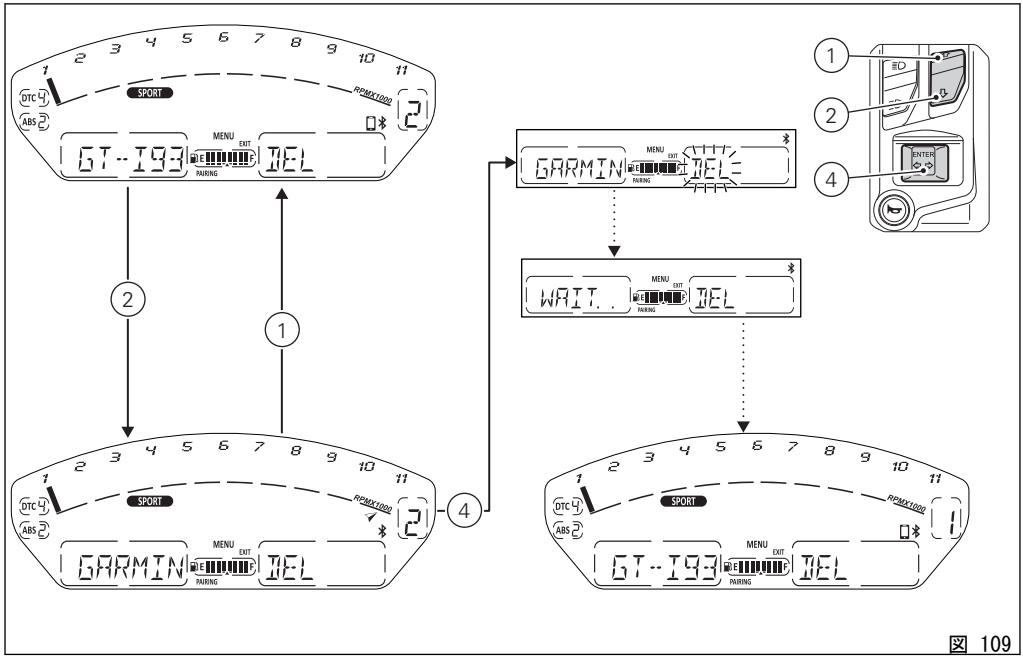

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
RPMX1000
SPORT
DTC
ABS
MENU
EXIT
PAIRING
GT-I93
GARMIN
WAIT..
DEL
ENTER

図 109

ライトコントロール

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 非搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプのみが点灯します。
エンジンを始動するとロービームランプが自動的に点灯します。ボタン (7) のポジション (B) と (A) でロービームとハイビームの切り替えを行います。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7) をポジション (B) と (A) に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

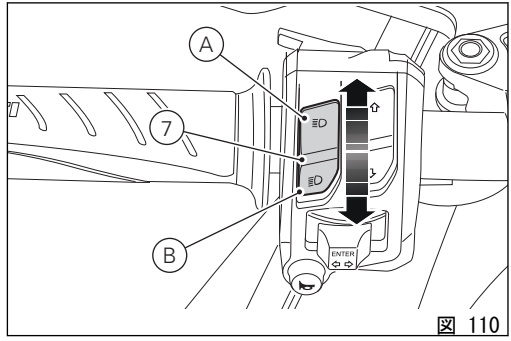


図 110

ロービーム / ハイビームランプ（DRL 搭載バージョン）

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯（OFF）したままパーキングランプおよび DRL のみが点灯します。
エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されておりインストルメントパネルが外光の弱い状況（NIGHT）を検出した場合はロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況（DAY）を検出した場合には DRL が点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。ボタン（5）を使用して、DRL とロービームランプの切り替えが可能です。
ロービームランプが点灯した場合、ボタン（7）のポジション（A）でハイビームランプも点灯することができます。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン（7）をポジション（B）と（A）に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯（OFF）します。

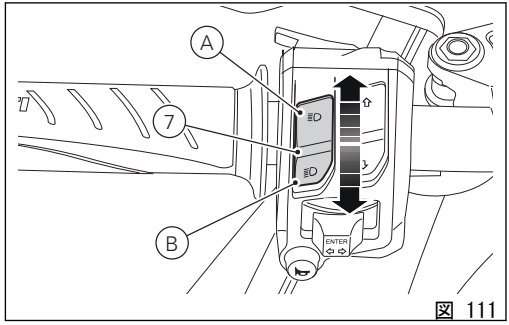


図 111

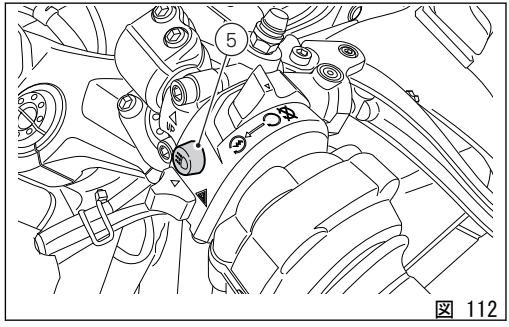


図 112

エンジン始動時のロービーム / ハイビームランプ消灯（DRL 非搭載バージョン）

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプが点灯（ON）している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

エンジン始動時のロービーム / ハイビームランプ消灯（DRL 搭載バージョン）

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRL のいずれかが点灯（ON）している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL（デイタイムランニングライト）- DRL 搭載バージョンのみ

Key-On のたびに DRL が点灯します。左側スイッチにあるボタン (5) を使用して、DRL を消灯することができます。ボタン (5) をもう一度押すと、DRL は再び点灯します。

参考

ボタン (5) が押されると、DRL は自動的に MANUAL モードに設定されます。AUTO モードに戻すには Key-OFF / Key-ON を実行するか、設定メニューの "DRL CONTROL" 機能から AUTO モードに設定します。

ボタン (7、 を押すと、ハイビームランプとロービームランプが点灯し、DRL が消灯します。ランプボタン (7、 を離すと、DRL が再び自動的に点灯します。

DRL AUTO モード

DRL がこのモードにある時、エンジン始動時にインストルメントパネルが外光が弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は DRL が自動的に消灯し、ロービームランプが点灯します。一方、インストルメントパネルが外光の強い状況 (DAY) を検出した場合は、DRL が点灯し続け、ロービームランプが消灯したままになります。このモードでは、インストルメントパネルが検出

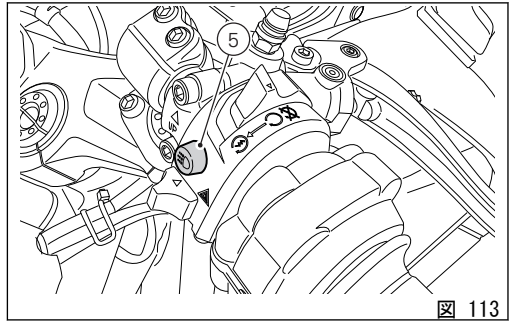


図 113

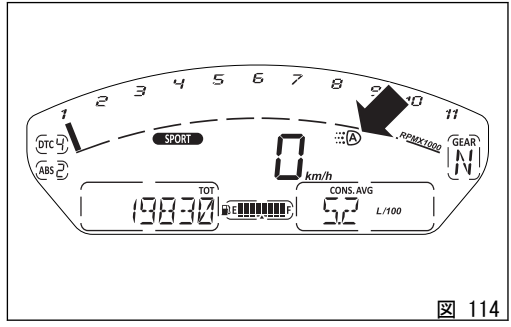


図 114

した外光の明るさに応じて、DRL とロービームを自動的に切り替えます。ディスプレイには緑色のロゴと "A" の文字が表示されます。

警告
外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を AUTO（自動）モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

DRL MANUAL モード
DRL がこのモードにある時は、エンジンを始動しても DRL ステータスは変更されません。DRL を停止 / 点灯するにはボタン (5) を押してください。ディスプレイには黄色のロゴと "M" の文字が表示されます。

警告
外光の特に弱い状況下（暗闇）で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

参考
日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べて DRL の方が知覚しやすいため、DRL の日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
2 つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後、左側スイッチにあるボタン (4) で解除することができます。
ターンインジケーターコマンドの手動解除が行われなかった場合、起動してから 500 m (0.3 マイル) 走行すると、インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは 80 km/h (50 mph) 以下でのみ行なわれます。
自動解除の走行距離カウントがスタートしてから速度が 80 km/h (50 mph) を上回った場合、カウントは中断されます。その後、前述の速度を下回るとカウントが再開されます。

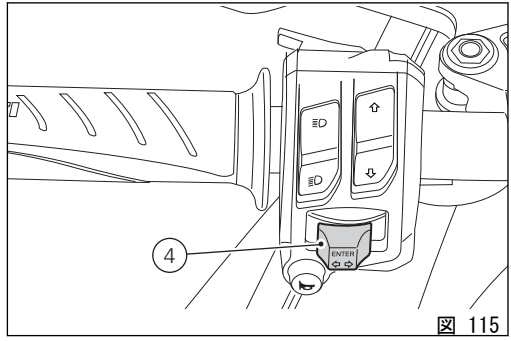


図 115

ハザード機能（ターンインジケーターすべて点滅）

"ハザード" 機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン (6) を押して "ハザード" 機能を作動することができます。車両が起動している場合にのみ、この機能を起動することができます（エンジンの起動/停止状態に関係なく、キーが "ON" の位置にある時）。"ハザード" 機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの警告灯 (7) が同時に点滅します。"ハザード" 機能は、車両が起動している状態（キーを "ON" 位置に回す）でも車両が停止している状態（キーを "OFF" 位置に回す）でも、ボタン (6) を押して解除することができます。

"ハザード" 機能を起動してから車両を停止した場合は（キーを "OFF" 位置に回す）、ハザード機能は手動で解除しない限り 2 時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、2 時間後ターンインジケーターは自動的に消灯します。

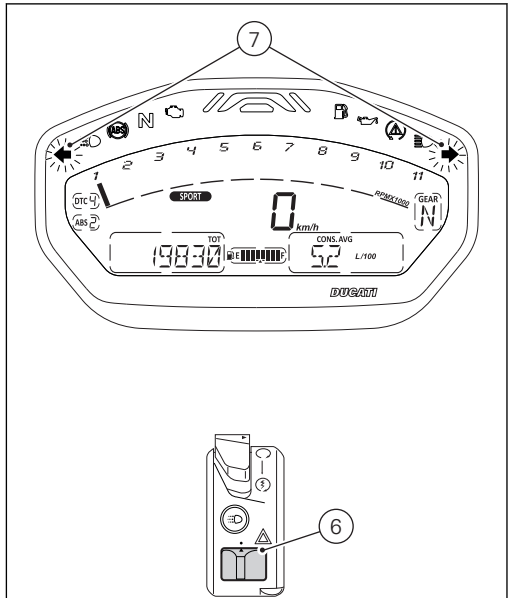


図 116

参考

″ハザード″ 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます（ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります）。

参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考

″ハザード″ 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、″ハザード″ 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム（イモビライザー）が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーボディには電子装置が内蔵されています。この電子装置は車両の起動時にヘッドライトフェアリングに組み込まれた特殊アンテナから送られる信号を変調します。この信号はパスワードの役割を果たし、起動のたびに変更されます。CPU がその "パスワード" によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には 2 個のキーが付属しています。
キーには ″イモビライザーシステムの暗号″ が含まれています。
キー (B) は通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

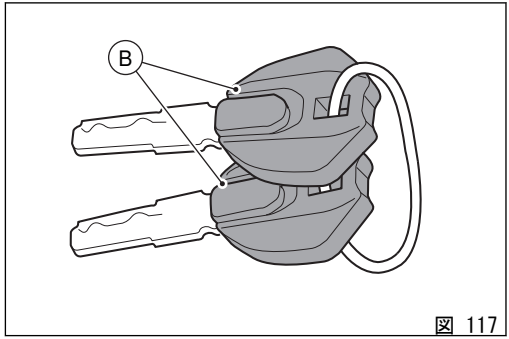


図 117

動作値

キースイッチを ON から OFF に回す度にプロテクションシステムのエンジンブロックが起動します。
それでもなおエンジンを始動できない場合には、Ducati アシスタンスネットワークにお問い合わせください。

警告

強い衝撃を受けるとキー内部の電子部品が破損するおそれがあります。作業中は常に同じキーを使用してください。異なるキーを使用した場合、挿入したキーの暗号をシステムが識別できない場合があります。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。
Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。
Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。
登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。
PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルは ″メニュー 1″ にロック解除の PIN CODE を入力できるようにします。

コードの入力：

1) ボタン (1) または (2) を押すと、″0″ で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が ″9″ までひとつずつ大きくなり、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が ″1″ までひとつずつ小さくなり、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

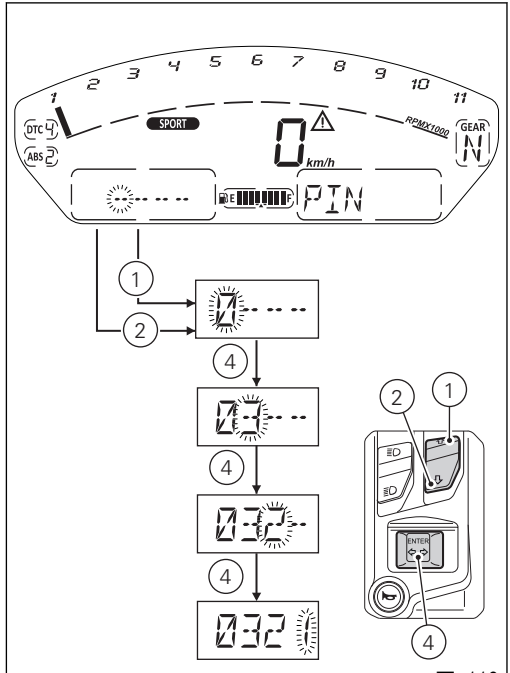


図 118

ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しい場合 (A)、インストルメントパネルは "OK" を 3 秒間表示します。その後、画面がスタンダードスクリーンに戻ると、車両を起動することができます (C)。
- PIN CODE が正しくない場合 (B)、インストルメントパネルは "WRONG" を 3 秒間表示し、その後、再び点線 "- - - -" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力回数には制限はありませんが、入力可能時間は 2 分間に設定されています。入力可能時間を過ぎると "TIME OUT" の文字がインストルメントパネルに表示されます。さらに 3 秒が経過すると画面がスタンダードスクリーンに戻り、車両を起動することはできません (D)。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

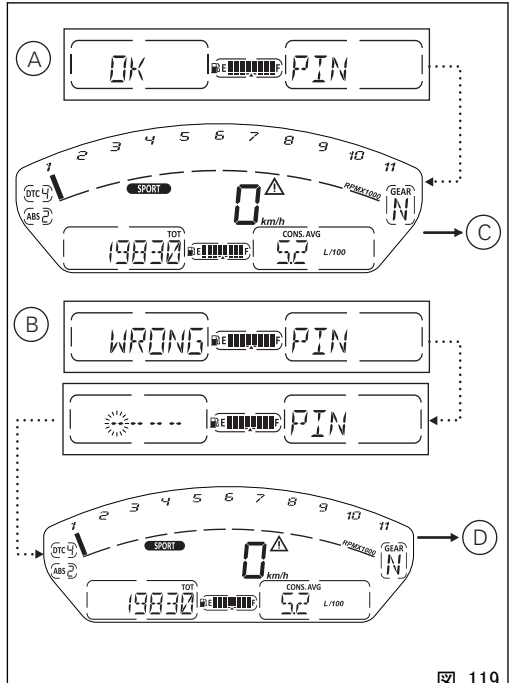


図 119

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) 右側スイッチ
6) スロットルグリップ
7) フロントブレーキレバー
8) ギアチェンジペダル
9) リアブレーキペダル

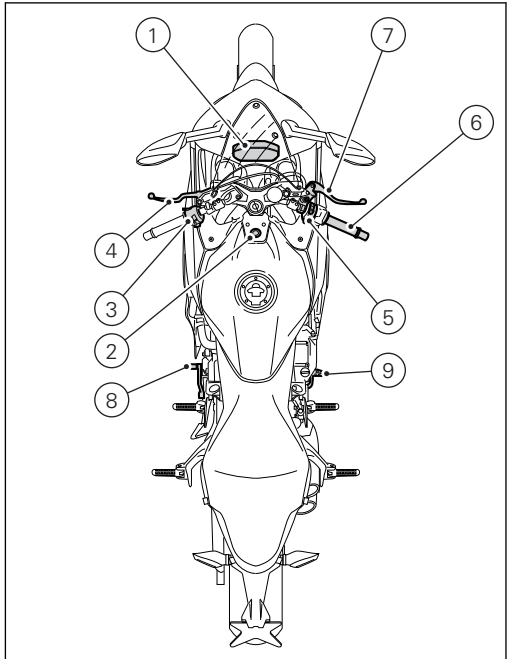


図 120

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4 つのポジションがあります。

A) ON：エンジンおよびランプを ON にする
B) OFF：エンジンおよびランプを OFF にする
C) LOCK：ステアリングロック状態
D) P：パーキングランプおよびステアリングロック

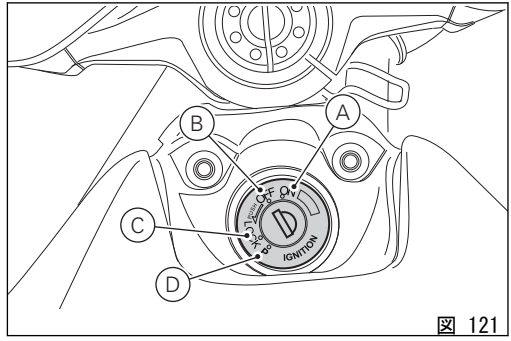


図 121

参考
キーを上記の下二つの位置に合わせるに は、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

ハンドルバー左側スイッチ

1) ボタン（フラッシュ）、"START-STOP LAP" 機能。
2) ライトスイッチ、2 ポジション：
- ハイビームランプ（ ≡D ）
- ロービームランプ（ ≡D ）
3) メニュー操作ボタン
- メニュー ▲ (UP)
- メニュー ▼ (DOWN)
4) メニュー (ENTER)、ターンインジケーター (3 ポジション) ボタン（ ⇔ ）：
- 中央 = OFF
- ポジション ⇦ = 左折
- ポジション ⇨ = 右折
- ボタンを押す = メニュー決定 (ENTER)
5) ホーンボタン（ ⊨ ）

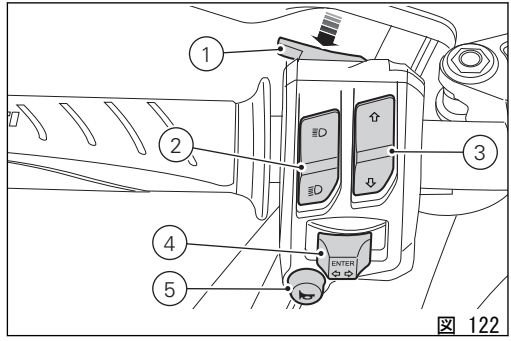


図 122

クラッチレバー

レバー（1）でクラッチの接続を操作します。レバー（1）を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

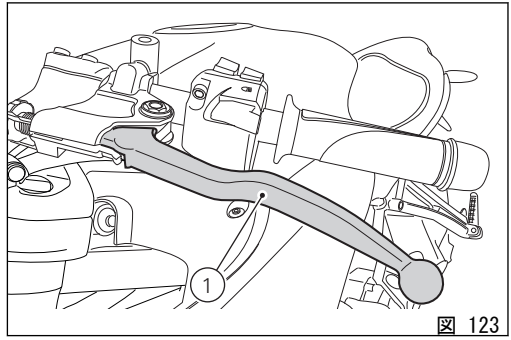


図 123

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

クラッチコントロールの遊びの調整

警告
調整を誤るとクラッチの機能およびその寿命に重大な影響を与えるおそれがあります。

クラッチは磨耗すると、クラッチケーブルが張る傾向にあります。
車両を使用する前に毎回遊びを点検してください。点検はエンジンが冷えた状態でおこないます。
クラッチレバーを操作したとき、抵抗力が非常に小さい状態から大きい状態になります（作動力）。
抵抗力が非常に小さい場所に相当するストロークがレバーの遊びです。
レバーの遊びを確認するには、レバーを操作して距離"A"が 3 ～ 4 mm (0.12 - 0.16 in) であるかを確認します。
遊びを規定値に調整するには、クラッチコントロール近くにあるメインアジャスター (2) を操作してください。

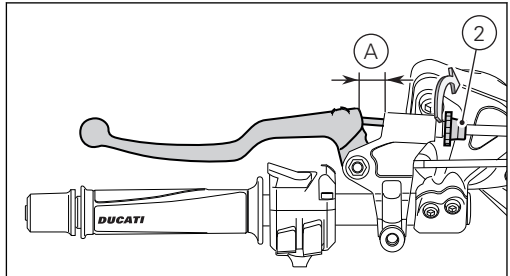


図 124

レバーのアジャスター (2) により、最大 11 mm (0.4 in)、標準 5 mm (0.2 in) (初期設定) に調整 (Q) することができます。このアジャスターでは不十分な場合、セカンダリーアジャスター (3) を操作します。

警告

磨耗によるクラッチのすべりがある場合は、上記のようにレバーのアジャスター (2) を絶対に緩めないでください。この場合はアジャスターを締めてください。
すべりが続く場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

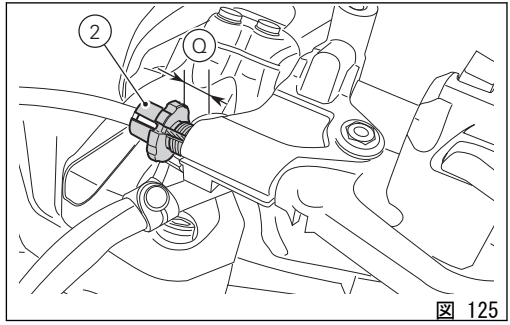


図 125

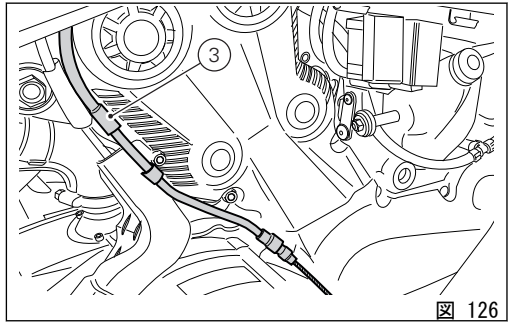


図 126

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤スイッチ　ON/OFF。
2) DRL ボタン。
3) ハザードボタン。

スイッチ（1）には 3 つのポジションがあります。

上側位置：エンジンの停止
中央位置：エンジンを ON にする
下に押す：エンジンの始動

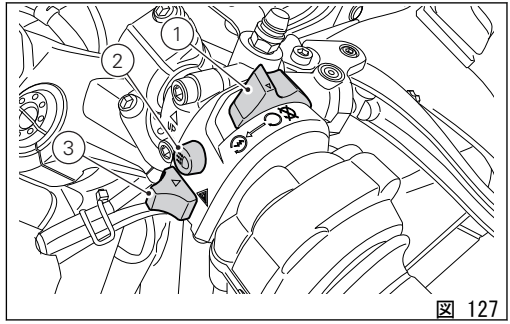


図 127

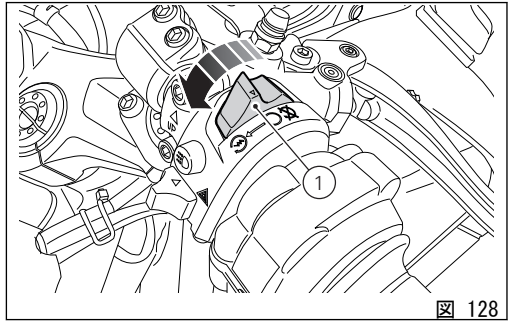


図 128

スロットルグリップ

右側ハンドルバーのスロットルグリップ（1）は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。
グリップを離すと、自動的に元の位置（アイドリング状態）に戻ります。

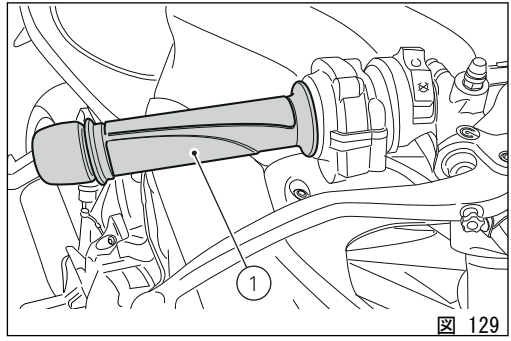


図 129

フロントブレーキレバー

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。
コントロールレバーにはアジャスター (2) が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

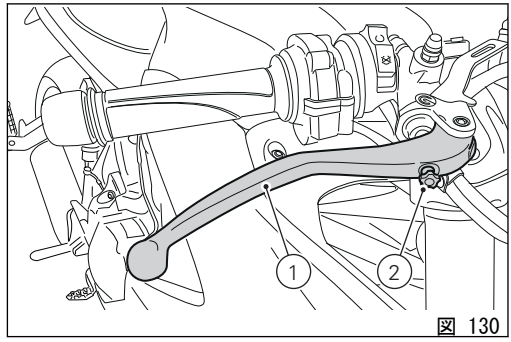


図 130

警告
これらのコマンドを使用する前に ″車両の起動および走行″ に記載されている内容をお読みください。

警告
フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル（1）を足で下に押してください。
制御システムは油圧式です。

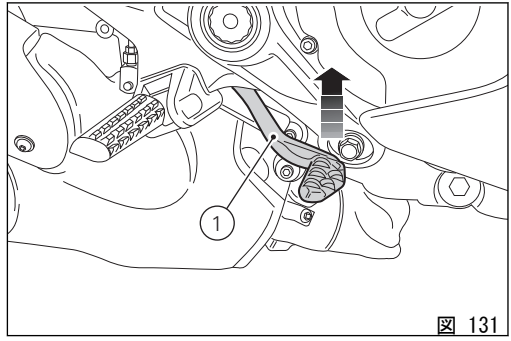


図 131

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルには 2 つの動作があり、中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ ＝ ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3 、 4 、 5 、 6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

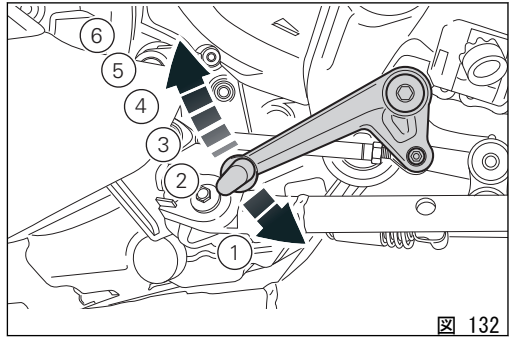


図 132

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

ギアチェンジペダル（SuperSport）

ギアチェンジペダルの位置を調整するには以下のように操作します。ロッド（1）を固定し、ロックナット（2）および（3）を緩めます。

参考
ナット（2）は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド（1）の六角部分を回します。ロッドに両ロックナットを締め付けます。

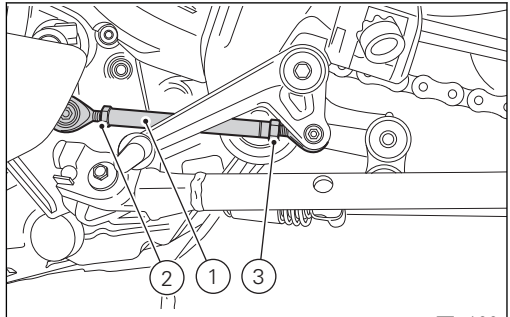


図 133

ギアチェンジペダル (SuperSport S)

ロッド (1) を所定のキーソケット (A) で固定し、ナット (2) を緩めます。
ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド (1) の六角部分を回します。
ロッドにナット (2) を締め付けます。
調整が終了したら、距離 (B) の値が 142.5 mm (5.6 in) + 0 - 5.5 mm (0.2 in) であることを確認してください。

警告
緩み値が規定の範囲内にない場合は、上記の調整作業を最初から繰り返してください。

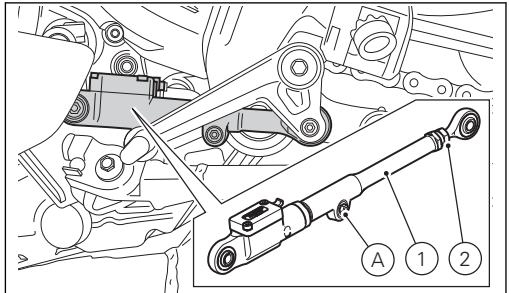


図 134

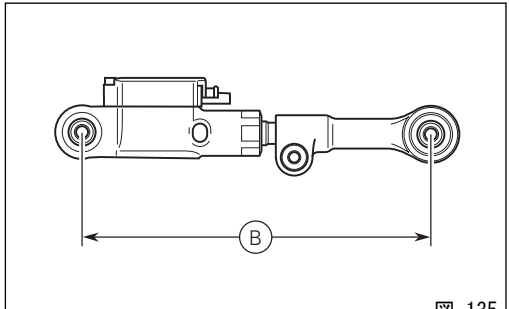


図 135

リアブレーキペダル

リアブレーキペダルの位置を調整するには、ロックナット (4) を緩め、ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー (5) を回します。ロックナット (4) を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5〜2 mm (0.06〜0.08 in) の遊びがあるかを確認します。
上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。
マスターシリンダーのロッドのロックナット (6) を緩めます。
フォーク (7) のロッドをねじ込んで遊びを増加させるか、緩めて遊びを減少させます。
ロックナット (6) を締め付け、再度遊びを点検します。

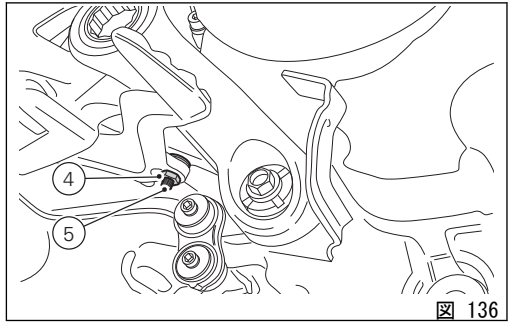


図 136

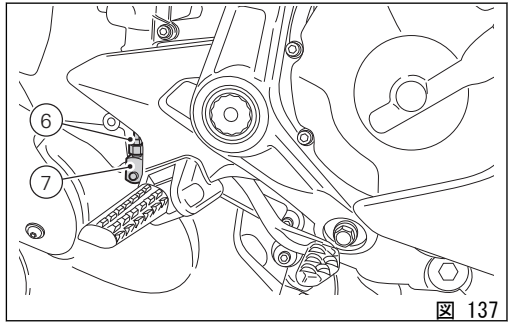


図 137

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ。
2) シートロック。
3) ヘルメットホルダーケーブル用ピン。
4) サイドスタンド。
5) リアビューミラー。
6) USB 接続。
7) フロントフォークアジャスター。
8) リアショックアブソーバーアジャスター。
9) 触媒コンバーター。
10) エキゾーストサイレンサー。
11) ウィンドスクリーン。

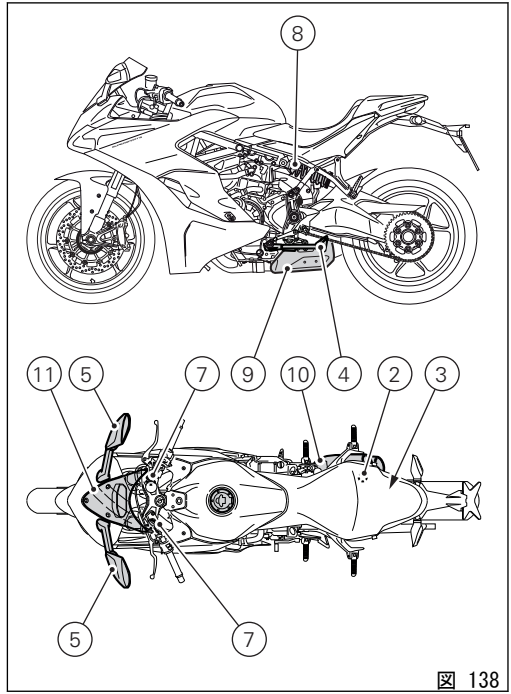


図 138

燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー (1) を持ち上げ、キーをロックに挿入します。キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。

閉じ方

キーを挿入してキャップを閉じ、所定の位置でキャップを押します。キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。ロック保護カバー (1) を閉じます。

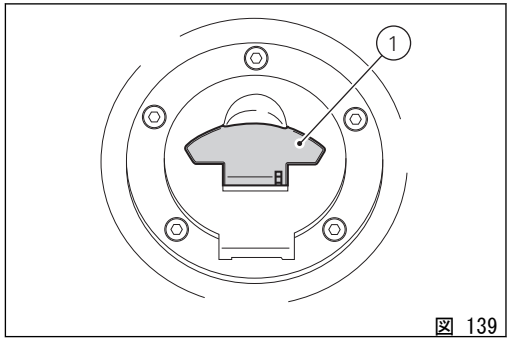


図 139

参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

シートロック

開け方

ロック（1）にキーを差し込み、時計回りに回します。同時にラッチ付近を下に押し、ピンを外しやすくします。シート（2）を後ろに引っ張りながらフロントリテーナーから抜き取ります。

閉じ方

すべての部品が正しく配置され、シート下ボックス（2）に固定されていることを確認します。シート底部の前部先端にあるタブ（A）をリアサブフレームに固定されているタンクマウントブラケット（B）に挿入します。シート後部を持ち上げ、中央部の固定部品の上部を押して挿入します。シート後部先端をロックのラッチがカチッとはまるまで押します。シートがしっかりとフレームに固定されていることを確認し、ロックからキーを取り外します。

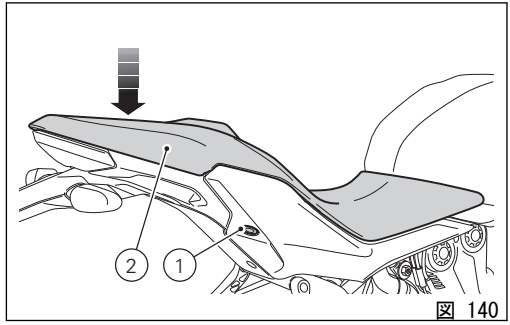


図 140

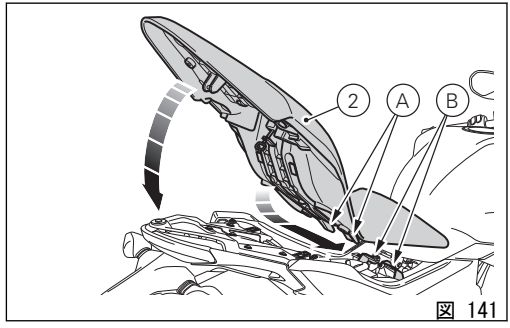


図 141

ヘルメットキャリーケーブル

ヘルメットホルダーケーブル (1) はツールボックス内にあります。″付属アクセサリー″ を参照してくださいページ 242。ヘルメットにケーブルを通し、ピン (2) にケーブルの先端を挿入します。
ヘルメットを吊るした状態でシートを取り付け、固定します。

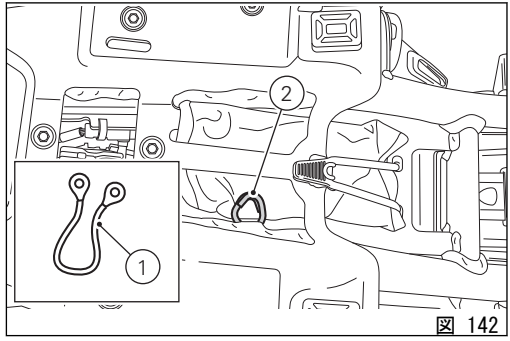


図 142

警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

サイドスタンド

警告
サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながらスタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

サイドスタンドを停止位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。

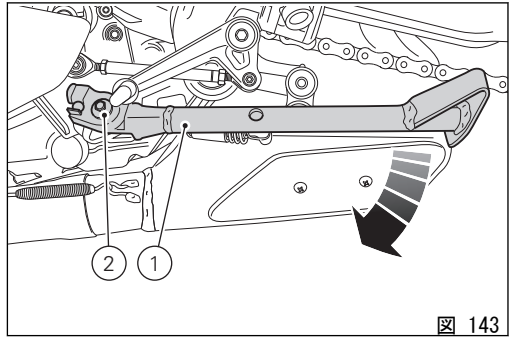


図 143

参考
定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

Bluetooth コントロールユニット

車両には Bluetooth コントロールユニットを装備することができます。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。
Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります（スマートフォン、ヘッドセット）。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット（音楽共有、マルチメディア再生など）の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン（Bluetooth 対応プロファイルによる）に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット（部品番号： 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン（"Ducati キット　部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも）

警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット（部品番号：981029498）ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます（詳しくは Ducati キット（部品番号：981029498）に付属のヘッドセット取扱説明書を参照）。

参考
Ducati キット（部品番号： 981029498）は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

警告
以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。
- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

参考
上記 Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1 A の電流をサポートします。
USB コネクター (1) はパッセンジャーシート下に位置し、カバーで保護されています。カバーを持ち上げてコネクターを使用します。

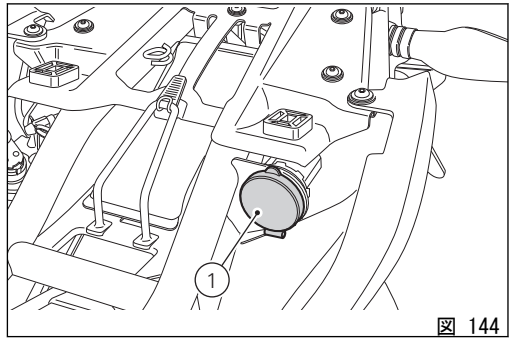


図 144

重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

警告

USB コネクターを使用していないときは、USB コネクター保護キャップをいつも必ず閉じてください。

警告

雨天の場合は、決して USB ソケットを使用しないでください。

ウィンドスクリーン調節

警告
走行中のウィンドスクリーンの調節は事故を招くおそれがあります。ウィンドスクリーンの調節は停車した状態で行ってください。

ウィンドスクリーン（1）は高低 2 段階の位置に調節できます。

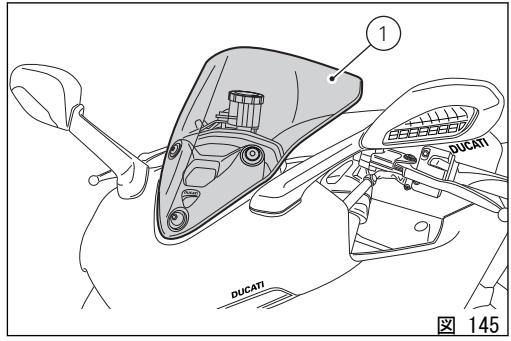


図 145

ウィンドスクリーン（1）を低い位置から高い位置に動かすには、図に示すようにウィンドスクリーン中央部を両手で掴み、カチッと音が鳴り固定されるまでウィンドスクリーン（1）を持ち上げます。

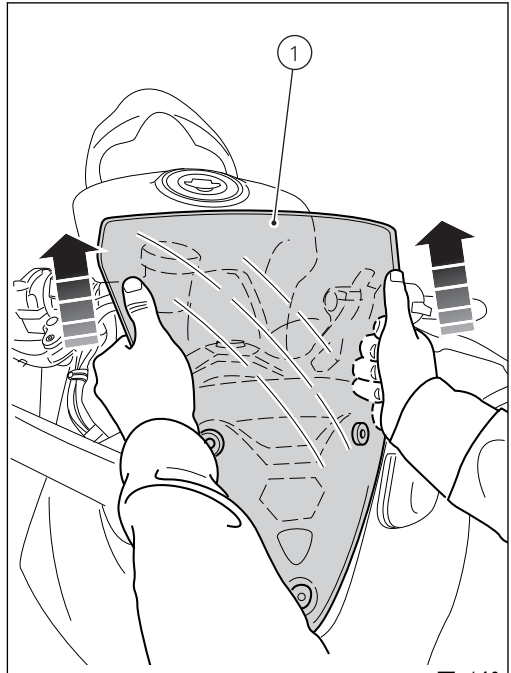


図 146

ウィンドスクリーンを低い位置まで動かすには、図に示すように片手でウィンドスクリーン（1）を押し下げます。

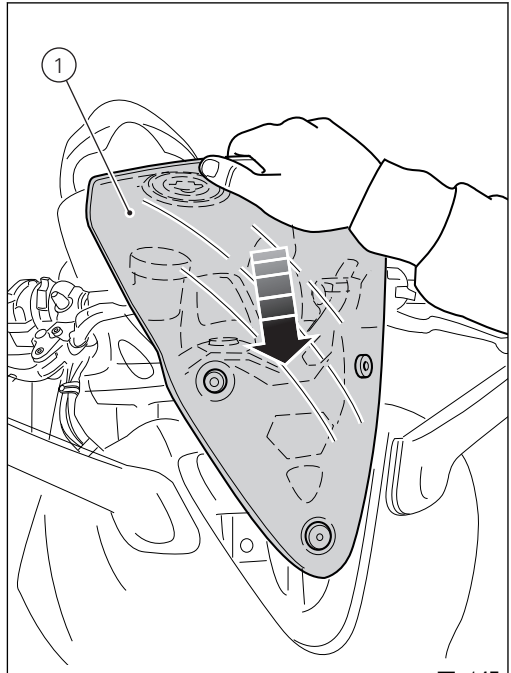


図 147

フロントフォーク調整アジャスター

SuperSport のフォークは、リバウンドダンピング（リターン）、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。
調整はアジャスターを使用して行います。

1) リバウンドダンピング調整（図 148）
2) スプリングプリロード調整（図 148）、（図 149）
3) コンプレッションダンピング調整（図 149）

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。所定のドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター（1）を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。ドライバーで左フォークレッグの先端にあるアジャスター（3）を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター（1）および（3）を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。
アジャスターをいっぱいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。
この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが "1"、"2"、･･･の位置に相当します。

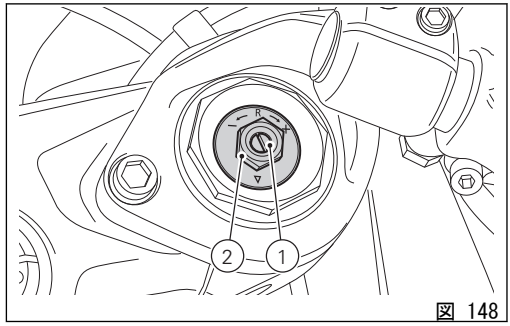


図 148

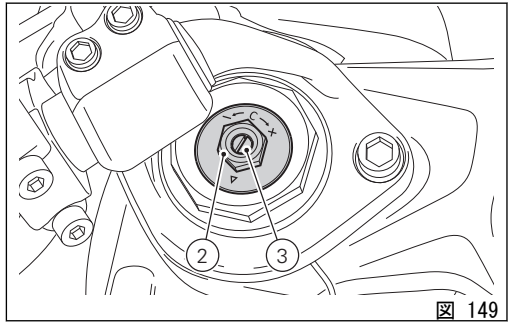


図 149

標準設定は以下の通りです。
コンプレッション：3 回転（すべて閉じた状態から）
リバウンド：3 回転（すべて閉じた状態から）
スプリングプリロード：5 回転（すべて緩めた状態から）。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、アジャスター（2、 図 148）、（2、 図 149）を六角レンチで反時計回りに完全に回してすべて緩めた位置に合わせます。この位置からアジャスターを時計回りに回し、プリロードを調整します。1 回転がスプリングプリロード 1 mm（0.04 in）に相当します。

警告
スプリングプリロードのアジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

フロントフォーク調整アジャスター

SuperSport S のフォークは、リバウンドダンピング、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

1) リバウンドダンピングの変更
2) スプリングプリロードの変更
3) コンプレッションダンピングの変更。

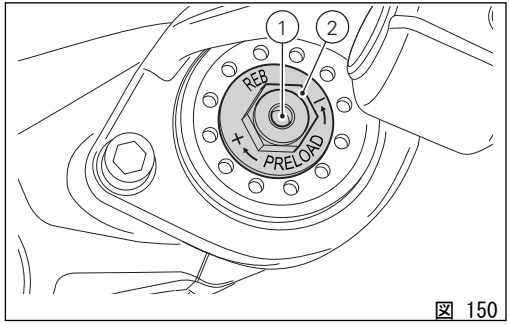


図 150

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。所定のドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター (1) を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。ドライバーで左フォークレッグの先端にあるアジャスター (3) を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター (1) および (3) を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。

アジャスターをいっぱいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。
この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが "1"、"2"、・・・の位置に相当します。

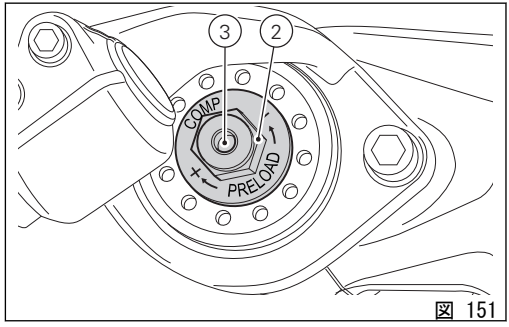


図 151

標準設定は以下の通りです。

- コンプレッション：16 クリック（すべて閉じた位置から）
- リバウンド：6 クリック（すべて閉じた位置から）
- スプリングプリロード：7 回転（すべて緩めた状態から）。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、アジャスター（2、 図 150）、（2、 図 151）を六角レンチで反時計回りに完全に回してすべて緩めた位置に合わせます。この位置からアジャスターを時計回りに回し、プリロードを調整します。1 回転がスプリングプリロード 1 mm（0.04 in）に相当します。

警告

アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバー調整アジャスター

SuperSport

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。

エンジンにショックアブソーバーの上部を固定している位置の左側にあるアジャスター（1）は、リバウンドダンピング（リターン）を調整します。

アジャスター（1）を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

ショックアブソーバー下部のリングナット（2）、（3）はスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナット（3）を緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナット（2）はプリロードを増大させたり減少させたりします。

希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナット（3）を締め付けます。

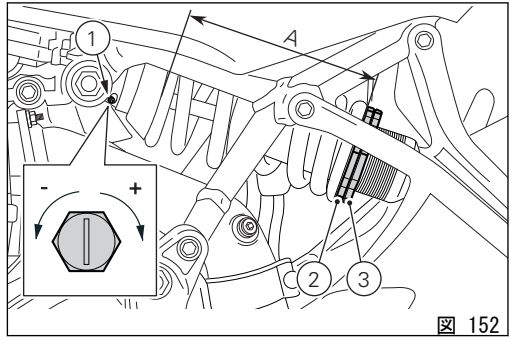


図 152

すべて閉じた位置からの標準設定は以下の通りです（時計回り）。

- リバウンド：アジャスター（1）を 1 回転+1/4 回転緩めます（すべて閉じた位置から）
- スプリングプリロード：後輪を地面から持ち上げます。スプリング長さ（A）が 164 mm（6.5 in）でなければなりません。

警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

リアショックアブソーバー調整アジャスター

SuperSport S

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。リザーバータンクに設けられているアジャスター (1) は、コンプレッションダンピングを調整します。エンジンにショックアブソーバー上部を固定する位置に設けられているアジャスター (3) は、リバウンドダンピング（リターン）を調整します。
つまみ (1) を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。
つまみ (3) を反時計回りに回すとダンピングが強くなり、時計回りに回すと弱くなります。
ショックアブソーバー下部の 2 個のリングナット (2) はスプリングプリロードを調整します。
スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナットを緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナットはプリロードを増大させたり減少させたりします。
希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナットを締め付けます。

すべて閉じた位置からの標準設定：

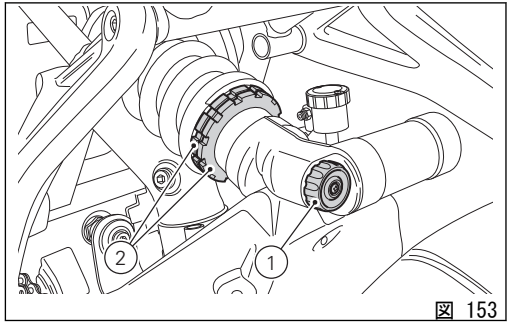


図 153

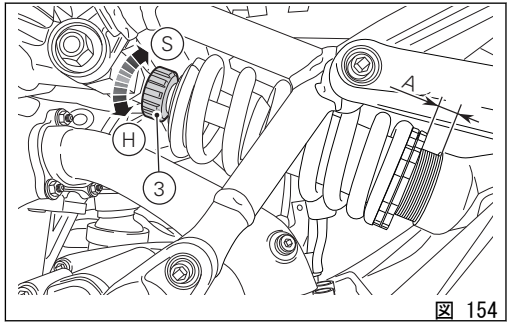


図 154

- リバウンド：アジャスター（3、 図 154）を 14 クリック緩めます（すべて閉じた位置から）
- コンプレッション：アジャスター（1、 図 153）を 12 クリック緩めます（すべて閉じた位置から）
- スプリングプリロード：リングナットを底から距離（A、 図 154）= 19 mm (0.75 in) の位置に合わせます。

警告
プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告
ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

運転の方法

慣らし運転の方法

重要

初めて車両をご使用になる前に、リアビューミラーにラベルが付いていないことを確認してください。ラベルが付いている場合ははがしてからご使用ください。

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：

1) 1,000 km (600 mi) まで
2) 1,000 km (600 mi) ～ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (600 mi) まで

最初の 1,000 km (600 mi) まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpm を決して超えないようにしてください。

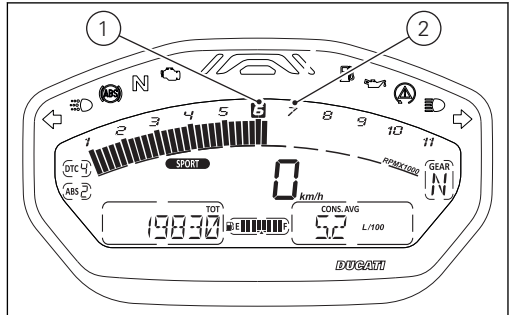


図 155

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km (60 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1,000 km (600 mi) ～ 2,500 km (1,553 mi)

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpm を決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください（ページ 240）。
- エンジンオイル量
  クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください（ページ 277）。
- ブレーキフルード
  各リザーバータンクのフルードレベルを確認します（ページ 249）。
- クーラント量
  リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください（ページ 247）。
- タイヤコンディション
  空気圧と摩耗度を点検します（ページ 267）。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください（ページ 260）。
- ロック類
  フィラープラグ（ページ 212）およびシート（ページ 213）のロックを確認します。
- スタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します（ページ 215）。

ABS ランプ
Key-ON 後、走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えると ABS ランプ (9、 図 3) は点灯したままになります。ランプが消灯すれば、ABS システムが正常に作動していることを示します。

警告
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置
フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告
汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

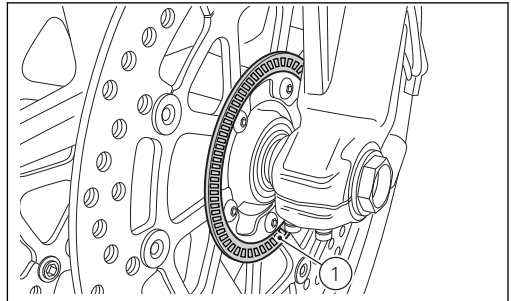


図 156

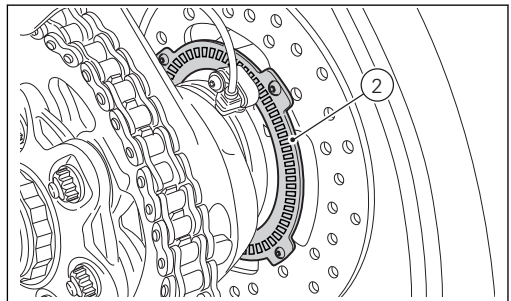


図 157

エンジンの始動

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを（1、 図 158）の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N と赤のランプ ☞ が点灯していることを確認してください。

重要
オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

警告
サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

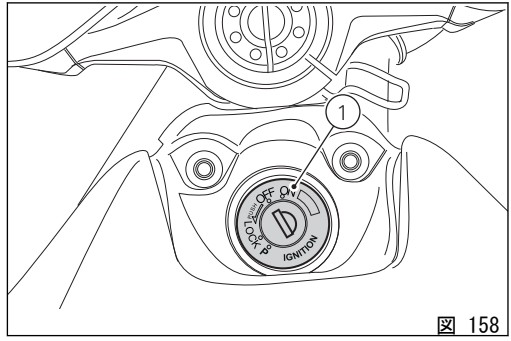


図 158

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

スイッチ（2、 図 159）を ○ 位置（RUN）に動かします。
スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

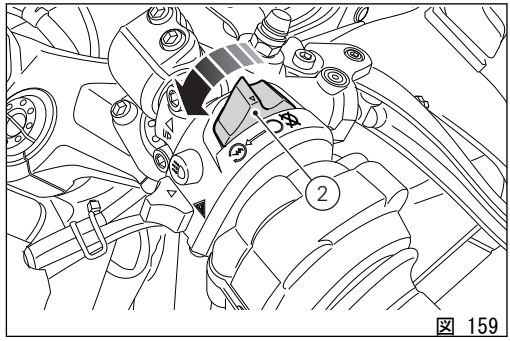


図 159

参考
バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

重要
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々に放していくと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。
これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムを解除したい場合は、″ライディングモードのパーソナライズ：ABS 調整 ″（ページ 116 を参照）機能を使用してインストルメントパネルから解除することができます。

警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキカが著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。
シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
スイッチ (3) を上に動かし、エンジンを停止します。
キーを位置 (2) に動かし、車両を Key-OFF します。

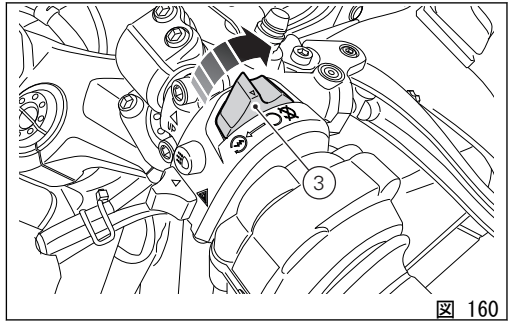


図 160

重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

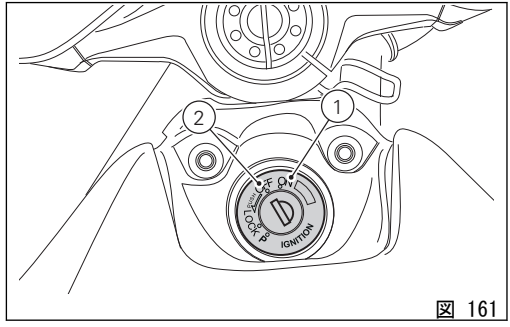


図 161

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

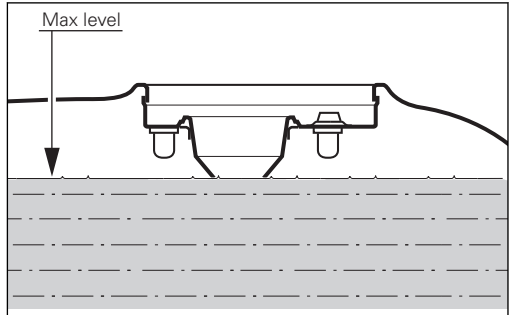


図 162

パーキング

停止車両をサイドスタンド（ページ 215）で支えて駐車します。
盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを (3) の位置に回します。
車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。
必要に応じ、キーを (4) の位置に回してパーキングランプを点灯させたままにすることができます。

重要

長時間キーを (4) の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

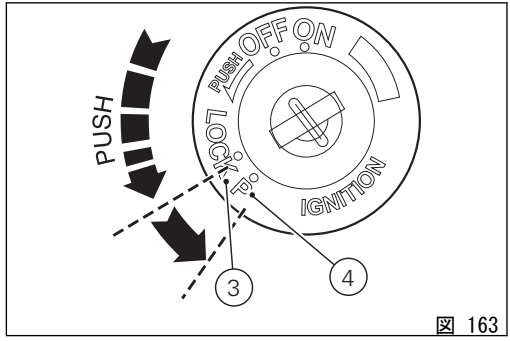


図 163

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

付属アクセサリー

シート下にはツールキット (1) が装備されています。
ツールキットに含まれる内容は以下の通りです。

- ヒューズ用ピンセット
- ヘルメット盗難防止ケーブル 2 本
- プラス/マイナスドライバー
- ドライバーのハンドル
- パイプレンチ 14x16x145 mm (0.55x0.63x5.71 in)
- ロッド 6x120 mm (0.24x4.72 in)
- 六角レンチ 3 mm (0.12 in)
- 六角レンチ 4 mm (0.16 in)

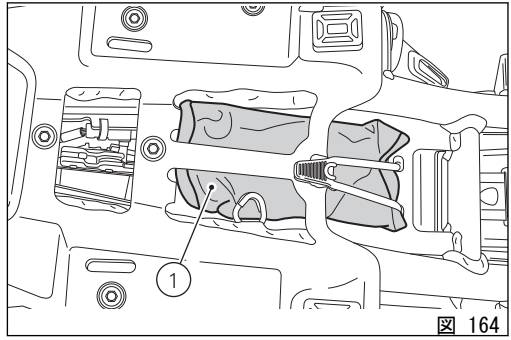


図 164

主な整備作業とメンテナンス

フェアリングの取り外し

メンテナンスまたは修理作業を実施するために、モーターサイクルのいくつかのフェアリング部品を外すことが必要になる場合があります。

警告

取り外した部品を再度取り付けていなかったり、正しく取り付けられていないと、走行中に突然外れ、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

重要

ヘッドライトフェアリングの塗装済み部品およびウィンドスクリーンを破損しないよう、取り付けの際には必ずナイロンワッシャーを固定スクリューの位置に合わせて配置してください。

重要

フェアリングの取り外し作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

サイドフェアリング

以下の部品を外してフェアリングを取り外します。

- タンクフロントブラケットに固定している 2 本のスクリュー (1)
- タンクサイドブラケットに固定している 2 本のスクリュー (2)

ブリーザーホース (3) を左フェアリング下部の所定の位置 (4) から外します。
以下の部品を外してフェアリングを取り外します。

- 左フェアリングと右フェアリングを固定しているフェアリング下部にある 2 本のスクリュー (5)
- フェアリング下部ブラケットに固定している 2 本のスクリュー (6)
- フェアリングサイドブラケットに固定している 2 本のスクリュー (7)
- ヘッドライトフェアリングに固定している 4 本のスクリュー (8)
- ヘッドライトフェアリングとラジエーターユニットに前部を固定している 4 本のスクリュー (9)

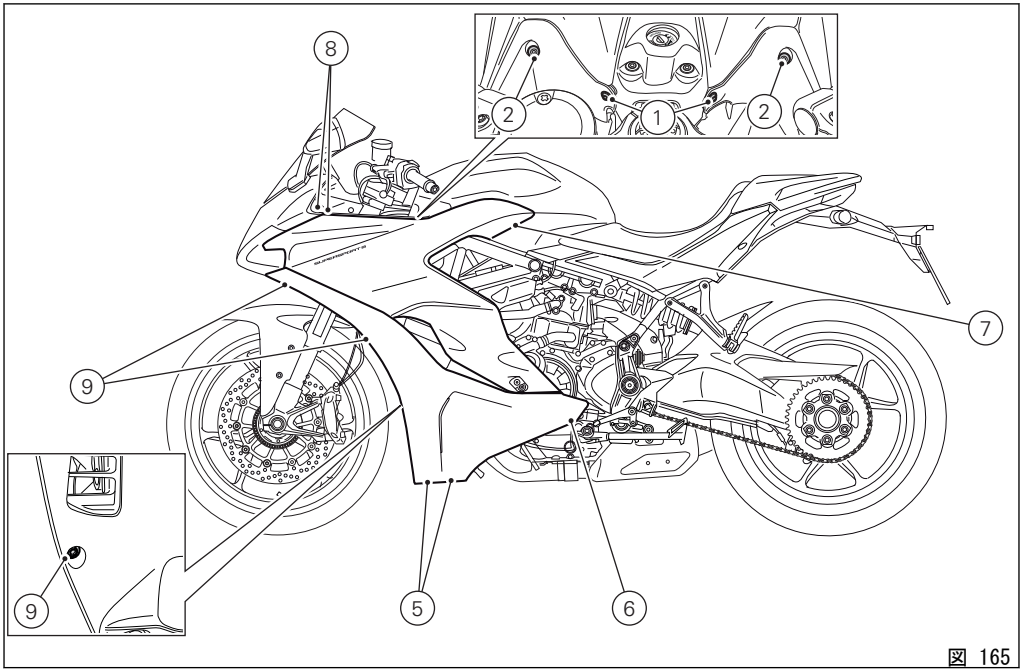


図 165

エアフィルターの交換

重要
エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。
ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN および MAX の目盛の間にあることを確認します。
クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。
フィラープラグ (1) を緩め、不凍液 ENI Agip Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。
キャップ (1) を閉めます。

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます (-20° C/-4° F から凍結し始めます)。冷却回路の容量 : 2.3 リットル (0.61 ガロン)

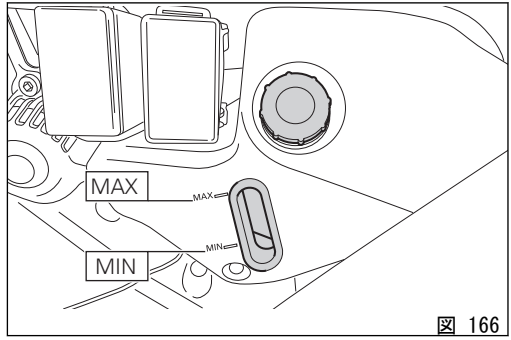


図 166

警告

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラントや蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあります。

ブレーキフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

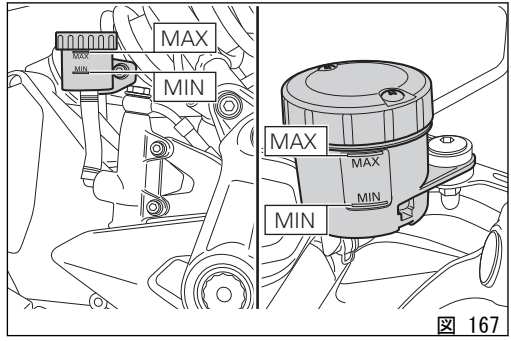


図 167

警告

ブレーキフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。
これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm (0.04 in) になっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

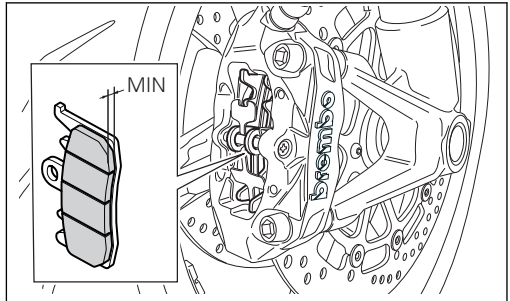


図 168

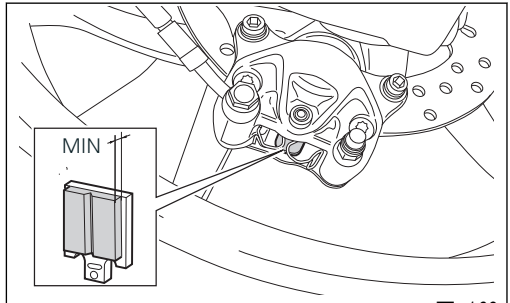


図 169

バッテリーの充電

警告
バッテリーの取り外しは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーの作業を行うには、″バッテリーの取り外し″ ページ 255 を参照してください。

警告
バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。
プラス極 (+) のスクリューとマイナス極 (-) のスクリューにグリースを塗布します。

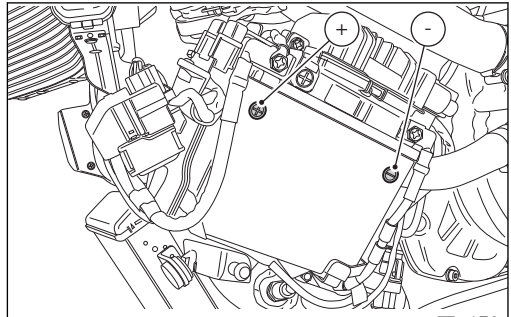


図 170

重要
バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

バッテリーを 0.9A で 5 ～10 時間充電します。
″バッテリーの取り付け″ ページ 256 を参照し、バッテリーを車両に取り付けます。

警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス

本車両のシート下にはコネクター（1）が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー（2）（バッテリーメンテナーキット（部品番号：69924601A）（各国）またはバッテリーメンテナーキット（部品番号：69924601AX）（日本、中国、オーストラリアのみ））を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。

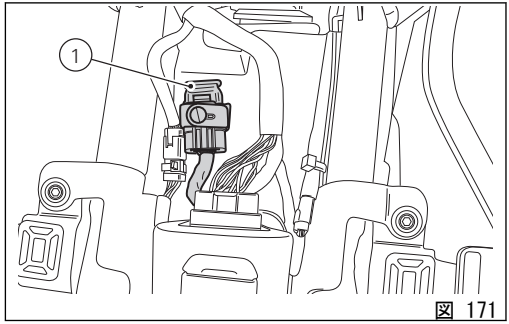


図 171

参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

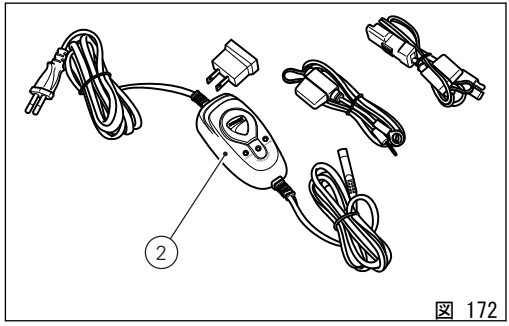


図 172

参考

車両を使用しない期間（およそ 30 日以上）、Ducati バッテリーメンテナー（バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/h です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

バッテリーの取り外し

重要
バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

左側フェアリングを取り外します ページ 244。
2 本のスクリュー (1) を緩めて外し、バッテリーを固定する 2 つのブラケット (2) を取り外します。
所定の位置からバッテリー (3) を抜き取り、陰極端子 (-) からスクリュー (4) を緩めます。
陽極ケーブル (5)、ABS 陽極ケーブル (6) を陽極から、陰極から陰極ケーブル (7) を外します。

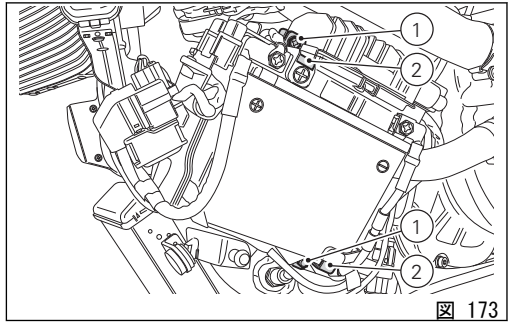


図 173

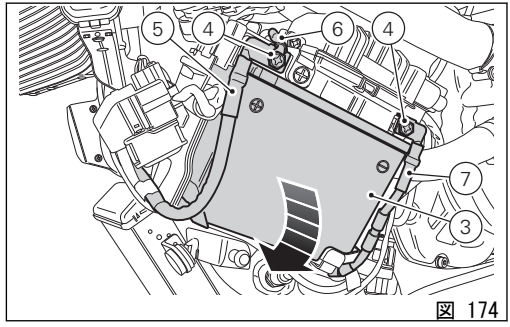


図 174

バッテリーの取り付け

重要
バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

バッテリー (3) を取り付け位置に設置します。
ABS システムの陽極ケーブル (6) を陽極ケーブル (5) の上に置き、スクリュー (4) をその上に差し込みます。

前もって ABS ケーブル (6) と組み立てておいた陽極ケーブル (5) をバッテリーの陽極に、陰極ケーブル (7) をバッテリーの陰極に接続し、スクリュー (4) を差し込みます。
電極のスクリュー (4) を 5 Nm ± 10% のトルクで締め付け、酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。
左側フェアリングを取り付けます ページ 244。

バッテリーを固定する 2 つのブラケット (2) を取り付け、2 本のスクリュー (1) をブラケット (2) に差し込みます。
2 本のスクリュー (1) を 10 Nm ± 10% のトルクで締め付けます。

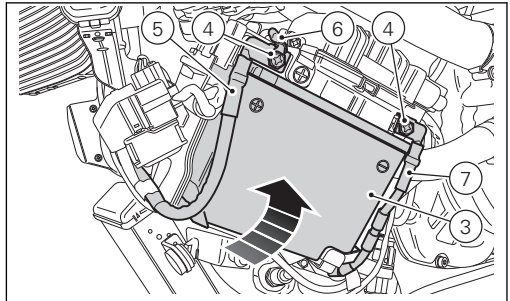


図 175

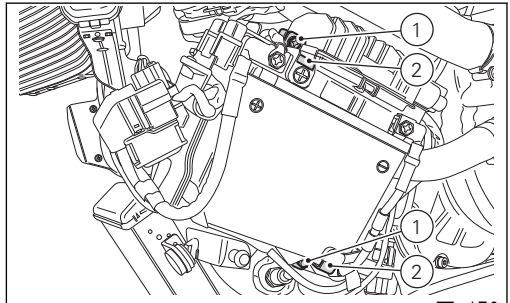


図 176

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。
チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離（A）を測定します。値は、A = 35 ～ 37 mm（1.38 ～ 1.46 in）でなければなりません。

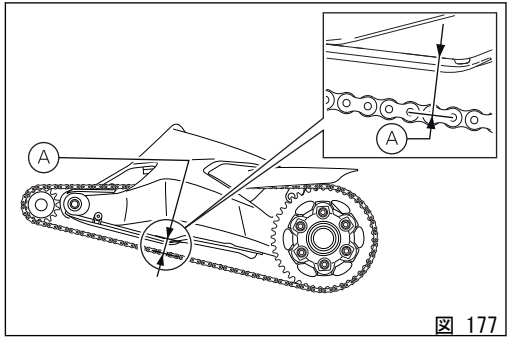


図 177

重要
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

重要
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

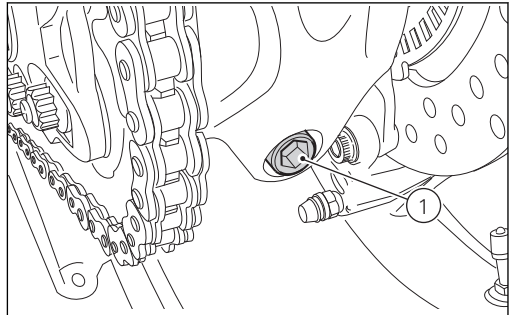


図 178

チェーンの潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ O リングガスケット付きチェーンが装着されています。
チェーンを洗浄する際は、ガスケットの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用してください。スチーム洗浄機等は使用しないでください。洗浄後はコンプレッションエアまたは吸収素材でチェーンを乾かし、SHELL Advance Chain または Advance Teflon Chain で全体を潤滑してください。

重要

規定以外の潤滑剤を塗布すると、チェーン、フロント/リアスプロケットに損傷を与えるおそれがあります。

電球の交換

ハイビームおよびロービームランプ

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 299 の"エレクトリカルシステム"の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。
取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
LED パーキングランプ (1)、ロービームランプ (2)、ハイビームランプ (3) の配置は (図 179) に記載しています。

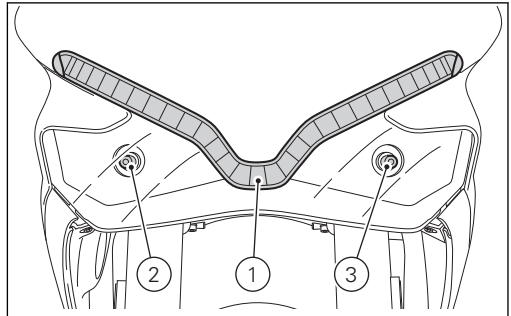


図 179

参考
レンズの部分は絶対に指で触れないでください。電球の光度が落ちる原因となります。

ハイビームランプ (3) を交換するには、ランプホルダー (5) からコネクター (4) を切り離します。
切れた電球ごとランプホルダーを反時計回りに回して引き出します。
同じ仕様の新しい電球と交換します。
取り付けはランプホルダー (5) を時計回りに回して、ヘッドライトボディに固定します。
コネクター (4) を再び接続します。
同様の手順でロービームランプ (2) を交換します。

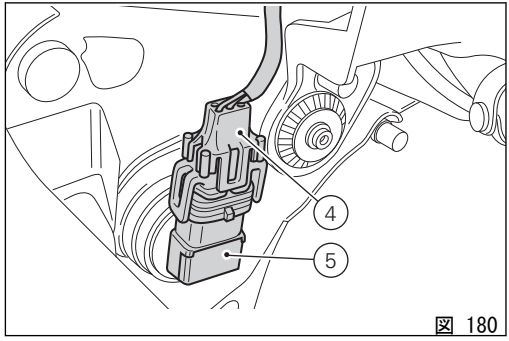


図 180

参考
パーキングランプの LED 電球の交換は、Ducati 正規サービスセンターで実施してください。

リアターンインジケーター

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 299 の″エレクトリカルシステム″の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。

重要

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

スクリュー (1) を緩めて外し、ターンインジケーターマウントからカバー (2) を取り外します。
電球は差し込み式になっています。引き抜くには押して反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。バルブカバーを取り付けます。この時、突起部をマウントのスリットに挿入してください。スクリュー (1) をねじ込みます。

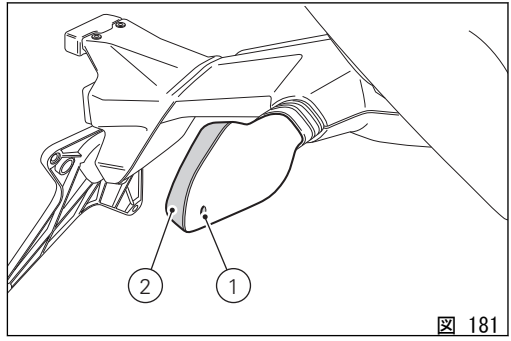


図 181

ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯します。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

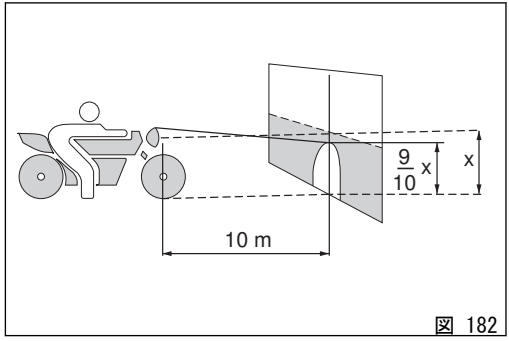


図 182

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

垂直方向のヘッドライト光軸調整を行うには、右ライトはスクリュー（1）を、左ライトはスクリュー（2）を操作します。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

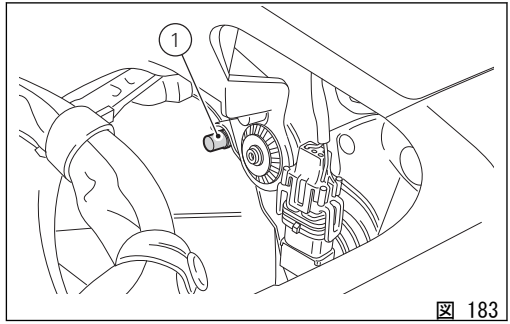


図 183

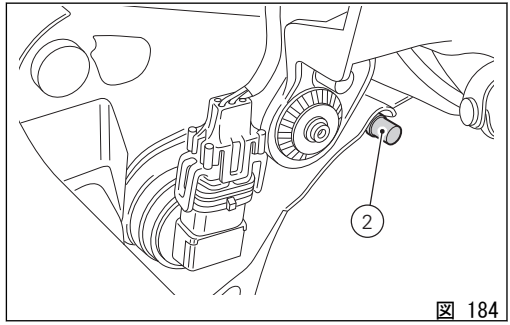


図 184

リアビューミラーの調整

ポイント（A）を押しながらミラーを手動で調整します。

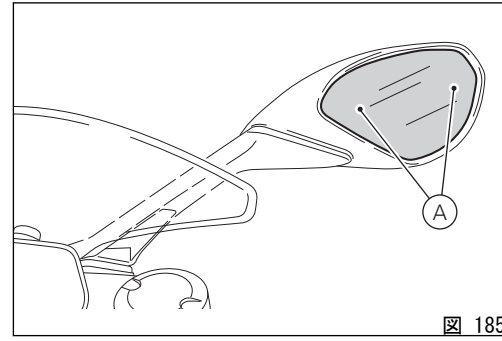


図 185

ミラーの回転軸に対して直角方向に力を加えた場合に限り、ミラーを正しく開閉することができます（図参照（図 186））。
図（図 187）は、誤ったミラーの開閉方向を示します。

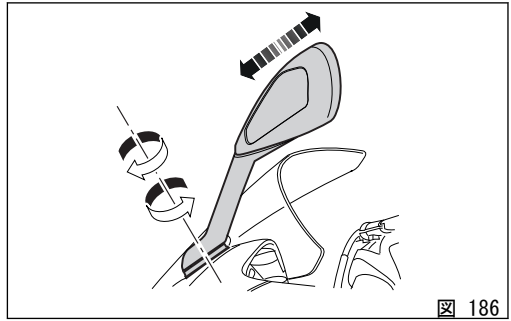


図 186

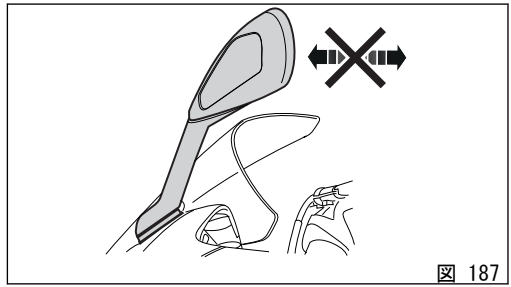


図 187

タイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.50 bar（2.55 kg/cm^2）（36 PSI）
リアタイヤ空気圧：
2.50 bar（2.55 kg/cm^2）（36 PSI）

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2〜0.3 bar（2.9〜4.35 PSI）上げてください。

タイヤの修理または交換
タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

タイヤの摩耗限度
タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所（S）の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

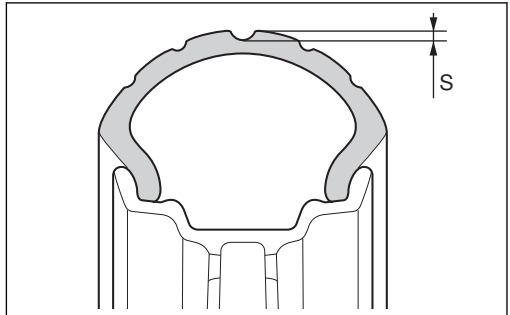


図 188

リアタイヤの交換

警告
タイヤの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを取り外してタイヤを交換するには、以下に記載のとおり 2 つのカバー (4) とサイレンサー (5) を取り外す必要があります。

警告
バイクを使用すると、エンジンおよびエキゾーストシステム部品は大変高温になります。またエンジンを止めた後も長時間熱い状態が続きます。これらの部品が十分に冷えてから、サイレンサーを取り外してください。取り外しを行う際は、必ず耐熱手袋を着用してください。

アッパーカバーとロアカバー (3) を固定するクリップ (2) に固定されている 2 本の TBEI スクリュー (1) を緩めて外します。
2 つのカバー (3) をサイレンサー (5) から抜き取ります。

スクリュー (12) を外してロアサイレンサーとアッパーサイレンサーのクランプ (4) を緩め、2 本のサイレンサー (5) を抜き取ります。

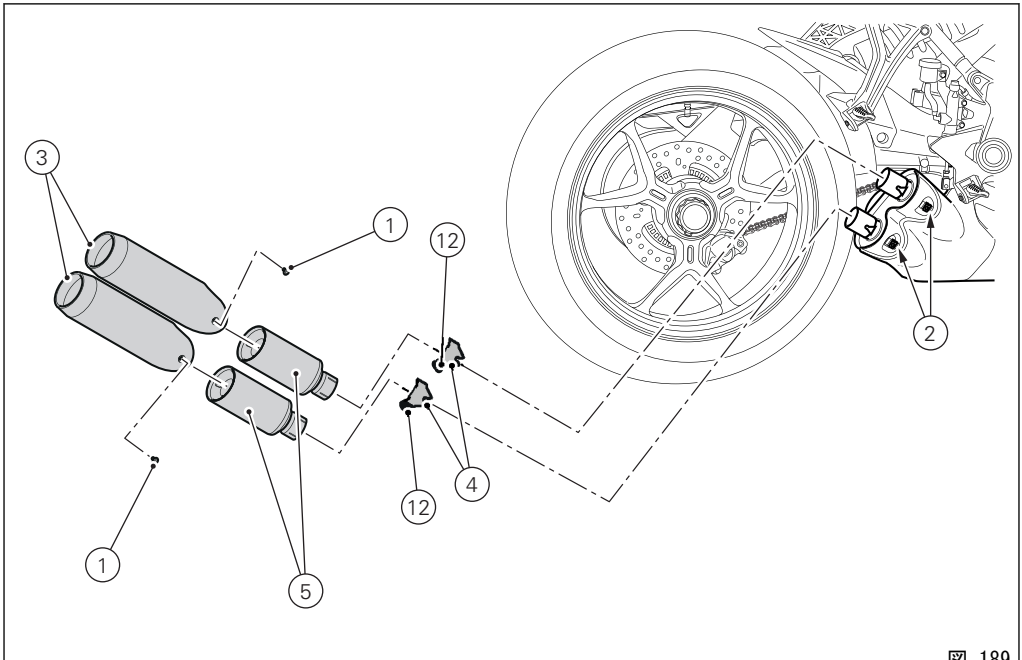


図 189

リアホイールの取り外し

車両をリアメンテナンススタンドに設置し、ギアを一速に入れます。
クリップ（6）を取り外します。ナット（7）を完全に緩めて外し、ワッシャー（8）とテーパースペーサー（9）を抜き取ります。
リアホイール（10）を車両から取り外します。

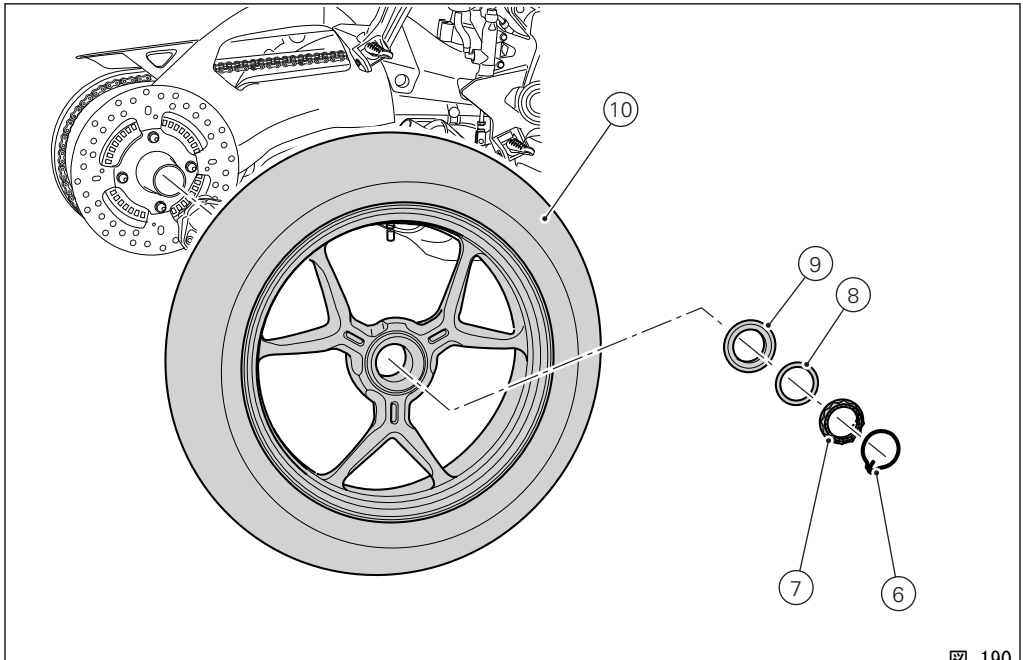


図 190

リアホイールおよびサイレンサーの取り付け

ホイールシャフトのネジ山先端を規定のグリースで潤滑します。
ホイール側の取り付け位置をピン（11）に組み付けてリアホイール（10）を取り付けます。
テーパースペーサー（9）とワッシャー（8）を挿入します。

参考
テーパースペーサーはテーパー側をホイールに向けて取り付けてください。

ナット（7）に規定のグリースを塗布し、ホイールシャフトに手でねじ込みます。
ナット（7）を 230 Nm ± 5 % のトルクで締め付けます。このとき、ナットに付いている溝のひとつがホイールシャフトの穴のひとつと揃っていることを確認してください。
クリップ（6）の先端をホイールシャフトにある穴のひとつに挿入してクリップを取り付けます。

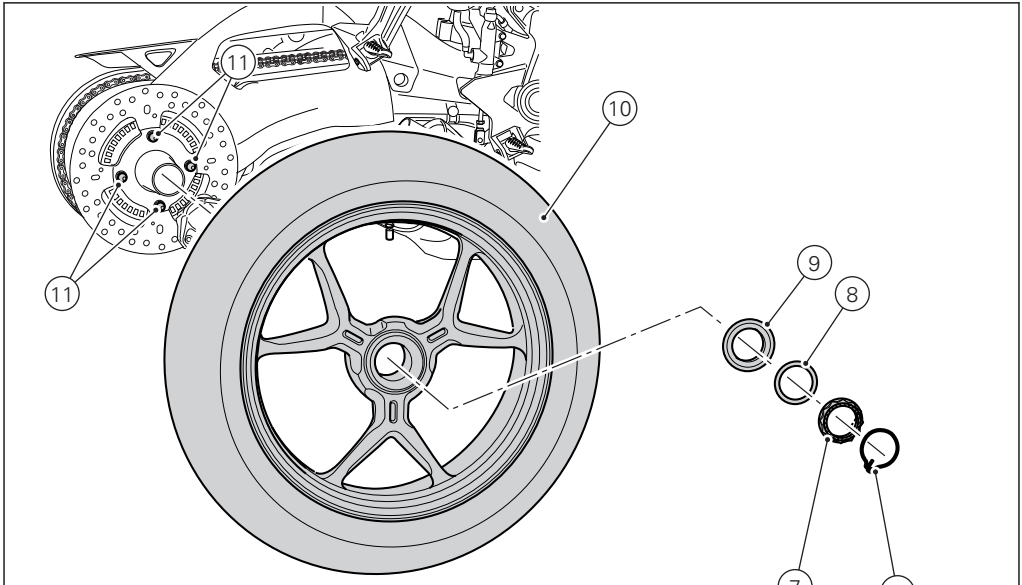


図 191

サイレンサーの取り付け

2 本のサイレンサー (5) をクランプ (4) と一緒に配置し、スクリュー (12) を 22 Nm ± 10% のトルクで締め付けます。
2 つのカバー (3) をサイレンサー (5) に取り付けます。
アッパーカバーとロアカバー (3) を固定するクリップ (2) に 2 本の TBEI スクリュー (1) を 5 Nm ± 10% のトルクで締め付けます。

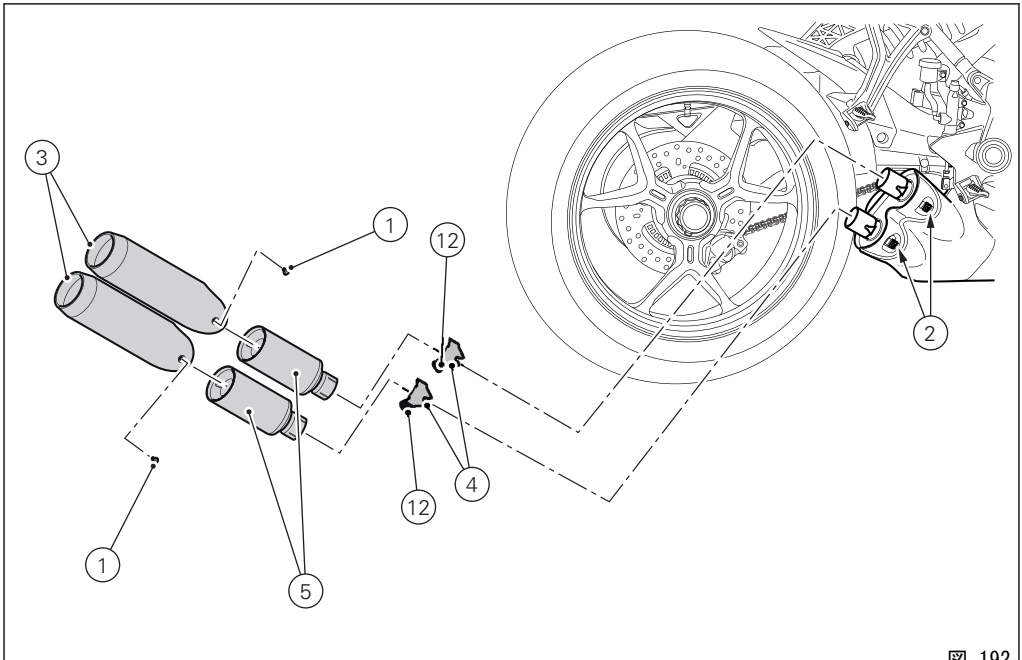


図 192

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓 (1) から見ることができます。
レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。
オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO：MA2、API：SM。フィラーキャップ (2) を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ (2) を取り付けます。

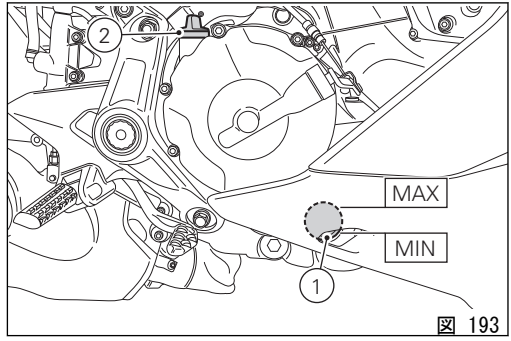


図 193

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SM
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API（米国での分類）および JASO（日本標準）は、オイルが有する特徴を表します。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

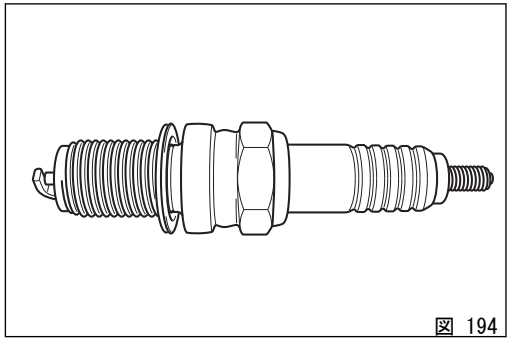


図 194

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露（くもり）を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統（チェーン、フロント/リアスプロケット等）に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1 ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換をおこなってください。
結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては（フランス、ドイツ、イギリス、スイス等）排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス

警告

このメンテナンスプログラムは公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。

警告

競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになられたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	**Km x1000**	**1**	**15**	**30**	**45**	**60**	**期間 (月)**
	マイル x1000	**0.6**	**9**	**18**	**27**	**36**	
DDS 2.0 による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●		●		●	-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
スパークプラグの交換			●	●	●	●	–
エアフィルターの清掃			●		●		–
エアフィルターの交換				●		●	–
ブレーキオイルレベル点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキオイルの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	–
ホイールハブベアリングの点検				●		●	–
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	–
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	–
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
ファイナルドライブ（チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット）、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	–
フロントフォークオイルの交換					●		–
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検（装備している場合）		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
クラッチレバーの遊び点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
クーラントレベルの点検、冷却回路の状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
電気安全装置の作動点検（サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	12
安全装置（ABS、DTC など）、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類（サービスブック）への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離（km、mi）または経過時間（月）のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム： お客様がおこなうメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000 マイル x1000 月	1 0.6 6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキオイルレベル点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

テクニカル仕様

重量

車両重量（燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠）: 210 kg (463 lb)
車両重量（液体類、バッテリーを含まない）: 184 kg (406 lb)
車両総重量（最大負荷）: 410 kg (904 lb)

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

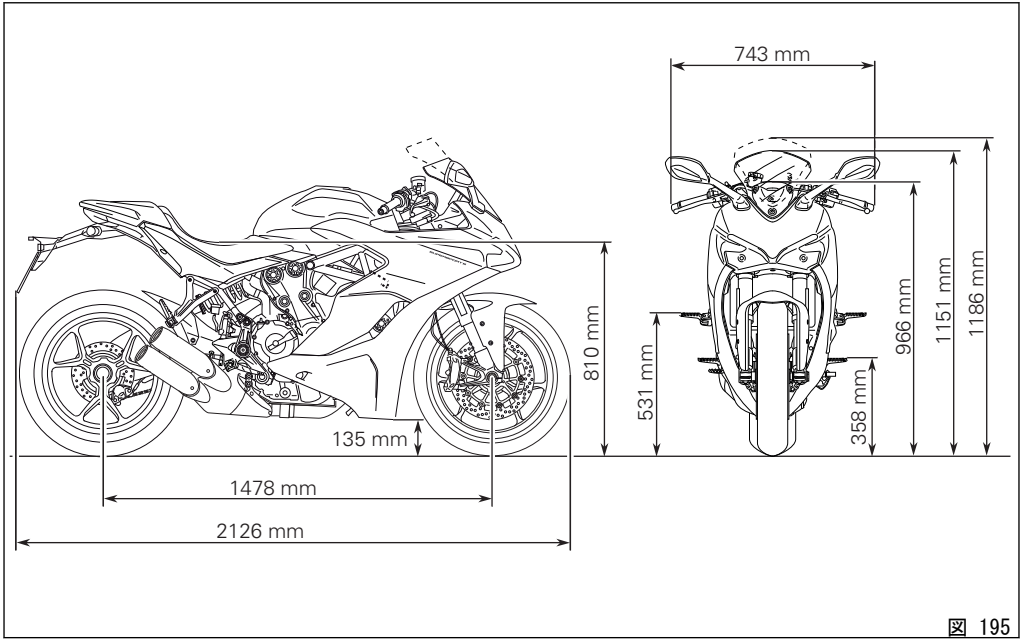

743 mm
810 mm
531 mm
966 mm
1151 mm
1186 mm
358 mm
135 mm
1478 mm
2126 mm

図 195

補給

補充	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットル (1.1 ガロン) を含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	16 リットル (4.23 ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルター	ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO : MA2、API : SM。	3.35 リットル (0.88 ガロン)
フロント/リアブレーキシステム	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク (Supersport)	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA	435 cc (26.5 cu in) (右レッグ) 435 cc (26.5 cu in) (左レッグ)
フロントフォーク (Supersport S)	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA	587.55 cc (35.9 cu in) (右レッグ) 587.55 cc (35.9 cu in) (左レッグ)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めずに使用)	2.3 リットル (0.61 ガロン)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

90° L 型、2 気筒 4 ストローク
ボア：
94 mm (3.7 in)
ストローク：
67.5 mm (2.7 in)
総排気量：
937 cm^3
圧縮比：
12.6±0.5

タイミングシステム

8 個のロッカーアーム、およびダブルオーバーヘッドカムシャフトで制御されるシリンダーごとに 4 バルブのデスモドロミックシステム。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング（ロア）ロッカーシム
4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

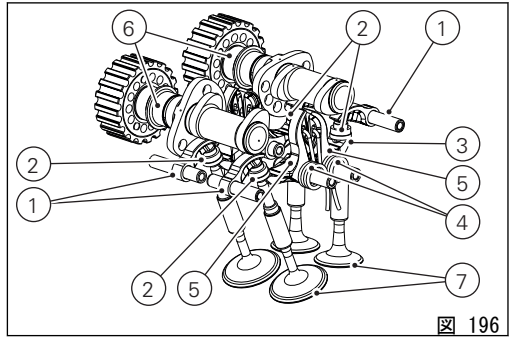


図 196

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK
タイプ：MAR9A-J

燃料供給

フルライドバイワイヤシステム搭載エレクトロニックインジェクションシステム
スロットルボディ直径：53 mm (2.1 in)
シリンダーごとのインジェクター数：1。
インジェクター孔数：4。
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

セミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレススチール
ハウジング材質：黒色アルミニウム
ディスク径：320 mm (12.6 in)
ディスク厚：4.5 mm (0.18 in)
右側ハンドルバーのレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO、モノブロック
ラジアルマウント
フロントブレーキタイプ：M4.32 (キャリパー径 32)
ブレーキパッド材質：TT 2182 FF

ブレーキポンプ：PR 18/21
ピストン数：4

リア

穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm (9.6 in)
ディスク厚：5 mm (0.2 in)
車体右側ペダルによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO 2 ピストン、フローティング、コーナリング ABS 標準装備
リアブレーキタイプ：P34e
ブレーキパッド材質：TOSHIBA TT 2172 HH
ブレーキポンプ：PS 11

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチ、機械式制御、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構付き
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：33/61
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/43
変速比：
1 速 15/37
2 速 17/30
3 速 20/28
4 速 22/26
5 速 23/24
6 速 24/23

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー：Regina (520 ZRDK)
リンク数：106

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

本車両の競技用仕様への変更をご希望のお客様には、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報をご提供することが可能です。Ducati

正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム
スチール製トレリスパイプフレーム、ヘッドに固定
スチール製トレリスパイプリアサブフレーム
キャスター角：24°
トレール：91 mm (3.6 in)
ステアリングアングル：左側 30° / 右側 30°
リーン角度：48°

ホイール
フロント
Y 型 3 本スポーク軽合金リム
寸法：3.50” x 17”

リア
Y 型 3 本スポーク軽合金リム
寸法：5.50” x 17”

タイヤ
フロント
Pirelli Diablo Rosso III
寸法：120/70 ZR17

リア
Pirelli Diablo Rosso III
寸法：180/55 ZR17

サスペンション
SuperSport

フロント
MARZOCCHI 製油圧式倒立フォーク、スプリングプリロード、コンプレッションダンピング、リバウンドダンピングの調整が可能。
インナーチューブ径：43 mm (1.7 in)
ホイールトラベル：130 mm (5.1 in)

リア
SACHS 製モノショックアブソーバー付きプログレッシブサスペンション。
ショックアブソーバーストローク：62.5 mm (2.46 in)

リアホイールトラベル：144 mm (5.7 in)

SuperSport S

フロント
ÖHLINS 製油圧式倒立フォーク、スプリングプリロード、コンプレッションダンピング、リバウンドダンピングの調整が可能。
インナーチューブ径：48 mm (1.9 in)
ホイールトラベル：130 mm (5.1 in)

リア
ÖHLINS 製モノショックアブソーバー付きプログレッシブサスペンション、フルアジャスタブル。
ショックアブソーバーストローク：62 mm (2.44 in)
リアホイールトラベル：144 mm (5.7 in)

エキゾーストシステム

レイアウト 2 in 1 膨張室式プリサイレンサー、ラムダセンサー 2 個および触媒 1 個付き。
ストレート多重構造。

カラーバリエーション

SuperSport

Ducati アニバーサリーレッド
ベースプライマー、アンチフレックスホワイト、部品番号： L0040652 (Lechler)
ベース ドゥカティレッド、部品番号：473.101 (PPG)
クリア、部品番号：228.880 (PPG)
レッドフレーム、ブラックホイール。

SuperSport S

Ducati アニバーサリーレッド
ベースプライマー、アンチフレックスホワイト、部品番号： L0040652 (Lechler)
ベース ドゥカティレッド、部品番号：473.101 (PPG)
クリア、部品番号：228.880 (PPG)
レッドフレーム、ブラックホイール。

スターホワイトシルク
ベース、部品番号：873.A001 (Palinal)
ベース、部品番号：928.T948 (Palinal)
クリアー 部品番号：96598 (LECHLER)
レッドフレーム、ブラックホイール。

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。
ヘッドランプ：
電球 H1 12V 55W（ロービームランプ） 1 個
電球 H1 12V 55W（ハイビームランプ） 1 個
パーキングランプ（DRL 搭載）タイプ：
LED 12V - 0.8W 14 個
テールライト：
LED 13.5V - 0.45W（オプション） 8 個
LED 13.5V - 2.8W（ストップランプ） 12 個
ナンバープレートライト：
LED 13.5V - 0.67W 3 個
ハンドルバースイッチ
フロントターンインジケーター：
LED 13.5V - 3.1W 1 個
リアターンインジケーター：
電球 R10W 12 V-10W 1 個
警告ホーン
ストップランプスイッチ
ナンバープレートランプ：LED
バッテリー 12 V - 10 Ah
システム電圧 12 V
ジェネレーター 14V-490W
電子レギュレーターは 30A ヒューズで保護されています。バッテリー（C、 図 199)下のスターターコンタクター上に配置されています。
スターターモーター：12V-0.7 kW

参考
電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換"を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックス内に 12 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 1 個あります。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。
左フロントヒューズボックス（A、 図 197）および右フロントヒューズボックス（B、 図 198）は、右側フロントに配置されています。
ヒューズの作業をするには右フェアリングを取り外します （ページ 244）。
ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

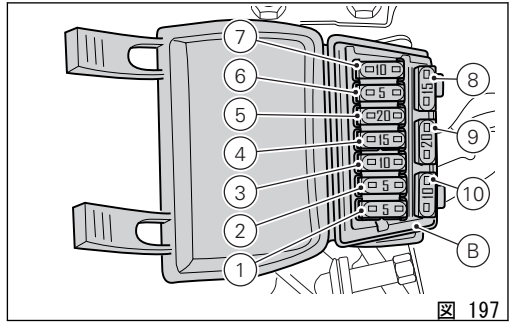


図 197

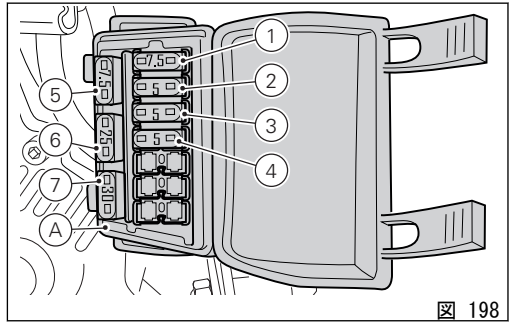


図 198

ヒューズボックス (A) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	オプショナルキー	7.5 A
2	アラーム	5 A
3	ストップ	5 A
4	診断	5 A
5	スペア	7.5 A
6	スペア	25 A
7	スペア	30 A

ヒューズボックス (B) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	ランプ	5 A
2	インストルメントパネル	15 A
3	キー 1	10 A
4	キー 2	15 A
5	リレー	20 A
6	コントロールユニット	5 A

ヒューズボックス (B) 凡例		
7	BBS	10 A
8	スペア	15 A
9	スペア	20 A
10	スペア	10 A

メインヒューズの作業をおこなうには、左フェアリングを取り外します（ページ 244）。
メインヒューズ（C、 図 199）はバッテリー近く、スターターモーター（D、 図 199）上に設置されています。ヒューズ（L、 図 199）はスペアです。ヒューズの作業をおこなうには、保護キャップ（E、 図 199）を取り外します。切れたヒューズは、インナーフィラメント（F、 図 200）が溶断しているかどうかで確認することができます。
スターターコンタクターの近くに 2 個のヒューズがあります。一方は 25 A のヒューズ（G）、もう一方は 10 A のヒューズ（H）です。

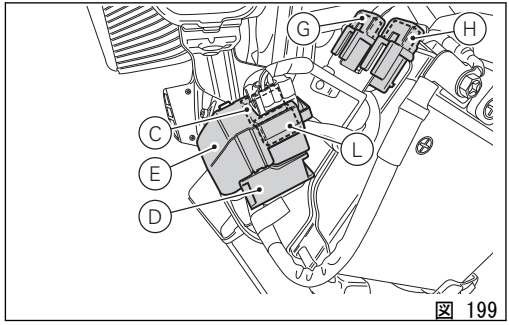


図 199

重要
回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告
表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

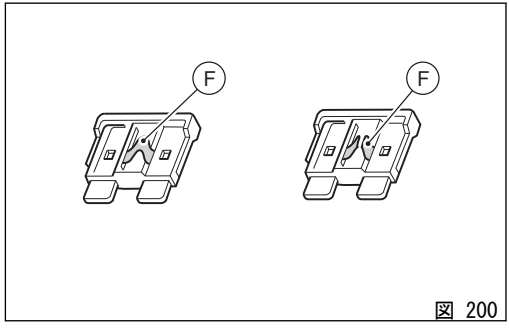


図 200

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1) イグニッションシステム（キーブロック）
2) 左ファン
3) 右ファン
4) ジェネレーター
5) レギュレーター
6) スターターコンタクター
7) バッテリー
8) 配線アース
9) エキゾーストバルブモーター
10) ABS コントロールユニット
11) フロントヒューズボックス
12) リアヒューズボックス
13) フロントスピードセンサー
14) リアスピードセンサー
15) 自己診断/DDA
16) 右リアターンインジケーター
17) テールライト
18) 左リアターンインジケーター
19) ナンバープレートランプ
20) BBS
21) アラーム（オプション）
22) ギアセンサー
23) サイドスタンドスイッチ
24) クラッチスイッチ
25) エンジン回転数/タイミングセンサー
26) MAP センサー
27) パージバルブ
28) エンジン温度
29) 外気温センサー（TIA）
30) ホリゾンタルエキゾーストラムダセンサー
31) バーチカルエキゾーストラムダセンサー
32) スロットルグリップポジションセンサー（APS）
33) ホリゾンタルインジェクター
34) バーチカルインジェクター
35) ポテンシオメーター/ライドバイワイヤモーター（TPS/ ETV）
36) セカンダリーエアアクチュエーター
37) ホリゾンタルコイル
38) ホリゾンタルコイル
39) フューエルポンプ
40) フューエルポンプリレー
41) インジェクション供給リレー
42) コントロールユニット A
43) コントロールユニット B
44) ハンドルバー左側スイッチ
45) 左フロントターンインジケーター
46) 警告ホーン
47) 気温センサー
48) インストルメントパネル

49) リアストップ
50) フロントストップ
51) 右フロントターンインジケーター
52) ヘッドライト
53) ハンドルバー右側スイッチ
54) スターターリレー
55) ABS ヒューズ
56) イモビライザー
57) スターターモーター
58) USB
59) Bluetooth (オプション)
60) 燃料レベル
61) オイル圧センサー
62) 追加ソケット
63) クイックシフト (Supersport S バージョンのみ)

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ
P ピンク

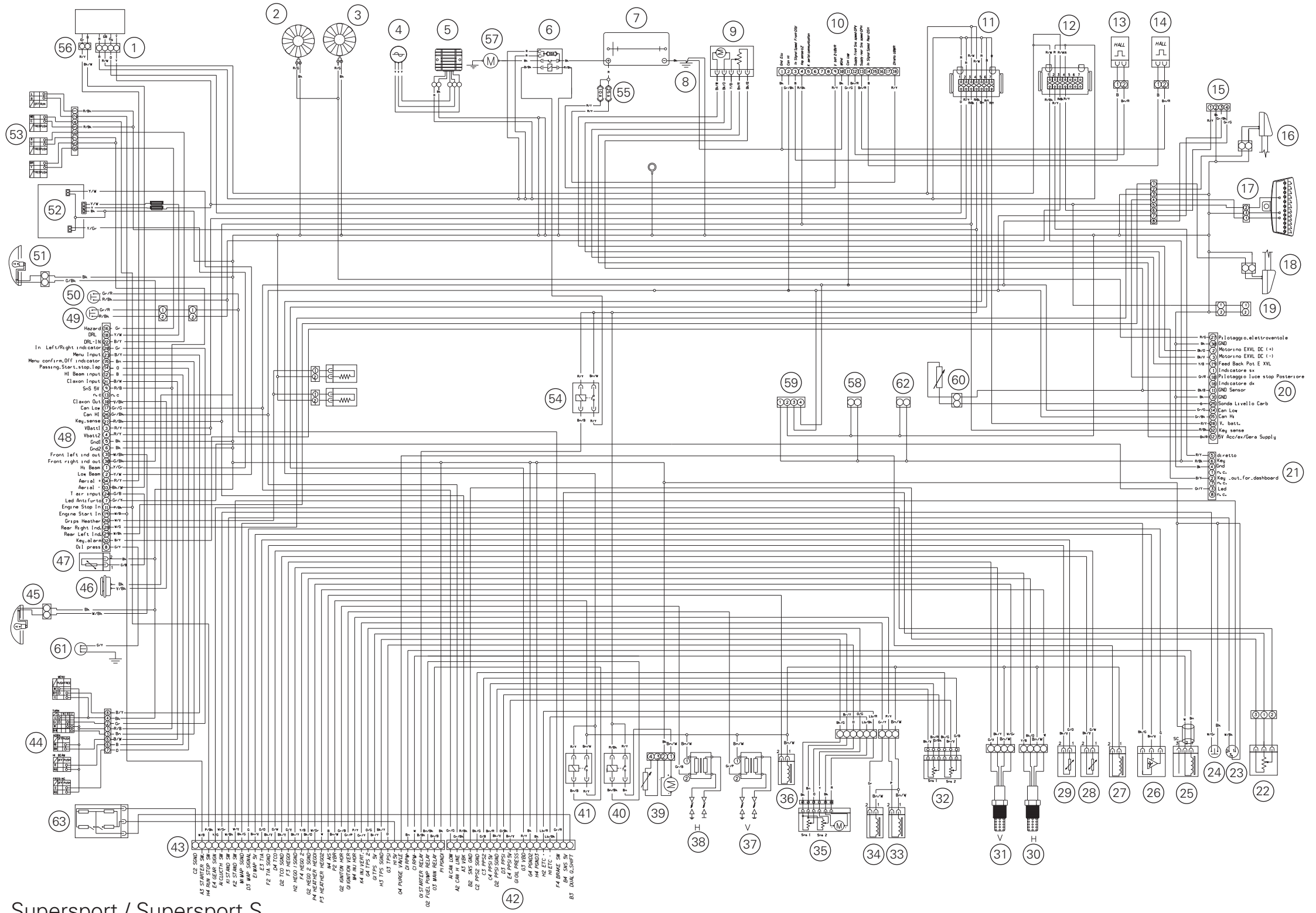
参考
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

KM	DUCATI SERVICE 名	総走行距離	日付
1,000			
15000			
30000			
45000			
60,000			

Stampato 02/2017 Cod. 913.7.338.1B



Supersport / Supersport S

cod. 913.7.338.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

Società a Socio Unico
Società soggetta all'attività di Direzione
e Coordinamento di AUDI AG

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG